

令和3年度

(第48期)

事業報告

作成日：令和4年5月18日

自 令和3年 04月 01日

至 令和4年 03月 31日

社会福祉法人 さつき会

1 全体総括

(1) はじめに

第5期中期経営3か年計画（2019～2021）の最終年の年である令和3年度の当法人事業活動は、長引くコロナ禍にあって、新型コロナウイルス感染症予防を最重点課題として取り組み、中期経営計画に掲げた4つの重点目標、1) 多様な人材採用・中核人材育成と安心・希望を持ち長く働く職場環境の整備、2) 業務の可視化による効率化と介護ロボット・ICT等の活用による業務の省力化、3) 利用者・家族・地域住民の健康・生きがいづくりと良質高度なチームケア（サービス）の提供、4) 適性利益の確保と内部統制の強化を柱に、年度事業計画にそって各事業所・委員会等の活動を中心に積極的に実施され、概ね順調に遂行された。以下にその概要を報告する。

(2) 法人経営

社会福祉法人さつき会は、法人設立後、これまで48年間にわたり、「地域の福祉ニーズに柔軟に応える」ことを使命として、「利用者本位」の原則の下、社会福祉事業を経営してきた。

本年度は、感染症対策、外国人介護人材の受入と定着支援、介護記録ICT化に向けた基盤整備、ケアアシスタント制度の運用、住民参加型総合事業の推進、在宅・施設サービス両部門の中重度者に対する重度化対応・重症化予防、職員のリフレッシュ休暇推進、介護職員処遇改善支援補助金等を活用した賃金改善を重点的に取り組んだ。結果は、職員の定着率の向上、入居系サービスの稼働率安定、居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護・訪問介護の利用者増加により収益・利益とも目標達成することができた。また、常勤介護職員の離職率は4.3%（前期7.8%）となり、北海道平均（20.0%）を大きく下回り、これまでの「人材の確保と育成」の取り組みの成果が持続できている。

一方、積み残した課題も多く、介護職員・調理員の慢性的な欠員（法的基準は遵守）、キャリアパスの改良、介護人材確保のための企業説明会開催は、いずれも未着手・不十分な結果にとどまった為、次年度の重点課題として取り組む所存である。

(3) 施設運営

本年度も昨年度同様、新型コロナの感染予防対策と生活の質（QOL）の維持の両方を求められ、面会の制限、アクティビティ・レクリエーションの制約、職員の厳しい行動制限が強いられた一年であった。

具体的には、オンライン面会の実施、外出自粛下における新たなアクティビティ活動、基礎介護研修のシラバス作成、見守り機器（介護ロボット）の環境整備などに取り組んだ。

一方、職員の基本的な業務姿勢・対応への苦情、職員の不注意による転倒・転落事故等、災害時の業務継続計画の未作成など、安全対策と業務の標準化への組織的対応が不十分であるが故の出来事と反省し、次年度の最重点課題となった。

来年度は第6期中期経営3か年計画の初年度の年。中期経営計画に基づき、「高齢者の自立した尊厳ある人間らしい生活を守る」ための福祉サービスの安定的・継続的に提供と、利用者・職員・組織がともに満足できる施設運営に努める。

2 部門別事業実績（概要）

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額(千円)
法人本部	理事会・評議員会の運営 内部監査の実施 法人全体の企画・調整 各施設・事業所の経営及び統括 経営企画に関する諸会議の運営 許認可・申請事務 特命事項 職員の教育・研修 実習、研修等の受入・調整 デイ・なごみ・えんの給食管理・実務 ボランティア・家族会の運営 地域包括支援センターへの人材派遣	—	1 (6)	理事会 6回(5) 評議員会 1回(1) 監事監査 4回(4) 経営改善会議 39回(41) 全体会議・研修 2回(中止) 感染症研修 各事業所 実習受入(実件数) 7件(3) (延べ人数) 213名(94) 健康料理教室 中止(中止) 地域食堂 中止(中止)	△20,287 (△20,220)
総務課	総務・人事・会計の管理・実務 施設運営の企画 施設設備の維持管理 施設内の衛生管理 他部署に属さない業務	—	9	施設整備 暖房ポンプ取替工事等 5件(18) 総事業費 1,359(29,114) 器具備品費 介護ロボット等 4件(12) 総事業費 25,268(7,761)	—
事業者福祉施設 介護老人つきあい施設	要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	50名	38	新規入居者 男2名(1)、女8名(5) 計 10名(6) 退居者 男5名(2)、女5名(4) 計 10名(6) 総延べ入院日数 214日(436日) ベッド稼働率 98.6%(97.4%) 入居待機者 34名(40)	26,773 (25,909)
活介護事業 短期入所生	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしよりも介護されている家族が、介護疲れ、病気、事故などにより、一時的に介護することができなくなった場合に、一定期間そのおとしよりに特別養護老人ホームに入居していただき、家族の介護負担の軽減に努めた。	10名	10名	実利用者数 40名(28) 実件数 185件(212) 延利用者数 3,010名(3,293) 一日平均 8.2名(9.0) ベッド稼働率 82.5%(90.2%)	3,259 (6,324) 生きがいショート委託費 749 (568)
通所介護事業 ねびね	在宅のねたきり、認知症及び虚弱等の要介護等認定者に対して、1)自立生活の助長、2)心身機能の維持向上、3)社会的孤立感の解消、4)家族の介護負担の軽減を図るために通所して頂き、入浴・食事・送迎サービス、趣味・レクリエーション活動、健康チェック、養護、日常生活の相談・助言を行うことで要介護等状態の悪化予防に努めた。	30名	13	開催日数 310日(310) 実利用者数(月平均) 92.8名(102.4) 延利用者数 6,963名(7,419) 生きがいデイ 0(0) 新規利用者 36名(41) 週6日開館、1日平均 22.5名(23.9) 稼働率 74.9%(79.8%)	12,011 (16,224)
居宅介護支援事業	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしよりも「住み慣れた自宅で最後まで暮らし続けることができるよう」、本人及び家族のニーズに即したケアプランを作成するとともに、ケアプランに基づく各種サービスや社会資源が確保・活用されるよう事業者・関係機関との連絡調整に努めた。	—	5	月平均利用者数 介護 115.8名(114.8) 予防 66.5名(55.0) 計 182.3名(169.8) 新規利用者 87名(89) 停止者 68名(41) 入院者延べ人数 230名(191)	1,091 (1,055)

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額(千円)
共同生活介護事業 認知症対応型	認知症により自宅での生活が困難な方に対して、グループホームにおいて「自立と尊厳を支え」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう「利用者中心」の生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	18名	19	新規入居者 男2名(1)、女3名(3) 計5名(4) 退居者 男2名(1)、女4名(3) 計6名(3) 総延べ入院日数 127日(67日) ベッド稼働率 97.0%(98.5%) 入居待機者 17名(16)	7,290 (△2,672)
小規模多機能型住宅介護事業 なごみの家	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らし続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」や一時的な「泊まり」を組み合わせて、継続的・総合的なケアの提供に努めた。	(通い) 15名 (泊まり) 6名 (訪問) 一名	12	開催日数 365日(365) 平均登録者数 24.3名(22.7) 実利用者数 28名(24) 延利用者数 3,803名(4,449) 新規利用者 11名(6) 停止者 5名(10) 1日平均 10.4名(13.0) 稼働率 69.6%(82.8%) 実利用者数 14名(13) 延利用者数 1,238名(1,630) 1日平均 3.4名(5.2) 稼働率 56.5%(75.5%) 実利用者数 19名(18) 延利用者数 4,591名(3,834) 1日平均 12.6名(11.2)	1,864 (7,985)
介護老人福祉施設 三ツツ型地域密着型	鷹栖町在住の要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	20名	23	新規入居者 男3名(0)、女2名(3) 計5名(4) 退居者 男3名(0)、女2名(3) 計5名(3) 総延べ入院日数 106日(28日) ベッド稼働率 97.7%(99.4%) 入居待機者 22名(17)	6,358 (11,029)
小規模多機能型住宅介護事業 ぬくもりの家えん	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らし続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」や一時的な「泊まり」を組み合わせて、継続的・総合的なケアの提供に努めた。	(通い) 15名 (泊まり) 6名 (訪問) 一名	10	開催日数 365日(365) 平均登録者数 24.8名(24.0) 実利用者数 29名(35) 延利用者数 4,348名(4,427) 新規利用者 6名(10) 停止者 5名(10) 1日平均 11.9名(12.1) 稼働率 77.9%(79.6%) 実利用者数 16名(25) 延利用者数 1,413名(1,484) 1日平均 3.9名(4.1) 稼働率 62.9%(66.7%) 実利用者数 15名(17) 延利用者数 4,523名(4,415) 1日平均 12.4名(12.1)	13,655 (5,490)

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額(千円)
サービス付き高齢者向け 住宅事業ぬくもりの家たかほ	主に虚弱・要支援等の高齢者の早めの住み替えニーズに応じた安心・安全な住宅サービス・相談援助サービス等を提供し、出来る限り長く住み慣れた地域社会で生活を続けていくことの支援に努めた。	18名	10	新規入居者 男3名(1)、女6名(2) 計9名 退居者 男2名(2)、女5名(2) 計7名 月平均入居者数 17.6名 稼働率 97.7%(94.9) 総延べ入院日数 172日(73) 入居待機者(令和4年度3月末) 4名(6)	△1,594 (△1,454)
訪問介護事業	在宅で虚弱、ねたきり、認知症のおとしより等の要介護等認定者および難病患者の家庭等に対して、自立とより質の高い在宅生活の継続が図られるよう、生活援助、身体介護、相談・助言を中心とする生活支援サービスの提供に努めた。	—	12	派遣世帯数 162(132) 訪問延回数 10,599回(10,913) 活動延時間 8,938時間(8,708) 内、生きがいヘルプ 0(0) 内、難病疾患ヘルプ 0(0) 新規利用者 55名(31)	10,749 (11,012) 生きがいヘルプ委託費 0 (0) 難病患者ヘルプ委託費 0 (0)
フィットネス俱楽部コレカラ 総合事業	在宅の主に一般高齢者を対象に、虚弱化・要介護の予防を目的に、フィットネス俱楽部コレカラの運営、介護予防体操(あつたかすりハビリ体操)の普及、介護予防体操指導士(あつたかすりハビリ体操指導士)の養成、介護予防サポーター(コレカラサポーター)の養成、住民主体の通いの場の立ち上げ、介護予防運動教室の運営に努めた。	—	2	開催日数 231日(268) 登録者数 414名(408) 総延べ利用人数 4,680名 (4,735) 各教室の内訳 サーキット 2,684名 レッドコード教室 1,996名 月平均利用者数 402名(484) 1日平均利用者数 21.6名(17.6) 新規利用者 13名(15) 停止者(利用0回) 263名(259)	
移送サービス事業	心身の障がい・病気により、ねたきりや車いす上で生活されている方が、通院等の理由により外出しなければならなく、一般的の車両への乗降が難しい時に、さつき苑に配置されている寝台、若しくは車いすのまま乗り込むことができる専用車両で、自宅から目的地までの送迎を行い、利用者の外出支援に努めた。	—	—	実利用者数 6件(2) 延利用件数 19件(4) (内訳…町内 4件、町外 15件)	130 (98) 委託費収入のみ

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額(千円)
(生きがいデイサービス) 介護予防事業	在宅の介護認定非該当の虚弱なおとしよりに対して、1)自立生活の助長、2)心身機能の維持向上、3)社会的孤立感の解消を図るため、デイセンター(はびねす)に通所して頂き、入浴・食事・送迎サービス、趣味・レク活動、健康チェック、養護等のサービスを提供し、要介護状態にならないように努めた。	—	—	実利用者数 延利用者数 新規利用者 0名(0) 0名(0) 0名(0)	0 (0) 委託費収入のみ

※1 職員数に施設長は含めず

※2 実績及びサービス活動増減差額欄の（ ）内は前年度実績

令和3年度 法人本部事業報告

1. 総括

令和3年度は「多様な人材の確保と育成」、「介護記録のデジタル化」、「おとしよりと職員の笑顔が増える暮らし・楽しみづくり」を重点目標として取り組む。

1つ目の「多様な人材確保と育成」では、法人では初めてとなる外国人スタッフの採用に伴いサポート体制を充実させた。採用前には現任職員にむけた研修を行い、外国人人材を受入れる目的と具体的なサポート・心構えについて共有した。外国人スタッフの採用時研修では、外国人スタッフがわかりやすく学べるようにテキストを編纂した。また、法人全体でメンバーを募り、定着サポートを目的とした『バディファミリープロジェクト（略称 B-pro）』を発足。一緒に買い物に行ったり、交流会を企画し交流したりと仲間作りや私生活のサポートを中心的に行っている。

基礎介護力向上研修の開催については、昨年、コロナ感染症のまん延防止策により延期や中止をした経緯を踏まえ、ZOOM を活用したオンライン研修方式を導入。全日程予定どおり行うことができた。オンラインによる研修は、感染症対策のほか時間に制約のある職員や休日の職員も参加しやすい環境となり、例年以上の職員が受講することができた。社会福祉士の実習については、法人の強みである事業所間の連携・協力によりプログラムを準備。受入れることができた。充実した実習プログラムに学生と担当教員より高い評価をいただいた。介護支援専門員の資格取得に向け法人内の有資格者による特別受験対策講座を開催。全国平均の合格率を上回り5名が合格した。人材育成について、新たな取り組みのチャレンジは一定の成果を上げることができた。

2つ目は、「介護のデジタル化」である。手書きによる記録や独自様式のアセスメントケアプランの運用を見直し、タブレットやパソコンを利用した効率的な記録とケアプランとの連携、請求管理を一元管理する介護システムを導入。あわせてパソコンとタブレットを増台し運用環境を整備した。職員が理解・操作できるよう、合計30回以上の導入勉強会を開催した。導入は順調に進み、導入から1ヶ月後には全ての職員が基本操作を習得することができた。今後これらのシステムを活用することで業務を効率化しサービスの質の向上を目指したい。

昨年度に導入した移乗支援ロボットや見守りセンサーでは、介護の省力化が図られ職員の腰痛対策や休憩時間の確保に成果がでている。ICT・介護ロボット化は法人の取り組みの柱となる。今年度から立ち上げた『ICTプロジェクトチーム（略称 I-pro）』が中心となり、さらなるサービスの質の向上と職員の業務負担の軽減を図るべく、情報収集・導入サポート・運用評価など活動していく予定である。

3つ目は、「おとしよりと職員の笑顔が増える暮らし・楽しみづくり」である。令和2年からつづくコロナ禍のなか、入居者・利用者への感染予防のため法人職員一丸となり、公私にわたり感染の予防に努めてきた。また、まん延防止期間中には、法人独自で抗原検査を実施。各地の高齢者事業所でクラスターが発生するなか、クラスター発生を予防することができた。

介護人材確保では、コロナ禍において対面による職場合同説明会が困難となり、オンラインによる職場説明会を実施。新規学卒者の獲得は厳しさを増しており令和4年度の採用は0名であった。次年度は3名の外国人技能実習生の採用を予定。受入に向けての指導資格の取得や宿舎の整備など準備を進めた。

法人が掲げる業績管理目標は、サ高住たかほを除いた全事業所で達成。法人全体の事業活動収入は743,170千円（当初予算726,199千円）、事業活動収支差額99,308千円（当初予算54,558千円）、サービス活動増減差額は58,853千円（前年度65,945千円）、となり、過去最高の収益・収支差額を得ることができた。

2. 次年度に向けて

令和4年度は第6期中期経営3か年計画の初年度となる。中期経営計画の具体的には、今般の介護人材の枯渇が増悪化する中、外国人定着サポートチームの活動、ICT活用による業務効率化と生産性向上、ケアアシstantの育成・定着支援、チームワーク向上のためのスタッフ研修、介護福祉士・社会福祉士養成校からの積極的な実習受入を通じて、次の時代を担う人材育成に務める。

処遇改善においては、高年齢者・子育て世代の職員がより働きやすい職場環境の整備、全事業所において7連休以上の休暇取得、キャリアパスの改良を図る。さらに、3つの処遇改善加算・補助金を活用し、働きやすく働きがいのある職場づくりに取り組む。

また、感染症・自然災害発生時の業務継続計画策定、一般高齢者の健康寿命延伸のニーズに応えるため、総合事業（フィットネス俱楽部）・任意事業（地域交流スペース・地域食堂）の事業を推進し、鷹栖町における住民参加型地域包括ケア体制の拡充を図る。

さらに、全事業所において適性利益の確保を図るよう、経営改善会議及び財政健全化推進チーム会議を中心に課題共有、改善策の立案、実施状況の確認の徹底を図る。

3. 運営状況・統計資料

(1) 理事会の開催状況

回	期日	議決事項等	出席者
1	3.5.29 (水) 書面審査	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 社会福祉法人さつき会評議員選任・解任委員会開催結果について 報告第3号 社会福祉法人さつき会令和2年度（2020年度）指導監査結果について 議案第1号 令和2年度経過報告並びに事業報告・業績報告について 議案第2号 令和2年度決算報告について 議案第3号 監事監査結果報告について	理事 6名
2	3.6.24 (木) 18:20 ~ 18:50	報告第1号 次期役員の選任について 議案第1号 理事長及び常務理事の選任について	理事 5名 監事 2名
3	3.8.28(土) 書面審査	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和3年度第1四半期経過報告について 報告第3号 令和3年度第1四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査結果報告について 議案第1号 令和3年度介護職員特定処遇改善加算手当について 議案第2号 社会福祉法人さつき会における苦情解決に関する規程制定について 議案第3号 社会福祉法人さつき会における苦情解決に関する規程第三者委員の選定について 議案第4号 介護記録ソフト及び介護ロボット（移乗支援ロボット）の整備計画について	理事 6名
4	3.11.27 (土) 書面審査	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和3年度第2四半期経過報告について 報告第3号 令和3年度第2四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査結果報告について	理事 6名

回	期 日	議決事項等	出席者
5	4.2.19(土) 14:58 16:45 ~	報告第 1 号 理事長専決事項について 報告第 2 号 令和 3 年度第 3 四半期経過報告について 報告第 3 号 令和 3 年度第 3 四半期業績・収支報告について 報告第 4 号 監事監査結果報告について 議案第 1 号 令和 3 年度第 1 次補正予算(案)について 議案第 2 号 令和 4 年度介護職員処遇改善支援手当の支給について 議案第 3 号 令和 4 年度介護職員特別処遇改善支援手当の支給について 議案第 4 号 給与規程の一部改定について（管理職手当の変更） 議案第 5 号 就業規則（限定職員）（案）の制定について	理事 5 名 監事 2 名
6	4.3.19(土) 15:00 16:30 ~	報告第 1 号 理事長専決事項について 議案第 1 号 積立金計上について 議案第 2 号 新型コロナウイルス感染症対策支援金の支給について 議案第 3 号 令和 3 年度第 2 次補正予算（案）について 議案第 4 号 第 5 次中期経営 3 か年計画総括及び第 6 次中期計画 3 か年計画（案）について 議案第 5 号 令和 4 年度経営（事業）計画並びに当初予算（案）について 議案第 6 号 就業規則（多機能型グループホーム鷹栖なごみの家）の一部改正（案）について 議案第 7 号 給与規程の一部改正（案）について 議案第 8 号 就業規則（限定正職員）の再提案について 議案第 9 号 評議員会の招集について	理事 5 名 監事 2 名

（2）評議員会の開催状況

回	期 日	議決事項等	出席者
1	3.6.23(水) 14:55 15:55 ~	議案第 1 号 次期役員の選任について 議案第 1 号 令和 2 年度事業報告について 議案第 2 号 令和 2 年度決算報告について（監事監査報告含む） 議案第 3 号 令和 3 年度経営（事業）計画並びに当初予算（案）について	評議員 5 名

(3) 監査等の実施状況

① 監事監査

回	期 日	主な監査実施項目	監査実施者
1	3.5.20(木) 14:30 ~ 15:30	令和2年度経過報告並びに事業報告について 令和2年度業績報告並びに決算報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名
2	2.8.20(金) 14:00 ~ 14:45	令和3年度度第1四半期業績報告について 令和3年度第1四半期収支報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名
3	3.11.19(金) 14:00 ~ 14:45	令和3年度第2四半期業績報告について 令和3年度第2四半期収支状況報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名
4	4.2.10(木) 14:00 ~ 15:00	令和3年度第3四半期業績報告について 令和3年度第3四半期収支状況報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名

(4) 資格保有・取得状況

	介護 福祉士	介護支援 専門員	看護師	准看護師	保健師	管 理 栄養士	理 学 療法士	社会福祉士 (精神保健 福祉士)	2級 ヘルパー (介護職 員初任者 研修含 む)	社会 福祉 主事
正職員	56	25	6	1	2	2	2	12【3】	23	23
パート 職 員	15	2	4	2	0	1	0	1	29	0
計	71	27	10	3	2	3	2	13【3】	52	23

注：令和4年3月31日現在の在籍者 精神保健福祉士は【】で表示

(5) 諸会議

① 経営改善会議

開催日時	目的	出席者	開催実績
毎週水曜日 10:10～11:00	安定的かつ効率的な施設・事業所経営を図るため、経営・運営上における課題や重要事項について協議・決議することを目的とする。	施設長 各部長 各課長	39回

②財政健全化推進チーム・地域包括ケア推進チーム研究会

開催日時	目的	出席者	開催実績
毎月第4水曜日 13:00～16:00	・収入と支出のバランスが取れた安定的な財政構造の実現を図るために必要な推進(計画策定・実行・評価)を行う。 ・新たな地域ケア(地域包括ケア)に取り組むために必要な事業所の運営改善を図る。	施設長 各部長 各課長 各主任 介護支援専門員等	9回

③ 職員全体研修・会議

開催日時	目的	出席者	開催実績
1. 全体研修 新型コロナウイルス感染予防対策のため各事業所単位実施	感染症予防を目的とした研修を開催した。 【実施内容】 () 内は対象者・講師 ・感染対策研修会(対象:全職員～各事業所単位で実施) (講師:谷水さおり・藤川朋恵・三國谷佐千恵))		
2. 全体会議	法人として職員全体に伝達すべき重要事項がある場合に適時開催する。 開催日時 令和3年7月15日(木) 29日(木) 18:00～19:10 開催場所 サンホールはぴねす 1階大ホール 開催内容(2回とも同じ内容) 1 令和3年度経営(事業)計画について:施設長より 2 介護職員待遇改善について:施設長より 3 総務課長から ・就業規則の変更 ・資格取得への支援 ・働き方改革について ・人材紹介謝礼規程について ・交通安全について ・非常災害対策について 出席者:2回合計 100名	全職員	全体研修 各事業所 1回 全体会議 2回

④サービス向上発表会開催内容

令和2年度:令和3年5月14日(金) 出席者:20名

○ 発表内容

申込事業所	発表テーマ	発表者	結果
鷹栖町在宅介護支援センターさつき苑	もし、個別支援のケアマネジャーが災害時に自らの「マネジメント」を行ったら ～防災対策の取り組みから出た思わぬ副産物を交えて～	ケアマネジャー 山本 正広	第2位
多機能型グループホーム鷹栖なごみの家	脱・マンネリ! ～楽しみアル生活をおくるために～	ケアスタッフ 津野 良江 伊藤 有紀	奨励賞
鷹栖町デイサービスセンターはぴねす	ハイクオリティ ハンドメイド	主任 成田 直美	奨励賞
特別養護老人ホーム 鷹栖さつき苑	あたりまえの生活を取り戻す ～食べて味わうこと、ゆっくり眠ること～	リーダー 角谷 美紀	第3位
小規模多機能ホーム ぬくもりの家えん	共に ～本人の想いを守るケアを目指して～	リーダー 林 由美 ケアスタッフ 寒河江ゆかり	最優秀賞

令和3年度:令和4年3月9日(水) 会場出席者:22名 ※生ライブ発信

○発表内容

申込事業所	発表テーマ	発表者	結果
特別養護法人ホーム ぬくもりの家えん	自分らしく、人生を歩んでいけるように。 ～そのためにわたしたちができること～	ケアスタッフ 四ツ家 美歩 リーダー 佐久間 勝	奨励賞
小規模多機能ホーム 鷹栖なごみの家	自分らしくいるために	ケアスタッフ 高橋 菜緒	奨励賞
鷹栖町介護センター さつき苑	さつき会的新ケアスタイル ～変わっていい! 変わればいい! 変えていい! ～	主任 佐々木 恵子	第2位
特別養護老人ホーム 鷹栖さつき苑	オムツ改革	ケアスタッフ 伊藤 玲	第3位
鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑	訪問介護における自立支援のための援助を目指して	ホームヘルパー 深瀬 千津 管理者 米澤 美絵	最優秀賞

(6) 広報誌の発行（町内全戸配布）

発行回数	発行部数
年 6 回発行	各 3, 000 部発行

(7) 実習生等受入状況

実習日程	人数	実習名	実習生所属学校等
6月21日～7月16日	1	介護実習（3年生）（延27日）	北海道剣淵高等学校 さつき苑
7月1日～7月16日 8月23日～8月27日	1	介護実習（2年生）（延10日） 介護実習（2年生）（延5日）短縮	北海道剣淵高等学校
8月10日～9月18日	2	相談援助実習（延29日×2名）	旭川大学保健福祉学部
8月23日～8月27日	1	介護実習（2年生）（延5日）短縮	北海道剣淵高等学校
8月23日～9月4日	2	第一期介護実習（1年生）（延12日×2名）	旭川福祉専門学校
9月14日～9月15日	18	初任者研修介護実習 (延べ2日×18名)	北海道鷹栖高等学校
11月22日～12月18日	2	第二期介護実習（1年生）（延24日×2名）	旭川福祉専門学校
延べ人数	213		

(8) 苑外研修参加状況

月	日	研修・会議名	開催地	参加者
4				
5	14	福祉有償運送運転者講習・セダン等運転者講習受講	札幌市	井谷
	22～23	第 72 回北海道理学療法士学術大会	オンライン	大河原
6				
7	14	高齢者ケア研究会 アクティビティワーク ショップ「ちぎってアート(ちぎり)」	オンライン	谷
	19	病院・福祉建築基礎講座 2021	オンライン	施設長
	20	北海道介護支援専門員更新研修	オンライン	佐藤(晴)
	27～28	防火管理新規講習	旭川市	能登
8	12	令和 3 年度 道北地区老人福祉施設協議会 事務職員研修会	オンライン	木幡・高橋・佐藤・舟根
	30	令和 3 年度生活支援コーディネーター養成研修	オンライン	能登
9	6	技能実習責任者講習	旭川市	尾上
	8	生活指導員講習	旭川市	尾上
	20	第 1 回 認知症介護実践研修及び認知症対応型サービス事業管理者研修		中澤
	25	全国高齢者ケア研究会「新しい下剤を用いた排泄ケアの最前線」	オンライン	施設長・谷本・尾上・室橋・鈴木・吉峯・坂林・山本裕・佐藤恭・河田・谷・能登・松嶋・大倉・志知・設楽・谷水
	25	第 32 回主任介護支援専門員フォローアップ研修	オンライン	佐々木
10	9～10	社会福祉士実習指導者講習会	オンライン	佐々木・佐藤(晴)
	13	令和 3 年度介護従事者雇用管理改善セミナー	旭川市	木幡
	21	介護支援専門員更新研修	オンライン等	米澤・河田

	22	旭川市老人福祉施設協議会コロナプロジェクト感染対策研修会	旭川市	谷水
	29	経理部門の事務改善と合理化の具体策	オンライン	木幡・高橋・佐藤・舟根
11	4	安全運転管理者等講習	旭川市	谷
	13	第8回日本地域学療法学会学術大会	Web 学会	大河原
	23	第33回北海道主任介護専門員フォローアップ研修	オンライン	山本裕
	25	第78回全国福祉施設大会(山口大会)	オンライン	谷本・尾上
12	1	学習療法 マスター認定研修会	オンライン	寒河江
	14	令和3年度 道北地区老人福祉施設協議会 生活相談員・ケアマネジャー研修会	オンライン	志知
	20	オランダ・オンライン研修	オンライン	施設長
	21	介護人材採用に関する採用マーケティングやPRについて学ぶ	オンライン	尾上
1	12	学習療法 マスター認定研修会	オンライン	佐藤(晴)
	14~15	令和3年度シルバーリハビリ体操指導士養成認定講師養成講習会	旭川市	大河原
2	25	令和3年度道北地区老人福祉施設協議会 栄養士・調理員研修会	オンライン	鈴木
3		北海道介護支援専門員実務研修	オンライン等	室橋・成田・大矢・己上・鈴木・石川
	26	全国高齢者ケア研究会 リーダー研修会	オンライン	谷本・室橋
	26	北海道の小規模多機能居宅介護を考える会「2021年度全道研修会 IN 美瑛」	オンライン	林崎・佐藤(晴)
				延べ 63 名

令和3年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 法人本部

A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし S:チャレンジした企画が成功

令和3年度 部門・事業所別活動計画

部門(事業所)名 法人本部

[評価基準]S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 C:アセスメントが結果不十分 D:まったくアションしなし ※ゴールは定量化し、証がみえの実現とする。							
	社会福祉士養成課程を修了する者へ社会福祉士の実習プログラムの作成と実行へ	実習担当者	3月20日～21日実習 地元大学説明会 助実習（2名） 上場相談室開設（3日前）	A	社会福祉士実習 (Web)登録会 個々木主任 複数の事務課で社会福祉士の実習受入 サテがまきるなど実習担当者を養成する。	社会福祉士実習 (Web)登録会 個々木主任 複数の事務課で社会福祉士の実習受入 サテがまきるなど実習担当者を養成する。	A
12		計画 尾上	実務	実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施	参加 参加 参加 参加

	「社会福祉士実習」の実習期間（3月20日～21日）に実習計画書を提出して社会福祉士の実習実施を申請する。社会福祉士の実習の目的は、社会福祉士の資質である、社会福祉士の資質と実習実施の目的が一致する。 社会福祉士の実習は、社会福祉士の資質と実習実施の目的が一致する。 社会福祉士の実習は、社会福祉士の資質と実習実施の目的が一致する。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和3年度 総務課事業報告

1. 総括

令和3年度は、毎日の朝会、毎月の課内会議の開催で、職員相互の業務の実施状況や行事予定の共有を図り、窓口として来客などの対応を実践した。

さらに、総務課職員を対象とした研修会受講により、法人全体の経営・施設運営の業務を担うセクションであること、施設の行事など事前準備を含めて積極的に参加するという職員の考え方や意識に変化が生じている。

事務部門においては、課員全体で業務を推進できるような事務マニュアルを作成し、事務の効率化とご利用者の利便性向上を図った。

また、経理事務については、会計処理システムにより、会計処理の明確化を図っています。予算事務は、各課が責任を持って予算確保・執行ができる目標とし、予算編成などを行い、適正執行に努めました。なお、各事業所単位での予算管理については引き続き課題となっている。

さらに、出退勤に係る「タイムレコーダー」を平成28年度から導入し、職員の出退勤時間の適正な把握を目指していますが、打刻もれなどで事務作業が煩雑であること、給与支給システムとの連携等検討が必要となっている。

「広報活動」は、広報委員会の事務局を担い、広報誌（オールカラー化）・ホームページ・ブログを通して情報発信を充実させ、昨年に引き続き成果を残すことができた。ホームページ・ブログについては、使いやすさや見やすさなどについて検討を行い、必要な改善を行った。

なお、新型コロナウイルス感染予防対策については、特別休暇対応、補助金・助成金活用、物品の確保、定期的な抗原検査実施体制・報告事務など必要な業務を推進した。

2. 次年度に向けて

総務課会議を毎月定例開催し、課員全体で業務を推進できるような事務マニュアルに基づく研修などを通じて、社会福祉法人・高齢者福祉施設の総務部門に求められる「おもてなし」の使命と役割を正しく認識し、窓口業務の一層の高度化と経理事務をはじめとする業務がスムーズに行え、事務処理がさらに簡素化できるようなシステムづくりに取り組む。

また、経営の羅針盤ともなる会計データの提出に関しては、正確性と期日厳守を徹底し、財政健全化に必要なデータを即時即応で提出できる体制を確保します。加えて、各事業所の予算管理について確認を徹底し、計画に基づく予算執行を目指す。

さらに、さつき会各事業所の働きやすい職場環境を目指し、課員全職員が各事業所担当となり、環境整備に努め、業務の効率化・安全化の徹底を図る。

また、社用車等についても安全運行のため、計画的な点検・整備の徹底を図る。

加えて、災害対応に向けた、日頃の準備の重要性を認識し、行政・近隣住民・家族の協力を得ながら、入居者・利用者の安全第一のため、用品確保・訓練実施に取り組む。

今般の新型コロナウイルス感染症予防対策への対応についても、引き続き、新型コロナウイルス感染対策本部の役割を確実に担う。

3. 運営状況・統計資料

(1) 職員の状況

(単位:人)

役職・職種 区分	令和3年度 期 首	令和3年度 期 末	増 減
施設長	1	1	0
副施設長(施設長兼務)	(1)	(1)	0
地域密着型サービス事業部長	1	1	0
施設・在宅サービス事業部長	1	1	0
事務員	正 職 員	3	3
	嘱 託 職 員	1	1
	ペー ト職員	2	1
生活相談員	正 職 員	3	3
	ペー ト職員	1	1
ケアマネジヤー	正 職 員	5	5
出向ケアマネジヤー	正 職 員	1	1
計画作成担当者	正 職 員	4	4
サービス提供責任者	正 職 員	3	3
介護員	正 職 員	55	▲1
	ペー ト職員	31	0
ホームヘルパー	正 職 員	1	0
	ペー ト職員	6	0
	登 錄	2	0
看護職員	正 職 員	5	0
	ペー ト職員	5	0
理学療法士	正 職 員	2	0
管理栄養士	正 職 員	2	0
調理員	正 職 員	2	▲1
	ペー ト職員	17	▲4
運転員	ペー ト職員	1	2
用務員	正 職 員	1	0
夜間管理当直員	ペー ト職員	5	2
嘱託医		1	0
合 計	161	157	▲4

注) 兼務職員については、主たる職務へカウントする。

(2) 賞与支給状況

時　期	支給月数
	正職員
6月	1.0～1.8
12月	1.5～2.2
計	2.5～4.0

(3) 寄付金関係

(単位:円)

区　分	件　数	総　額	摘要
寄付金	3	185,000	法人・各事業所運営のため

(4) 環境整備・苑内修繕状況(10万円以上)

(単位:円)

月	環　境　整　備　・　修　繕　名	整備・修繕先	費用	実施施設名
7	暖房ポンプ取替工事	大洋設備	264,000	なごみの家
	和ユニット浴室用給湯器修繕	大洋設備	242,000	なごみの家
9	電気乾燥機修理	池田製機	258,500	さつき苑
10	和ユニット給湯器故障修理	大洋設備	165,000	なごみの家
3	FF 暖房機メンテナンス整備 (居室)	東光設備	429,000	たかほ
合計			1,358,500	

(5) 苦情・意見に対する改善状況

部 署	受付月	苦情・意見の内容	改善状況
本部・総務課	8月	さつき苑草刈り機の騒音について	保育園のお昼寝時間等確認し、迷惑にならない時間帯での作業実施する
特養さつき苑	7月	入居者居室からの夜中騒音について	住宅側の居室入居者の音量調整、ヘッドフォン活用する
ショートステイ さつき苑		なし	
デイサービス はぴねす		なし	
ヘルパーステーション さつき苑	4月	情報提供について	利用者視点での対応実施する
	10月	ケアの内容について	職員同士で情報を共有し、ご本人の意向を確認しサービスを実施する
介護センター さつき苑	10月	サービス調整の不手際にについて	他機関との連携を密にし、利用者視点の対応を徹底する
グループホーム なごみの家		なし	
小規模 なごみの家	3月	ケアの内容について 衣類等の取扱いについて	ケアの内容について、全スタッフで共有し対応する 衣類に関して取扱いに留意し、家族対応を徹底する
特養 ぬくもりの家えん		なし	
小規模 ぬくもりの家えん	3月	ケアの内容について	ご本人やご家族の目線に立ったケアを行う
サ高住たかほ		なし	

(6) 総務課職員研修会

開催年月日	講師	テーマ	参加職員数
令和3年8月12日	吉岡経営センター	道北地区老人福祉施設事務職員研修会	4
令和3年10月15日	高橋事務員	接遇マナー研修	7
令和3年10月29日	吉岡経営センター	経営部門オンラインセミナー	4
令和4年3月17日	施設長	総務課職員の心構え等	7

※ほのぼのシステム移行に伴う研修会有

(7) 総務課課内会議

毎月1回開催：業務確認等実施

令和3年度 部門(事業所)別活動計画(実績)

部門(事業所)名 法人本部・経営課

[評価基準]S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

1 (1)(3)(4)	施設環境の維持管理	用務員 高齢 高齢 全職員	定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	①全事業所の建物・付属設備・車両等 の定期点検及び必要な整備を行うことと して、環境点検シートに記載する。 ②おこなうべき点検を実施するために、平客が への対応、毎週実施している玄関及び 大ホールの清掃並びに機械清掃設備を維持 居者への愛入時対応充実 ③担当割り付け推進する。(備品台帳 庫の整理監視を推進する。(備品台帳 に基づく現品確認を実施する。)	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	A	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	B	①法律で規定されている、 車両・機械の点検は全て 実施 ②環境整備は四季のいつらえは四 季別担当割り付けて定期性を 生かしたしらべで玄関口を 移 MERCHANTABILITY can be done here. ③各事業所物販につい て、担当職員が施設まで 実施できだが、その後の整 理未着手。
2 (2)(3)	災害対策・感染症対 策	用務員 高齢 高齢 全職員	計画	①防災用品・備蓄品の完備及び各種災 害対策非常連絡網訓練実施 ②地域住民・行政等との連携による、実 効性のある災害対策の推進及び感染症 物品の確保、整備実施。	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	B	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	C	①災害用品は確認落 ち ②避難訓練(自然災害) は、地域整備整備につい てはコロナウイルス感 染対策もあり未実施。
3 (2)(4)	仕事の見える化の推 進 (業務推進体制の構 築)	全職員	計画	①朝会及び年内定期会議に上り、各職 員の業務スケジュールを確認し、効率 的・安価的な業務の推進を図る。 ②各業務担当課長不在時にねらいも、 業務を推進できるようより必要なマニュアル (ボランティア受け入れマニュアル、利 用料金受領マニュアル、労務管理マニュアル等) を整備し、事務処理方法 ③業務分担を明確化を図る。 ④業務課事務を推進できる体制を確 立する。	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	A	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	B	①朝会、課内定期会議の開催 ②各事務処理マニュアルの整備 ③業務分担変更
4 (1)(4)	働きやすい職場づくり	全職員	計画	①有給休暇の計画的取得を得た状態で ある。最低、各職員5日間の有給休暇取 得 ②衛生委員会設置及び開催 ③職場環境改善(施設・設備・車両・備 品類)を行う。	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	①定期点検年 間スケ ジュール 作成 計画	B	①計画的 な有給取 得 ②衛生委 員会開催 ③職場環 境改善計 画	①計画的 な有給取 得 ②衛生委 員会開催 ③職場環 境改善計 画	B	①計画的 な有給取 得 ②衛生委 員会開催 ③職場環 境改善計 画
5 (2)	会計事務の適切処理	全職員	計画	①経理規程に基づき、適正な事務処理 を行つ。各事業所の予算管理を適正に推進 するため、担当課長との連携を強化す る。 ③物品購入入会計処理等会計処理の一 化を推進する。	①定期点 検年 間ス ケ ジュ ル 作成 計 画	①定期点 検年 間ス ケ ジュ ル 作成 計 画	B	①適正な經理事務を実施する。 ②予算管理が適正に執行され る。 ③会計処理の統一化が図られ る。	①適正な 事務処 理 ②予算 管理強 化 ③会計 処理統 一化	B	①適正な経理事務は実施 され ること が可能 である。 ②予算作成 時間は短 い。 ③各課長 の予算管 理が図ら れない。

令和3年度 部門(事業所)別活動計画(実績)

部門(事業所)名 法人本部・総務課

[評価基準]S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

6	(2)(4)	職員全体研修会	①職員全体制を体系統化し、確実に実施する。(交通安全研修、シタールヘルメット研修、接遇研修、職員育成研修等)	水槽・高橋	計画 ①研修 ②体会報告 ③計画作成 検討	①研修 ②体会報告 ③計画作成 検討	①各所 属接遇研修開催 催	①交通安全研修 ②研修計画進捗状況 確認	C	※人材 育成管 理者研 修	①研修 計画推 進状況 確認 確認	①研修 計画の アーカート 微取	①次年度 研修の 計画策 定	①職員に必 要な研修が計画的 に提供される。 ②職員が入時として育成させる。 ③職員が実施	C
7	(1)(2)(4)		職員の資質向上のための研修受講並びに研修会議開催の定期的な職員研修開催(本部、専任総務部門職員に求められる役割等)	水槽・全職員	計画 ①積極的に外部研修を受講し、受講職員による伝授研修を実施する。 ②積極的に業務に関する資格を取得する。 ③定期的に職内会議を開催し、職員内で情報交換を実施する。 ④定期的な職員研修開催(本部、専任総務部門職員に求められる役割等)	計画 ①課内 会議 ②研修(希 望確認)	①課内 会議 ②課内 研修(希 望確認)	A	①課内 会議 ②課内 研修(希 望確認)	A	①課内 会議 ②課内 研修	①課内 会議 ②課内 研修	①課内 会議 ②課内 研修	①職員会議が定期化される。 ②職員研修が定期化される。 ③研修受講職員が課内で伝達研修を実施できる。 ④業務に必要な資格取得に関する情報を得ることができる。	A

令和3年度 鷹栖町デイサービスセンターはぴねす事業報告

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和3年度は、「リハビリテーションの充実」「環境改善」「アクティビティの充実」「楽しくおいしい食事」「介護予防と中重度化対応」の5項目の取り組みに加え、安心して利用出来るデイサービスづくりに取り組んだ。

「リハビリテーションの充実」は、個別のリハビリテーションスペースの設置し活動の場を広げた。デイサービスのホールに、50m歩行コースを設置した。ホール内が個別リハビリの空間となり、活動的に運動を促す事が出来た。昨年より実施している、運動のポイントラリーは、個人でリハビリを行った方が、自分でスタンプを押し30個のスタンプが貯まると、景品がもらえる仕組で、行った事が目に見え、達成感のある形にする事で、自主的な参加と、継続出来る利用者が増加した。コロナウイルス感染予防のため、外出や運動機会の減少による、体力低下にも効果があった。

「環境改善」は、コロナウイルス感染予防の徹底のため、卓上シールドを増設した。しかし、空間としては殺風景となるため、鉢植えを飾ることで華やかな環境作りに取り組んでいる。シールドマスク越しでは、会話がしづらい事もあり、利用者からは孤独を感じるという声も聞かれている。

「アクティビティの充実」は、コロナウイルス感染予防の為、接触の少ないハンドメイド作品づくりが中心であった。他のアクティビティについては、実施出来なかつた。各スタッフが自ら調べ、材料の調達から参加者の集約を行い、満足感の得られる、ハンドメイドを、今年度も実施する事が出来た。特に人気が高かったハンドメイドが、2月に開催した、ティーカップフラワーであった。（ティーカップに生け花を行うもの）。外は雪景色だが、冬に見る事の少ない花を生けることで、一足早く春を感じる事が出来たのが、好評につながったのかと思われる。

「楽しくおいしい食事」は感染予防を行いながら、焼き肉パーティーやラーメンバー、出前の行事を実施した。又、通常の食事についても毎月の給食会議を開催し、嗜好や健康に合わせた食事の提供を行った。

「介護予防と中重度化対応」は、本年度平均介護度1.59（昨年1.58）とここ3年は徐々に中重度化となっている。中重度化への職員対応として、コロナ禍であったがオンライン研修を取り入れ、知識技術向上を目指したが、集合での研修体験ができず、技術面での向上には至らなかった。

今年度は、全ての活動でコロナウイルスの影響を強く受けた。「不要不急の外出の自粛」に、「デイサービスへの通いも含まれるのではないか」や「コロナウイルスに感染するかもしぬないので、デイサービスをしばらく休む」といった、利用者家族の不安があった。実際、感染拡大には至らないが利用者、利用者家族、職員の感染が発生した。そのような中で、デイサービスの安心を、安全に提供する難しさが大きくあったが、体調管理、マスク、手洗い、消毒、換気、ソーシャルディスタンスの基本対応で、デイサービスを利用しての直接的な感染はなかった。しかし、利用者推移は、緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置の発出ごとに影響を受け、令和3年9月、令和4年2月が特に欠席が多く、利用者の低迷となった。利用者の低迷は介護保険収入にも表れ、令和2年度介護保険収入

66,010,000円に対し、令和3年度介護保険収入は60,644,000円と5,366,000円の減少となつた。

2. 展望（次年度に向けて）

令和4年度は、「リハビリテーションの充実」「環境改善」「アクティビティの充実」「楽しくておいしい食事」「介護予防と中重度化対応」の取り組みを、コロナウイルス感染予防対策を徹底の上、継続する。2年以上も自粛を行ってきた、「外出行事」に関して、流行期の予測を行い、安全に外に出て、活動範囲の拡大を行う事を目標とし、買い物や見学等の飲食を伴わない外出活動を再開する。

3. 運営状況・統計資料

（1）業績

<事業収入>

(単位:千円)

61,347	60,644	98.9%	66,010	91.8%

<1日の平均利用者数>

27名	22.5名	83.3%	23.9名	94.1%

（2）利用者年齢構成

(単位:人)

<年齢層>	1	0	1
	0	0	0
	1	0	1
	3	1	4
	5	4	9
	4	10	14
	11	17	28
	9	27	36
	2	9	11
	36	68	104
合計	84.0	88.3	
	58	74	
	97	98	

※令和4年3月31日現在

(3) 事故発生状況

(単位:件)

	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	6
	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	2	1	2	0	0	0	1	1	0	1	2	1	11

(4) 職員研修

<苑内研修参加状況>

令和3年		
4月19日	接遇マナー研修	6名
6月21日	感染予防研修（防護服着脱訓練）	6名
9月9. 16日	基礎介護研修（移乗）	7名
10月7. 14日	基礎介護研修（食事）	6名
10月27日	感染予防研修（防護服着脱訓練）	6名
11月11. 18日	基礎介護研修（排泄）	6名
1月20. 27日	基礎介護研修（医療ケア）	6名
令和4年		
2月10. 17日	基礎介護研修（認知症）	6名
3月10. 17	基礎介護研修（カンファレンス）	5名

<外部研修参加状況>

令和3年7月14日	アクティビティワークショップ ちぎっ手アート研修	谷・成田
令和3年11月5日	安全運転管理者等講習	谷

令和4年3月11日	北海道介護支援専門研修	成田
-----------	-------------	----

(5) デイサービスセンターア会議実施状況

（5）デイサービスセンターア会議実施状況		
令和3年 4月 19日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告・環境改善・事故報告・接遇マナー研修・令和3年度行動計画について	8名
5月 17日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・	6名
6月 21日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・感染予防研修	6名
7月 19日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・活動計画評価・	6名
8月 16日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
9月 27日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
10月 27日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・感染予防研修	6名
11月 22日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
12月 20日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
令和4年 1月 24日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
2月 21日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価(Zoom会議)	6名
3月 8日	運営改善会議・業務確認整理	6名
3月 22日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価(書面回覧)	6名

(6) ボランティア受け入れ状況

①ボランティア受入実績

※コロナ感染予防の為 ボランティア中止

（6）ボランティア受け入れ状況												
	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3

②ボランティア協力団体

体操指導士	集団体操
-------	------

(7) 行事

※コロナ感染予防の為 外出行事、ソーシャルディスタンスを保つ事が困難な行事を自粛

令和3年 4月9.16日	ペーパークリーリング	デイホール	岩井
5月26日	ハーバリウム	デイホール	近藤
8月23.27日	紙すき	デイホール	近藤
11月5.12.19日	フェルトアート	デイホール	谷
12月18日	しめ縄作り	デイホール	近藤
令和4年 12月6日	外出	コーチャンフォー	谷
2月25日	カップフラワー	デイホール	岩井
3月15.22日	モルタルアート	デイホール	谷

4. 苦情の状況

(1) 苦情の内容と対応

なし	なし	なし	なし
----	----	----	----

(1)	常に利用者にとって心地よい居場所と空間を整える。	谷川	車内清掃強化(谷)	古い靴見直し(谷山・櫻川)	靴箱設置(谷)	新里館へ期限(谷)	おおむね計画通り	車の花装飾	レイアウト変更(谷)	未実施	実施	①車輪の定期的清掃を行ふ事で衛生的車両に対する見直し、おしゃれ、使い勝手の良いデザイナビスに対する	ソーシャルアシスタンスを保ちながら、安心して活用出来る環境を提供出来た車両の運転が、行き届かない。定期的な清掃作業がコロナ感染予防のため外出旅行が行えなくなつた。また、製作者は中止。	C
												①感染予防を考慮しつつ、ソーシャルディマスクを保ったペインドの開催(毎月2回以上)の実現②製作者の制作は中止。	①感染予防を考慮しつつ、ソーシャルディマスクを保ったペインドの開催(毎月2回以上)の実現②製作者の制作は中止。	C
(1)	魅力ある製作(クリエーション)やハンドメイド、柔軟性のある展示、美術教室を提供してご利用者様に楽しむ時間を過ごして顶く。	井伊田春井	社員	未実施	英語	新里館へは次年度持ち越し	外出行事を実施する	車の花装飾	レイアウト変更(谷)	未実施	実施	①感染予防を考慮しつつ、ソーシャルディマスクを保ったペインドの開催(毎月2回以上)の実現②製作者の制作は中止。	①感染予防を考慮しつつ、ソーシャルディマスクを保ったペインドの開催(毎月2回以上)の実現②製作者の制作は中止。	C
												①感染予防を考慮しつつ、ソーシャルディマスクを保ったペインドの開催(毎月2回以上)の実現②製作者の制作は中止。	①感染予防を考慮しつつ、ソーシャルディマスクを保ったペインドの開催(毎月2回以上)の実現②製作者の制作は中止。	C
(1)	コロナ禍下で感染予防を考慮した食事の時、食事を提供する。	寺川谷	社員	未実施	英語	新里館へは次年度持ち越し	野外焼き肉(BBQ)実施	車の花装飾	レイアウト変更(谷)	未実施	実施	①食事中のコロナウイルス感染予防をしクラス化された防護マスクを着用する事での開催	上半期はBBQの開催予定が決まり、下半期は、下旬等は、コロナ蔓延の影響で開催が増えてくる事から、本年度は自策として予算を組んでいます。	C
												①リハビアティムの設置予定していく予算を組んでいます。予算に組んでいた計画を次年度に持ち越す。	予算を組んでいた計画を次年度に持ち越す。	C
(1)	理学療法士によるマンドレー・ニンゲン法及び非マジックプログラムの抵充を図る。	寺川原	社員	未実施	英語	新里館へは次年度持ち越し	ヤング購入(エアロバイク)度検討する	車の花装飾	レイアウト変更(谷)	未実施	実施	①生活目標達成者10名(7月と12月に表彰各一名)行える	上半期目標達成者10名(7月と12月に表彰各一名)行える	C
												①リハビアティムの設置予定していく予算を組んでいます。予算に組んでいた計画を次年度に持ち越す。	予算を組んでいた計画を次年度に持ち越す。	C
(1)	生活目標の設定・掲示を計画的に機能訓練を行って、生活意欲向上、生活能力の維持向上を行なう。	寺川原	社員	未実施	英語	新里館へは次年度持ち越し	実施済	車の花装飾	レイアウト変更(谷)	未実施	実施	①全利用者の口腔状態の把握	上半期目標達成者10名(7月と12月に表彰各一名)行える	C
												①全利用者の口腔状態の把握	上半期目標達成者10名(7月と12月に表彰各一名)行える	C
(1)	口腔アダクションを定期的に実施し、発見、対応する。	寺川原	社員	未実施	英語	新里館へは次年度持ち越し	配慮基礎の関係算定不可	車の花装飾	レイアウト変更(谷)	未実施	実施	①全利用者の栄養状況の把握	配慮基礎の関係算定不可	D
												①全利用者の栄養状況の把握	配慮基礎の関係算定不可	D
(2)	栄養状況改善を目標に改善を他職種共同で行い、栄養状況改善を行う。	寺川原	社員	未実施	英語	新里館へは次年度持ち越し	LIFEシグナルアーチ提出	車の花装飾	レイアウト変更(谷)	未実施	実施	①科学的介護の導入によるPDCAサイクルを実施する	ADL維持加算、来年度より算定	B
												①科学的介護の導入によるPDCAサイクルを実施する	ADL維持加算、来年度より算定	B
(2)	認知症予防のための学習療法の実施を行う。	寺川原	未実施	英語	新里館へは次年度持ち越し	新規利用2名から6名迄	新規利用2名から6名迄	車の花装飾	レイアウト変更(谷)	未実施	実施	毎日の連絡立ち話	毎日連絡立ち話を実施している	B
												12名の学習療法の実施(R2名)	12名の学習療法の実施(R2名)	C

(1)	事業者名 事業種別名	事業の概要	事業の特徴	事業の目的	事業の実施場所	事業の実施日程	事業の実施方法	事業の実施内容	事業の実施結果	事業の評議会実施計画
(2)	事業の概要	事業の特徴	事業の目的	事業の実施場所	事業の実施日程	事業の実施方法	事業の実施内容	事業の実施結果	事業の評議会実施計画	評議会実施計画書
(3)	事業の概要	事業の特徴	事業の目的	事業の実施場所	事業の実施日程	事業の実施方法	事業の実施内容	事業の実施結果	事業の評議会実施計画	評議会実施計画書
(4)	事業の概要	事業の特徴	事業の目的	事業の実施場所	事業の実施日程	事業の実施方法	事業の実施内容	事業の実施結果	事業の評議会実施計画	評議会実施計画書

令和3年度 鷹栖町介護センターさつき苑事業報告

1. 総括（今年度の取り組みと成果）

はじめに、事業所全体の運営状況の報告としては前年度同様、新型コロナウイルス感染症対策（消毒の徹底、感染状況に応じた時短対応、オンラインの活用）にて感染予防を徹底しながら通常の運営を実施した。また、人員配置に関しては 1 名ぬくもりの家えんたかほにて異動があり、対象職員に対して業務内容の伝達・連携強化を図った。

ケアマネジメントに関しては、ケアマネジャー1 人に対して平均 40 名の担当（たかほは除外）を行い、重度化対応・カンファレンス・社内・外研修・課内研修にて学び、実践では健康管理（トータルケア・医療連携・各関係機関との連携強化）と QOL 向上（活き活きはびねすプランの実施）により地域の皆様の支援を実施した。

業績総括としては、適正利益確保目標人数平均 180 名としていたが、平均 182 名の登録で目標より 2 名増で目標達成した。収益に関しては達成率 100%、伸長率 103% で目標を達成した。また、利用者動向を前年度と比較すると、新規 87 名（-2 名）入院者名 230 名（+39 名）停止者 68 名（+27 名）で、前年度と比較すると新規が少なく入院者・停止者が増加の結果であった。

その他、地域貢献活動では 3 回の出前講座にて介護に関する知識・技術を地域の皆様へ伝えることができ概ね計画通り事業を運営することができた。

2. 次年度に向けた展望

ケアマネジメント技術に関してはトータルケア・活き活きはびねすプランの継続と新たにケアマネ紹介カードを作成し相談者の安心及び信頼関係の構築を図る。

また、各種研修を継続し、研修で学んだ知識・技術を使った実践を意識する。次年度は必ず実践の結果を振り返ることを強化しスタッフが成長できるように共有を図る。PDC A サイクルを意識的に取り入れ業務統制・ケアマネジメントの実践に努める。

次年度は ICT（ほのぼののシステム、LINE ワークス、オンライン等）を積極的に活用し事務作業の時間短縮を図り、ケアマネジメント・マーケティング・社会貢献活動へ効果的に時間が使えるように ICT リテラシーを強化する。

人材育成においては、職員一人ひとりが成長できるように、ケアマネジャーとして地域課題と向き合い、地域住民の皆様に寄り添いながら関係機関と一緒に具体的な政策提言を実践する。全員経験年数豊富なスタッフであるため、個々が持っている力を最大限に発揮し、創造力を高め具体的に行動できるようなケアマネジャーを育成する。地域において様々な活動が展開している中で、「自分達には何ができるのか」を常に考え、地域創りに貢献できる事業所運営を目指す。

3. 運営状況・統計資料

(1) 収益

<事業収入>

(単位：千円)

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B) / (A) × 100	前年度 介護保険収入 (C)		伸長率 (B) / (C) × 100
25,491,000	25,729,660	100%	24,771,530		103%

(2) 居宅サービス利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成12年度	67	77	78	75	77	80	74	82	81	76	78	82	77
平成13年度	78	82	79	87	87	89	88	98	93	92	103	107	90
平成14年度	104	108	106	110	110	116	109	108	102	98	100	107	107
平成15年度	109	110	114	115	118	117	119	121	116	121	125	126	118
平成16年度	142	142	143	145	143	145	148	146	145	148	151	154	146
平成17年度	158	151	155	158	156	155	156	156	157	152	148	145	154
平成18年度	147	143	141	140	135	128	129	129	124	123	113	115	130
平成19年度	114	116	113	104	106	105	106	104	101	104	106	109	107
平成20年度	114	114	112	114	111	105	113	113	113	112	112	113	112
平成21年度	110	96	92	88	89	90	91	86	87	88	92	94	92
平成22年度	96	92	94	97	99	97	101	96	99	88	91	94	95
平成23年度	91	92	99	100	107	104	107	105	104	101	102	107	102
平成24年度	110	113	113	113	116	110	109	118	112	113	110	115	112
平成25年度	115	118	119	114	117	118	118	123	119	115	112	119	117
平成26年度	113	116	116	115	120	116	123	120	118	125	124	120	118
平成27年度	122	120	120	121	123	118	116	116	114	108	117	122	118
平成28年度	126	121	121	123	122	123	123	124	127	127	126	125	124
平成29年度	132	139	139	140	137	135	138	141	141	141	132	128	136
平成30年度	128	130	130	128	132	132	130	129	132	127	126	118	128
平成31年度	128	132	137	142	141	141	142	141	141	139	138	134	138
令和2年度	148	152	163	161	170	180	178	172	171	177	184	181	169
令和3年度	184	187	183	187	178	181	182	183	185	183	175	180	182

(3) 上記利用者の要介護度分布

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
要支援 1	8	8	7	9	11	11	13	10	14	13	18	28	32
要支援 2	13	13	12	12	11	9	9	11	15	18	19	27	34
要介護 1	32	36	42	45	52	57	43	48	53	55	57	59	53
要介護 2	23	19	19	24	23	22	32	32	25	22	22	32	32
要介護 3	9	10	10	9	10	10	5	7	8	9	7	9	11
要介護 4	3	6	9	9	9	7	6	8	7	5	6	8	13
要介護 5	5	3	3	3	6	9	8	7	6	9	6	5	4

※人数は、各年度の平均人数

(4) 苑内・苑外研修参加状況

①苑内研修

月 日	内 容	講師等	参加者
5月 14日	サービス向上発表会	発表者 山本正広	2
7月 16.29日	職員全体会議	施設長	6
9月 9.16日	基礎介護力研修初級・中級（トランスマネジメント）	設楽・大河原	3
10月 7.14日	基礎介護力研修初級・中級（食事ケア）	森・能登	3
10月 17日	在宅ケアチーム勉強会	高齢者ケア研究会	5
11月 11.18日	基礎介護力研修初級・中級（排泄ケア）	室橋・松原	3
12月 9.16日	基礎介護力研修初級・上級	尾上	2
9月 19日	在宅ケアチーム勉強会	高齢者ケア研究会	5
12月 12日	在宅ケアチーム勉強会	高齢者ケア研究会	5
1月 20.27日	基礎介護力研修初級・中級・上級（医療ケア）	藤川・谷水	5
2月 10.17日	基礎介護力研修初級・中級・（認知症ケア）	佐々木・谷	5
3月 10.17日	基礎介護力研修初級・中級・（上級ケア）	尾上	3

②苑外研修

月 日	内 容	主催	参加者
5月 13日	令和2年度鷹栖町消費生活相談事業報告	健康福祉地域福祉係	1
7月 16日	居宅合同研修	誠徳園	5
9月 21.25日	主任ケアマネフォローアップ研修	介護支援専門員協会	
10月 13日	主任介護支援専門員資質向上研修	豊岡東旭川地域包括	2
11月 23日	主任ケアマネフォローアップ研修	介護支援専門員協会	2
11月 26日	ケアマネジャーの災害における知識と備え	旭川市居宅介護支援事務所	1

	B C P 作成に向けて	業所等連絡協議会	
12月10日	居宅合同研修（zoom）	誠徳園	5
12月12日	在宅ケアチーム勉強会	さつき会	5
3月18日	実施指導研修	〔株〕オーポックス	1
3月26日	北海道ブロック研修 I C T 活用方法	介護支援専門員協会	1

（5）ケアマネ会議内容

月 日	内 容
4月8日	情報共有
4月13日	情報共有 その他フレックスタイム導入検討
4月20日	情報共有 利用者動向 入院者の進捗状況
5月6日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
5月11日	ケアマネジメントに関する研修 担当坂林
5月18日	事例検討 担当佐藤
5月25日	ミーティング会議 担当山本(裕)
6月2日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
6月10日	情報共有 社内研修 成年後見制度
6月17日	情報共有 カンファレンス
6月22日	情報共有 カンファレンス
6月29日	居宅合同研修の準備
7月6日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
7月13日	居宅合同研修の準備 新規利用者情報共有
7月20日	情報共有 カンファレンス
7月27日	処遇困難ケース 情報共有
8月3日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
8月10日	ケアマネジメントに関する研修
8月17日	情報共有・カンファレンス
8月24日	処遇困難なケースの対応を検討
8月31日	感染対策研修 防護服着脱研修の実施
9月7日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
9月14日	情報共有 研修 介護支援専門員 倫理綱領
9月22日	情報共有 事例検討
9月28日	情報共有 カンファレンス
10月5日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
10月12日	情報共有 研修 プライバシー保護
10月19日	情報共有 事例検討
10月26日	感染対策研修
11月1日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
11月9日	情報共有 研修 スーパービジョン
11月25日	ミーティング会議
11月30日	情報共有 研修 成年後見制度
12月7日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
12月16日	情報共有 研修 ケアプラン新様式の書き方

12月21日	次年度活動計画策定会議
12月28日	情報共有
1月5日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
1月11日	情報共有 研修 ハラスメント
1月18日	情報共有 事例検討
1月25日	情報共有 ミーティング会議
2月1日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
2月8日	情報共有 研修 介護サービス計画書等について
2月17日	情報共有 事例検討
3月1日	活動計画進捗状況。業務報告、利用者動向
3月8日	サービス向上発表の確認
3月15日	情報共有 活動計画最終評価
3月22日	情報共有 研修報告
3月29日	情報共有 研修 災害対策

(6) 出前講座

月 日	内 容	講 師
4月21日	鷹栖町介護に関する入門的研修	佐 藤
6月29日	認知症サポートキャラバンメイト養成講座	坂 林
11月2日	地域力アップ講座 認知症に関する知識	佐々木

1	(1)	利用者の課題に対する取り組み ①在宅版「タールケアシート導入」とケアチェック強化 ②アマネジメントの活性化 ③「活き活き」の実現とデータの提供 ④利用者の笑顔や喜びを引き出すため、「活き活き」「自分以外の視点から見ること」を実施。 ⑤アマネジメントの研修(基礎介護力向上マナー接遇研修等)に参加して、知識・技術を取得。 ⑥地域会議・地域ケア会議・地域マネジメント会議での研修・カナルアレンスを実施 ⑦外部研修修了講義・技術を習得。 ⑧企画支援専門員会議の実施 ⑨アマネジメントの接遇及びアマネジメントの満足度を把握する為、満足度調査を実施。 ⑩職員面談の実施 ⑪サービス向上発表の実施	計画 実施	実施人數 生々木 4 佐藤樹 3 山本正 2 山本裕 4 佐藤樹 6	計画 実施	実施人數 生々木 3 佐藤樹 3 山本正 0 山本裕 4 佐藤樹 4	計画 実施	実施人數 生々木 3 佐藤樹 3 山本正 0 山本裕 4 佐藤樹 4	計画 実施	実施人數 生々木 3 佐藤樹 3 山本正 0 山本裕 4 佐藤樹 4	計画 実施	実施人數 生々木 3 佐藤樹 3 山本正 0 山本裕 4 佐藤樹 4	計画 実施	実施人數 生々木 3 佐藤樹 3 山本正 0 山本裕 4 佐藤樹 4	計画 実施	実施人數 生々木 3 佐藤樹 3 山本正 0 山本裕 4 佐藤樹 4
2	(2)	事務的知識と技術の向上 ④企画支援専門員会議の実施 ⑤アマネジメントの接遇及びアマネジメントの満足度を把握する為、満足度調査を実施。 ⑥職員面談の実施 ⑦サービス向上発表の実施	計画 実施	実施人數 生々木 河田実施												
3	(3)	地域への貢献 ①地域住民に対する講話などにより実践活動を実施 ②物品寄附・書類添充 ③提供表発送 ④減算チケット	計画 実施	実施人數 生々木 山本正 佐藤樹												
4	(4)	マニュアル作成にて統一した業務分担管理 ①請求業務 ②物品寄附・書類添充 ③提供表発送 ④減算チケット	計画 実施	実施人數 生々木 坂林 山本 (船)												

〔評価基準〕S: チャレンジした企画が成功 A: 期待以上の結果 B: 期待以下の結果 C: アクションなし D: まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

〔評価基準〕S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションなし D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

5 (5)	①目標利用者人数(初期75名→期中80名→期末85名;年間平均利用者数80名) ②目標収益 25,138(千円) (前年実績当初予算22,740千円) 自家:平均2,094,833以上 道正利益の確保よりワレッジ休眠の推進	計画	初期	176	177	178	179	期中	180名	B	180	181	182	183	期末	184	185名	C	2,188	A
		実施	184	187	183	187	178	181	B	182	185	182	181	178	180	平均目標180名を達成		182		
		計画	達成:未達	→	達成:未達	→	達成:未達	→	達成:未達	→	達成:未達	→	達成:未達	→	達成:未達	→	達成:未達	→	達成:未達	→
		介護予防	1,757,340	1,770,260	1,753,160	1,758,160	1,747,920	1,688,480	C	1,831,250	1,735,850	1,845,540	1,840,310	1,755,710	1,888,790	C	2,094,833以上	2,070,410	2,084,833以上	2,070,410
		実施	60,100	53,760	53,760	57,760	53,920	57,600	C	53,760	57,620	53,620	49,790	49,790	49,790	C	2,094,833以上	2,070,410	2,084,833以上	2,070,410
		月運	252,980	245,400	245,670	233,740	233,740	215,500	224,120	215,500	208,570	206,880	202,950	202,950	202,950	202,950	202,950	202,950	202,950	202,950
		計	60,500	71,380	38,900	53,740	41,900	119,830	61,430	171,280	93,310	129,190	18,750	18,750	18,750	18,750	18,750	18,750	18,750	18,750
		計画	2,068,080	2,091,960	2,052,590	2,142,400	2,034,980	1,956,580	C	2,090,380	2,000,970	2,107,730	2,096,980	2,096,980	2,096,980	2,096,980	2,096,980	2,096,980	2,096,980	2,070,426
		実施	—	—	—	—	—	—	B	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		計画	随時実施	—	—	—	—	—	B	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	C	山本(正)	未実施	未実施	佐々木	未実施	坂林	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

令和3年度 多機能型グループホーム鷹栖なごみの家事業報告

1. 総括

令和3年度は昨年同様『知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供』『主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める』『職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる』『業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益の確保する』の4つの重点目標をかかげ取り組んだ。

1) 「知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供」

毎月カンファレンスを実施しケアの見直しと統一を図ると共に、困難ケースにおいても状態悪化の予防に努めた。事故件数については、事故後の分析や再発防止に努めた結果、転倒・転落事故が約6割減。前年度より15件減らすことができた。

食事については、嚥下や咀嚼が困難な方へソフト食の提供、病状や状態に合わせて栄養補助食品との併用、食事の一部をミキサー食で提供するなど、食事摂取量の維持に努めた。

疾病の管理では、入居者の重度化にともない早めに医療機関へ相談していたが、既往の再発を防ぐことができず、入退院をくり返すケースもあり、入院者延べ4名。入院日数は127日と前年度より60日増加した。

感染症対応では、引き続き新型コロナウイルス感染予防の強化に努めた。手洗い、うがいの基本をはじめ、ワクチン接種の実施、手すりドアノブ等の消毒や1時間毎の換気を徹底した。感染状況に合わせて面会中止、面会制限（玄関での面会・窓越し面会）を実施した。職員の防護服着脱の実技訓練についても定期的に実施した。また、個々の私生活においても決められた感染予防対策の徹底と強化に努めた。結果、感染症・集団感染共にゼロを維持することができた。

2) 「主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

各担当利用者のADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の向上を図るため、介護過程の展開（アセスメント、計画、実施、評価）の取り組みを掲げていたが、全職員の実践には至らなかった。

3) 「職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる」

定期的面談を実施することで不安や悩みの軽減を図ることができた。しかし、家庭的事情で1名の離職があった。有給休暇取得については、日数にばらつきはあったも全職員が5日以上の有給取得と常勤職員全員が連続休暇（8日間）を取得することで、リフレッシュを図ることができた。

また、シルエット見守りセンサを導入したことで、事故予防や夜間帯の見守り回数が減るなど夜勤時の介護負担の軽減と不安の解消に大きく繋がった。夜間帯の休憩に関しては小規模多機能ホームと協力し各夜勤者が計画的に2時間の休憩を確保することができた。

4) 「業務の効率化と適正利益の確保」

必要に応じてオペレーションシートの見直したことや、シルエット見守りセンサの導入、Hug（移乗サポートロボット）の台数増加で大きく業務の効率化が図れた。

適正利益の確保については、入院に伴う空床延べ日数が127日と目標の60日に抑えることはできなかった。退居から新規入居までの空床延べ日数については67日。少しでも迅速な入居に繋げることができるよう小規模多機能ホームと連携を図った。年間平均稼働率は、97.0%と目標稼働率の98%を達成することができなかつた。

2. 次年度に向けての展望

令和4年度は、引き続き同様の重点目標をかかげ確実に実施できるようより具体的な計画を立て取り組む。

ケアについては、特変を早期に発見できるようダブルチェック、カンファレンスを更に強化し入居者の重度化にしっかり対応できる力をつける。また、利用者のADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の向上を図るために、介護過程の展開（アセスメント、計画、実施、評価）の取り組みを常勤全員が計画的に実施しする。

ICT・IOT化の活用を通じてケアの質の向上を図り、職員の業務負担軽減と更なる業務の効率化を図る。連続休暇についても継続し8日間の取得を計画する。

基本的な感染予防を徹底することで対面での面会や外出、行事の再開など以前の暮らしに少しでも近づくことで入居者の更なるQOLの向上を図る。

入院延べ日数80日、目標稼働率98%を達成し適正利益の確保を図る。

3. 運営状況・統計資料

(1) 稼働状況

稼働状況			
98. 0%	97. 0%	99. 1%	98. 5%

(2) グループホーム会議開催状況

日 時	議 題 内 容
4月20日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他
5月18日	ケースカンファレンス・新規入居者について・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告書・給食関係・行事・その他
6月15日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他・キックオフミーティング
7月20日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・その他
8月17日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・その他
9月21日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他
10月19日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・その他
11月16日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・その他
12月21日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・その他
1月18日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係・その他
2月15日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他
3月15日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他

(3) 環境整備他

日 時	内 容	ユニット	業 者
4月上旬	浴槽台購入	和	合同会社セカンドライフ
4月上旬	車イス、タイヤチューブ取替	和	合同会社セカンドライフ
4月上旬	リクライニング車イスフットサポート購入	和	合同会社セカンドライフ
4月中旬	マジックプレット本体、付属品購入	和・洋	(株) ヤマダ電機
5月上旬	食卓用イス購入	和	合同会社セカンドライフ
5月下旬	洗面台排水トラップ修理	全体	(株) 斎藤工業所
6月上旬	加湿器部品(ユニット)購入	全体	(株) ヤマダ電機
6月上旬	暖房ポンプ交換	全体	大洋設備(株)
6月下旬	食洗機修理(排水ホース、電源ヒーター他)	和	(株) ヤマダ電機
6月下旬	ラインポンプ電源取替	全体	(株) 亀谷電設
6月下旬	浴室用給湯器取替工事	和	大洋設備(株)
7月上旬	リクライニング車イス(ブレーキワイヤー交換)	和	合同会社セカンドライフ
7月上旬	I H圧力鍋(ティファール)購入	和・洋	(株) ヤマダ電機
7月上旬	炊飯器部品(内蓋)購入	洋	(株) ヤマダ電機
7月中旬	ミーティングチェア購入	交流スペース	アイリスチトセ(株)
7月中旬	入居者用お箸(新六角箸)	和・洋	(株) フジマック
8月上旬	ホシザキ冷凍庫保守点検	全体	ホシザキ北海道(株)
8月上旬	灯油タンク洗浄	全体	澤井石油商事(株)
9月上旬	i Phon8plus ケース(シリエット見守りセンサー)	全体	Amazon
10月中旬	加湿器購入	洋	(株) ヤマダ電機
10月中旬	給湯器故障修理工事	和	大洋設備(株)
10月中旬	清掃床ワックス塗布	和・洋	旭川ヒューマンサービスセンター
11月下旬	炊飯器購入	洋	(株) ヤマダ電機
12月上旬	トイレ手すり設置	洋	合同会社セカンドライフ
12月上旬	ガスコンロ移設	洋	旭川リンナイサービス
12月下旬	加湿空気清浄機部品(タンクキャップ)	和	(株) ヤマダ電機
12月下旬	移乗サポートロボット Hug 購入	洋	(株) マルベリー
1月中旬	自動体交付きエアーマット	和	合同会社セカンドライフ
1月中旬	体交クッション購入	和	合同会社セカンドライフ

(4) ボランティア状況

新型コロナウイルス感染予防のため外部ボランティア受入を原則中止。

(5) 行事活動状況

日 時	行 事 名	場 所
5月3日	お花見ドライブ	パレットヒルズ
9月17日	夏祭り（秋祭り）	なごみの家
10月15日	紅葉狩り	パレットヒルズ 丸山貯水池
12月22日	ゆず湯	なごみの家
12月24日	クリスマス会	なごみの家
12月27日	忘年会	なごみの家
2月3日	節分	なごみの家

令和3年度
多機能型グループホーム鷹栖なごみの家
現況報告書

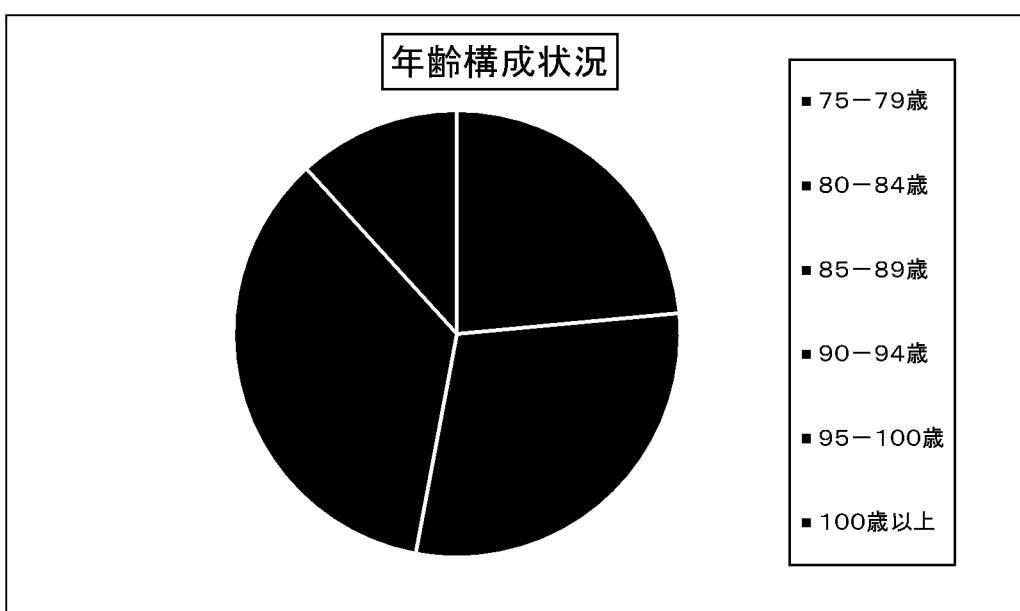
(自：令和3年4月1日～至：令和4年3月31日)

1 入退所状況

入所者数	退所者数	退所理由	在籍者数	男 性	女 性
5	6	長期入院のため 1名 病院にて死去4 名 なごみの家で死 去1名	17	2	15

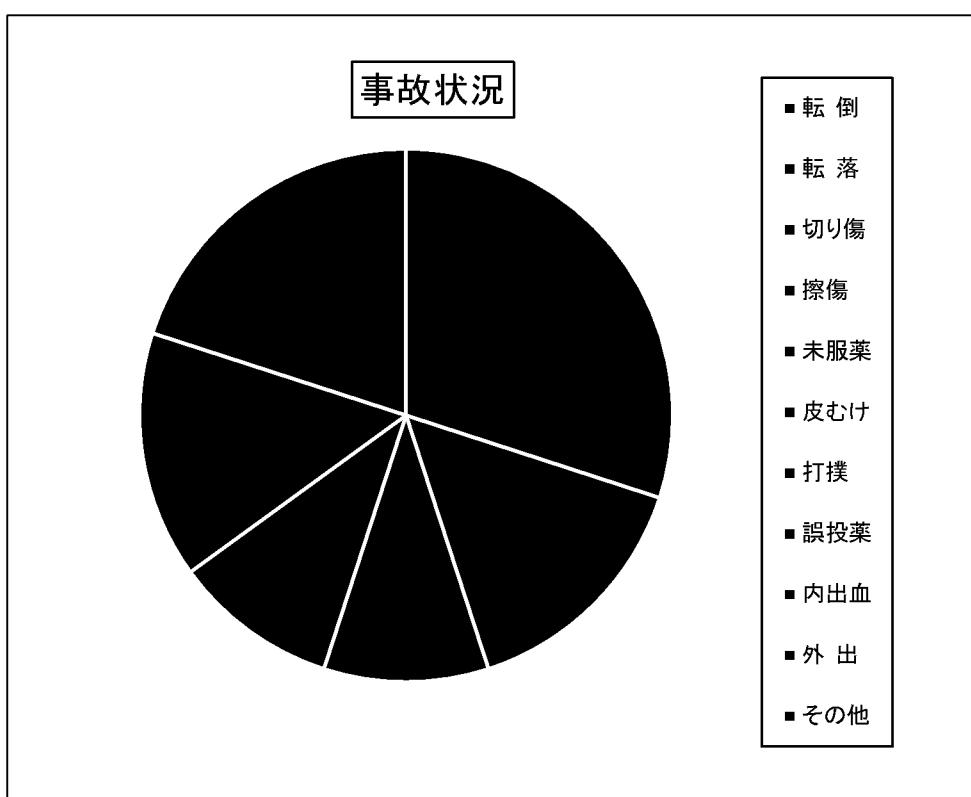
2 年齢別

	男 性	女 性	合計
75-79歳	0	0	0
80-84歳	1	3	4
85-89歳	1	4	5
90-94歳	0	6	6
95-100歳	0	2	2
100歳以上	0	0	0
合 計	2	15	17
平均年齢	84	90.1	89.5
最高年齢	85	99	
最低年齢	83	83	



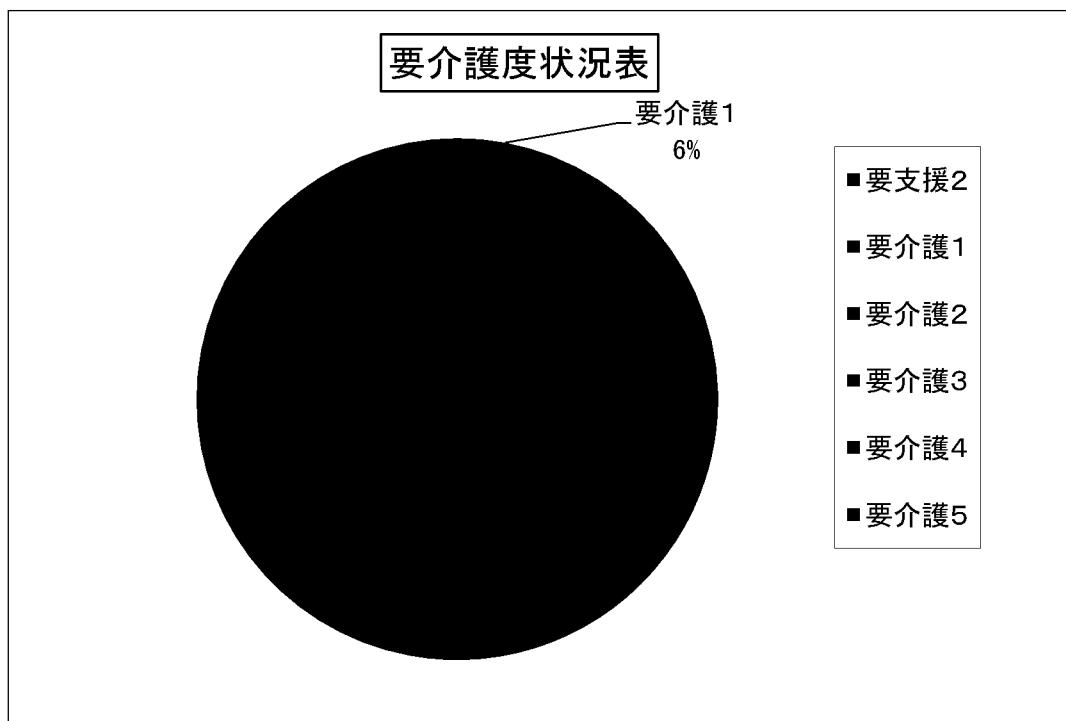
3 事故状況

	洋	和	合計
転 倒	4	2	6
転 落	1	2	3
切り傷	0	2	2
擦 傷	0	0	0
未服薬	0	2	2
皮むけ	0	0	0
打撲	0	0	0
誤投薬	0	0	0
内出血	1	2	3
外 出	4	0	4
その他	0	0	0
合 計	10	10	20



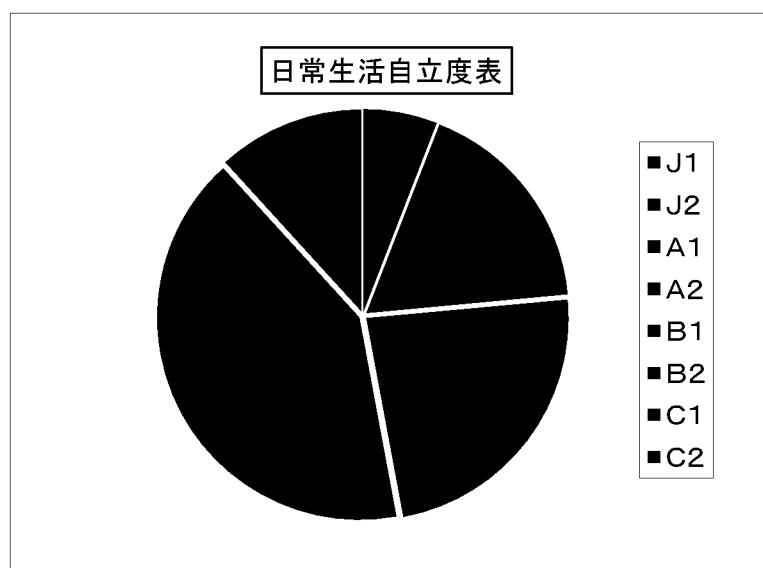
4 要介護度別

	男性	女性	合計	構成比
要支援2	0	0	0	0%
要介護1	0	1	1	6%
要介護2	1	4	5	29%
要介護3	1	2	3	18%
要介護4	0	4	4	24%
要介護5	0	4	4	24%
合 計	2	15	17	100%



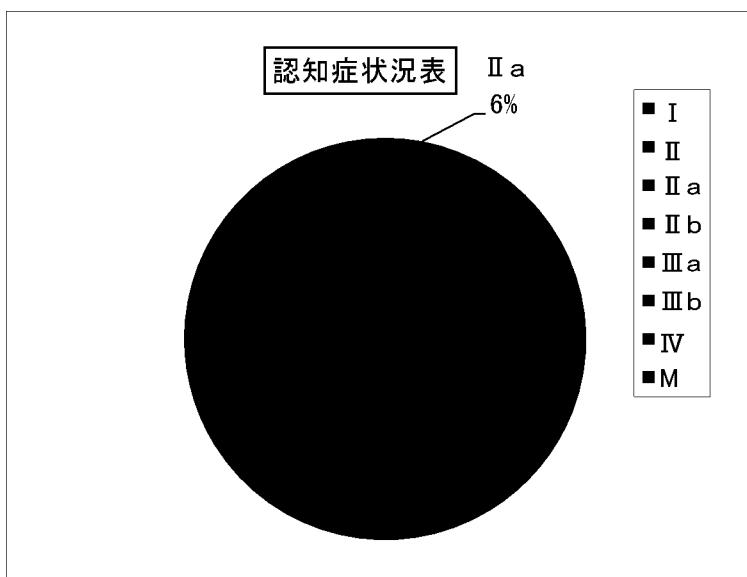
5 日常生活自立度

	洋	和	合計	構成比
J1	0	0	0	0%
J2	1	0	1	6%
A1	1	2	3	18%
A2	3	1	4	24%
B1	2	5	7	41%
B2	2	0	2	12%
C1	0	0	0	0%
C2	0	0	0	0%



6 認知症状況

	洋	和	合計	構成比
I	0	0	0	0%
II	0	0	0	0%
IIa	1	0	1	6%
IIb	0	0	0	0%
IIIa	3	3	6	35%
IIIb	4	2	6	35%
IV	1	3	4	24%
M	0	0	0	0%

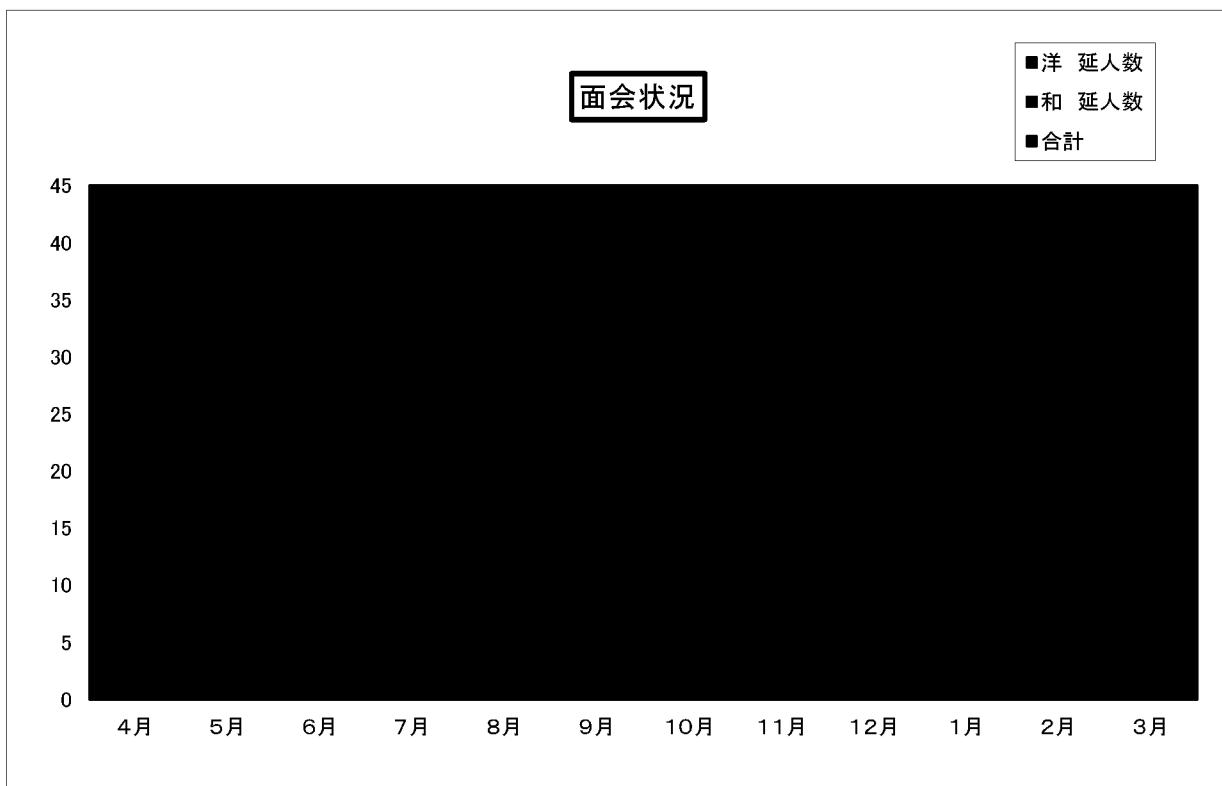


7 入院状況

	実人数	延日数
整形外科系	1	12
精神科系	0	0
内科系	2	49
消化器系	1	66
脳神経系	0	0
合計	4	127

8 面会状況

	洋 延人数	和 延人数	合計
4月	19	6	25
5月	32	5	37
6月	31	3	34
7月	34	1	35
8月	33	8	41
9月	36	2	38
10月	2	24	26
11月	2	28	30
12月	1	32	33
1月	1	15	16
2月	0	0	0
3月	3	10	13
合計	194	134	328



令和3年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 多機能型グループホーム薺柄が谷の家

酒S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし※ゴールは定量化し、誰がみえるる表現とする。

		(達成指標)									
		ゴール					達成指標				
年	月	目標					実績				
		計画	実施	評議会	モニタリング	評議会	計画	実施	評議会	モニタリング	評議会
1	(1)	ケアチェック、強制に基づきカンファレンスを実施し、中重度化に対するケアを提供する アセスメントシートの定期更新(ケアプラン更新時)	主任リーダー	計画実施	W-Fennell もがきアシスト用紙 モニタリング用紙	B 漢	ケア困難ケースに対する状態を維持する。	会議以外でも、都度困難事例の予防に努めている。	B	会議以外でも、都度困難事例のカンファレンスを行い、状態悪化の予防に努めている。	
1	(1)	安全で子育てのため、事故及び事故の再発を防ぐ 身体拘束及び看守防護実施	主任リーダー	計画実施	W-Fennell もがきアシスト用紙 モニタリング用紙	B 漢	アセスメントシートの定期更新を実施する。	アセスメントシートを更新している。	B	アセスメントシートを更新時にアセスメントシートを更新している。	
2	(1)	より見た目もきれいで美味しいソフト食の提供 現病の悪化、既往症の再発予防のため の治療食の充実化	リーダー栄養士	計画実施	毎月の監査 分析	B 漢	毎月の監査分析	毎月の監査分析	B 転倒、転落事故21件→15件 (事故件数R2年35件→R3年25件)	転倒、転落事故21件→15件 (事故件数R2年35件→R3年25件)	C
2	(1)	安全で美味しい食事の提供	リーダー栄養士	計画実施	毎月の監査分析	B 漢	毎月の監査分析	毎月の監査分析	B 年2回研修を実施する。 身体拘束、虐待0件。	年2回研修を実施する。 身体拘束、虐待0件。	B
3	(1)	病院の管理と医療的ケアの充実	主任リーダー看護士	計画実施	毎月の監査分析	B 漢	毎月の監査分析	毎月の監査分析	B 病気の発症を防ぎ重症化や再発をさせない。 (入院症例数R2年67日→R3年60日)	病気の発症を防ぎ重症化や再発をさせない。 (入院症例数R2年67日→R3年60日)	C
3	(1)	脳梗塞性肺炎による入院者0名	主任リーダー看護士	計画実施	毎月の監査分析	B 漢	毎月の監査分析	毎月の監査分析	B 入院日数6日 (R2年1名→R3年0名)	入院日数6日 (R2年1名→R3年0名)	A
4	(1)	感染症予防の充実	主任リーダー	計画実施	毎月の監査分析	B 漢	毎月の監査分析	毎月の監査分析	B 食中毒、感染症の集団感染0件	食中毒、感染症の集団感染0件	A
4	(1)	食中毒・感染症の予防	主任リーダー	計画実施	毎月の監査分析	B 漢	毎月の監査分析	毎月の監査分析	B 非常災害訓練と感染症対策訓練の実施、全職員が感染症対策訓練ができる。	非常災害訓練と感染症対策訓練の実施、全職員が感染症対策訓練ができる。	C
5	(2)	基礎介護力の向上	主任	計画実施	毎月の監査分析	B 漢	毎月の監査分析	毎月の監査分析	B 上期は1回のみの実施であったが研修で得た知識を現場で実践できていた。下期は2回の研修を行っており、職員の知識・技術向上につながった。	上期は1回のみの実施であったが研修で得た知識を現場で実践できていた。下期は2回の研修を行っており、職員の知識・技術向上につながった。	B
5	(2)	外部研修の計画・実施	主任	計画実施	新江戸川研修	C 未	新江戸川研修	新江戸川研修	D 新型コロナウイルス感染予防のため今年度中止する。次年度の計画とする。	新型コロナウイルス感染予防のため今年度中止する。(職場に1つ以上選ぶする)	D

令和3年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 多機能型グループホーム薺柄が谷の家

酒S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、誰がみえるる表現とする。

		ゴール (達成率)									
6 (3)	心身機能の維持向上を図る暮らしの充実実施	利用者の課題を分析し、計画の立案、目標に向けたケアの要綱(QOL及びADL)の向上を目指す	計画実施								
7 (3)	働きやすい職場づくり	介護負担を減らし、安定した運営に取り組む(退職者を目指す)	計画実施								
8 (3)	チームワークの向上	職員が割りみ・やがいをも見つけ出し、達成感を感じられるよう一年間チームでの目標を決めて取り組む(サービス向上発表会等での発表)	計画実施								
9 (5)	業務の効率化	従来のマニュアルの見直しと整理	計画実施								
10 (5)	適正利益の確保	ケアの質向上により入院者数を減少させ、目標稼働率98%を達成する(目標介護保険事業収入34,612,915円)	計画実施								

令和3年度 小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家事業報告

1. 総括

令和3年度は昨年同様『知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供』『主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める』『職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる』『業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する』の4つの重点目標をかかげ取り組んだ。

(1) 「知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づくサービスの提供」

毎月カンファレンスを実施し、ケアの見直しと統一したケアに努めた。困難ケースにおいては、随時ケースカンファレンスを行い、本人の状態の維持に繋げるよう努めた。

事故件数は16件で薬に関する事故が6件、なかでも薬紛失事故2件・同一利用者の飲み間違え2件に関しては、内服薬管理方法が完全ではなかったため再発防止に繋ぐことができなかった。

食事については、嚥下・咀嚼状態の低下が見られる方への適切な食事形態の提供や、食前の口腔内マッサージを継続し、食事量の維持、誤嚥予防に努めた。また、嗜好を取り入れた季節感のある食事やおやつを提供することで利用者に楽しんでいただいた。

食中毒・感染症予防対策、新型コロナウイルス感染症予防対策に関して、手洗いうがいの徹底、室温・湿度管理や30分おきの換気、消毒の強化を行ったことと、ご利用者、ご家族の協力のもと、送迎時には健康観察記録の確認、手指消毒と物品使用後の消毒の徹底をした。防護服着脱の実技訓練も行い、引き続き職員個々の私生活での感染予防対策の徹底と強化に努めた。

疾病の管理では、早期対応にて医療機関との連携を図っていたが1名の方については長期治療が必要となり登録終了となった。

(2) 「主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

各担当利用者のADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の向上を図るため介護過程の展開については、勉強会は開催したが、計画・実施には至らなかった。

学習療法に関しては、学習参加者を1名増やすことができた。昨年に引き続き、感染予防の関係でサポーターの協力を中止し職員のみでの学習支援となった。

アクティビティについては、コロナ禍で外出等制限のある中でも、「心に残る楽しいひととき」を目標に、お楽しみお茶会など新たな内容を取り入れ利用者の満足度を高めることができた。

(3) 「職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる」

定期面談により不安や悩みの軽減を図ることができた。計画的連続休暇については、常勤職員全員が8日間取得することができ、コロナ禍で旅行等には制限はあったが、リフレッシュを図ることができた。有給休暇についてはパート職員も含め5日以上取

得することができた。

(4) 「業務の標準化・見える化・効率化を図り適正利益を確保する」

ケアアシスタントを導入し、業務の分担、業務の効率化を図ることができた。

今年度新規登録者は居宅・地域包括からの移行を含め 11 名。登録終了者は 5 名（内長期入院により 1 名、施設入居 2 名、サービスの移行 2 名）月平均登録者数 24.3 名と、目標を達成することができた。

2. 次年度に向けての展望

令和 4 年度は前年度実施することができなかつた活動内容を、コロナ禍でも工夫を凝らして確実に実施できるよう、より具体的な計画を立て取り組む。

働きやすい職場づくりのため、ＩＣＴ・ＩＯＴ 化の活用を通じてケアの質の向上を図り、職員の業務負担を減らし業務の効率化を図る。さらにリフレッシュ休暇（8 連休）の取得を継続する。

『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』を職場目標にかけ「介護過程の展開」を職員一人ひとりが自ら進んで取り組み、職員・利用者共に、楽しみ・やりがい・達成感を感じられる暮らしづくりを実践する。

また、利用者の在宅生活の継続が困難にならないよう、生活状況・身体状況の確認、介護者の介護力の把握と介護力向上のための助言・指導を行い、多職種協働での健康状態の把握・悪化の予測をし、医療連携を密に行うことで入院による登録終了者を減らし、適正利益の確保を図る。

地域の中での小規模多機能居宅介護の在り方、役割を踏まえ地域で必要とされる拠点を目指す。

3. 運営状況・統計資料

(1) 小規模多機能ホーム会議開催状況

月 日	議 題 内 容	出席者
4月20日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（桜湯、菖蒲湯）について・介護過程の展開・はびねすプラン、利用者様、業務担当について・学習療法月次検討会	7名
5月18日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・介護過程の展開、はびねすプランについて・利用者様・業務担当について・畠について・学習療法月次検討会	6名
6月15日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・行事（薔薇湯、お茶会）について・学習療法月次検討会	8名
7月20日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（ラベンダー湯、ミント湯）について・利用者担当について・学習療法月次検討会	6名
8月17日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・行事（ミント湯、季節湯）について・担当一部変更について・牛乳について・学習療法月次検討会	6名
9月21日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応について・行事（りんご湯、生姜湯）について・利用者担当について・業務の一部変更について・学習療法月次検討会	6名
10月19日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（生姜湯、みかん湯）について・活動計画中間評価について・各利用者様のアセスメントについて・学習療法月次検討会	5名
11月16日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（みかん湯、柚子湯、クリスマス、忘年会）について・利用者様担当・夜勤の休憩時間について・大掃除について・学習療法月次検討会	9名
12月21日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（クリスマス、忘年会、柚子湯など）について・夜勤の巡回時間について・SH側物品庫の帳簿設置について・利用者様担当、牛乳、タイムカードについて・学習療法月次検討会	8名
1月18日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・行事（節分、松湯）について・夜勤の対応について・学習療法月次検討会	9名
2月15日	（オンライン会議）ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応について・行事（季節湯、おやつの外注）について・夜勤の対応について・令和4年度小規模目標について・学	8名

	習療法月次検討会	
3月15日	(オンライン会議) ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（よもぎ湯について）・令和4年度SH目標、誕生日について・令和4年度月のレク、行事担当について・小規模事業計画・活動計画について・学習療法月次検討会	7名

(2) 小規模多機能ホーム事故状況

月 日	内 容	結 果
5月11日	転倒（83才・男性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
6月20日	転倒（85才・男性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
6月30日	転倒（82才・女性）	お尻の痛みあり、受診し、第1腰椎圧迫骨折との診断。
7月 7日	誤投薬（86才・女性）	異常なし
7月11日	転倒（82才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
8月24日	転倒（82才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
11月 2日	薬誤内服（78才・女性）	異常なし
11月 6日	転倒（80才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
11月11日	未投薬（不明）	異常なし
12月10日	耳掃除による両耳からの出血（90才・女性）	耳鼻科受診し、外耳からの出血との診断。
12月17日	誤投薬（78才・女性）	異常なし
1月21日	内服薬紛失（86才・男性）	異常なし
1月23日	内服薬紛失（72才・女性）	異常なし
2月17日	転倒（87才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
3月20日	転倒（93才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
3月24日	転倒（87才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし

(3) 小規模多機能ホーム行事活動報告

日 時	行 事 名	場 所
4月14日	お茶会	なごみの家
4月20日	ドライブ	鷺栖町内
4月24日	ドライブ	男山公園

4月 26日～ 4月 29日	桜湯	なごみの家
5月 2日	ドライブ	丸山貯水池、パレットヒルズ
5月 3日～ 5月 6日	菖蒲湯	なごみの家
5月 9日	ドライブ	パレットヒルズ
6月 20日～ 6月 23日	薔薇湯	なごみの家
6月 22日	お茶会	なごみの家
7月 24日	ドライブ	鷹栖、永山神社
7月 27日～ 7月 30日	ラベンダー湯	なごみの家
8月 22日～ 8月 25日	ミント湯	なごみの家
9月 18日	お茶会	なごみの家
9月 20日	山中様米寿のお祝い	なごみの家
9月 27日～ 9月 30日	りんご湯	なごみの家
10月 13日	紅葉狩り	パレットヒルズ
10月 19日～ 10月 22日	生姜湯	なごみの家
11月 23日～ 11月 26日	みかん湯	なごみの家
12月 20日～ 12月 23日	柚子湯	なごみの家
12月 24日	クリスマス	なごみの家
12月 27日～ 12月 31日	変わり湯（ご当地温泉湯）	なごみの家
12月 28日	忘年会	なごみの家
1月 25日～ 1月 28日	松湯	なごみの家
2月 3日	節分	なごみの家
2月 3日	おやつ（和生）	なごみの家
2月 14日	おやつ（ガトーショコラ）	なごみの家
2月 21日～	変わり湯（ご当地温泉湯）	なごみの家

2月25日		
3月 1日	おやつ (苺のタルト)	なごみの家
3月 2日	おやつ (苺ケーキ)	なごみの家
3月22日～ 3月25日	よもぎ湯	なごみの家

(4) 手作りおやつ

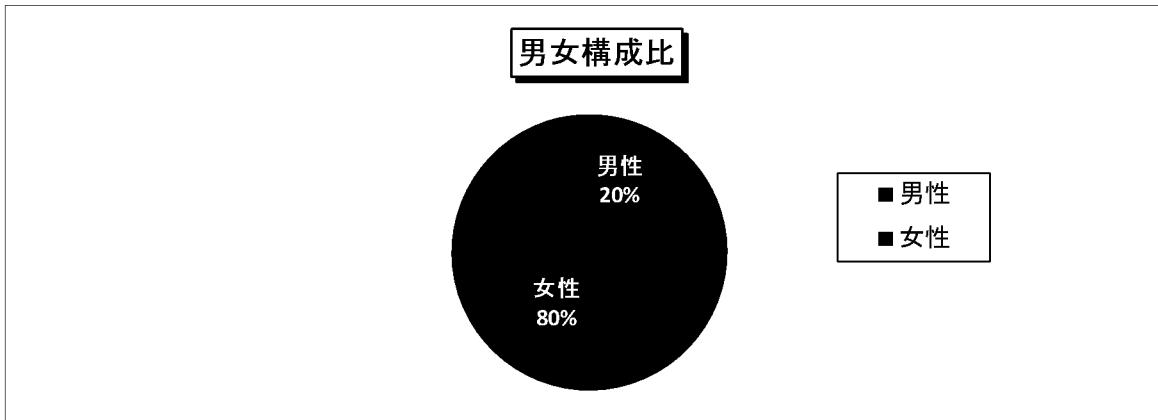
今年度はコロナの流行に伴い、中止とする。

令和 3 年度
小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家
現況報告書

(自 : 令和 3 年 4 月 1 日 ~ 至 : 令和 4 年 3 月 31 日)

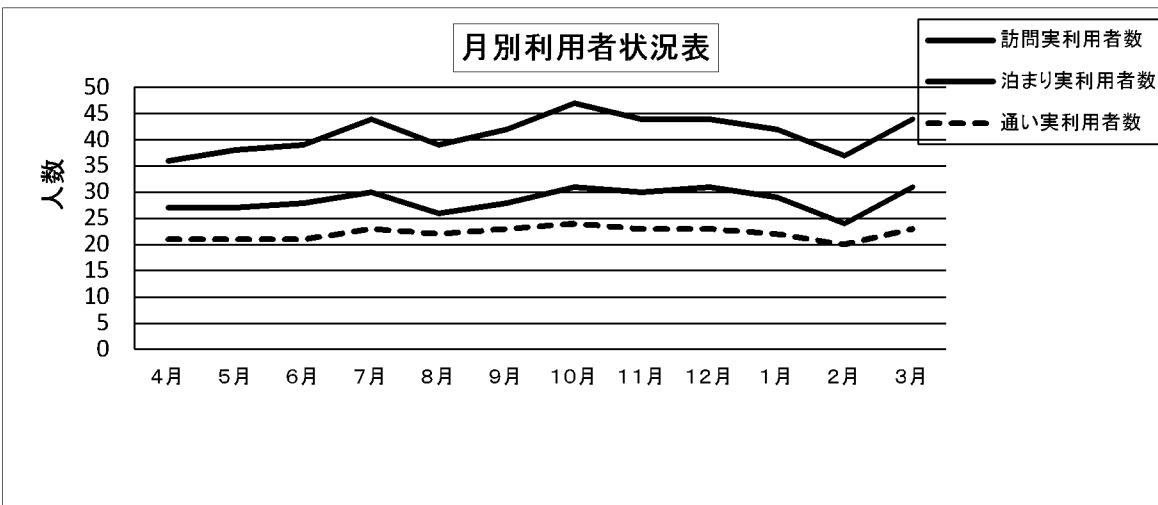
1. 利用登録者（令和4年3月31日現在）

男性	女性	合計
5	20	25



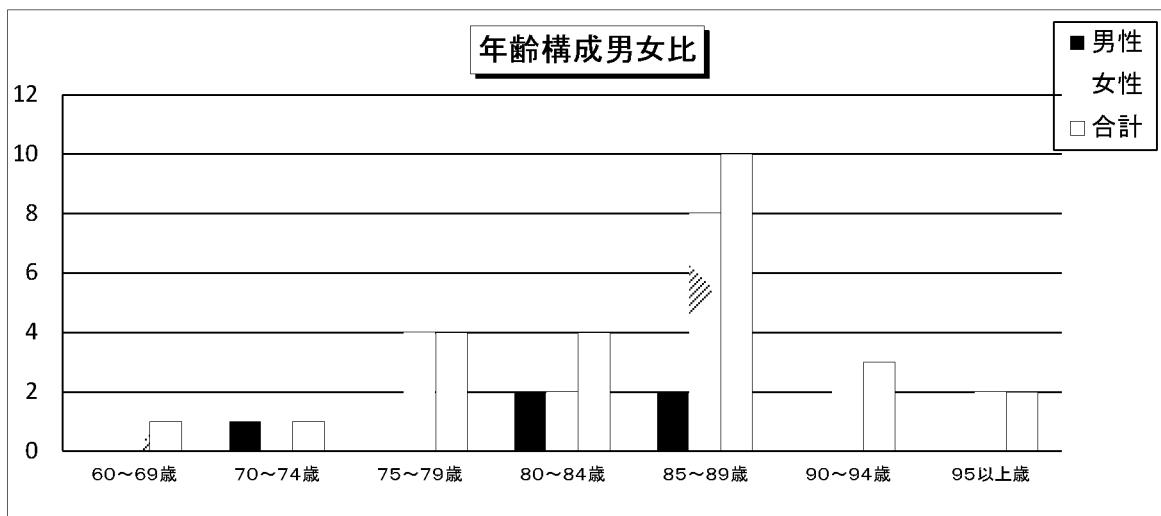
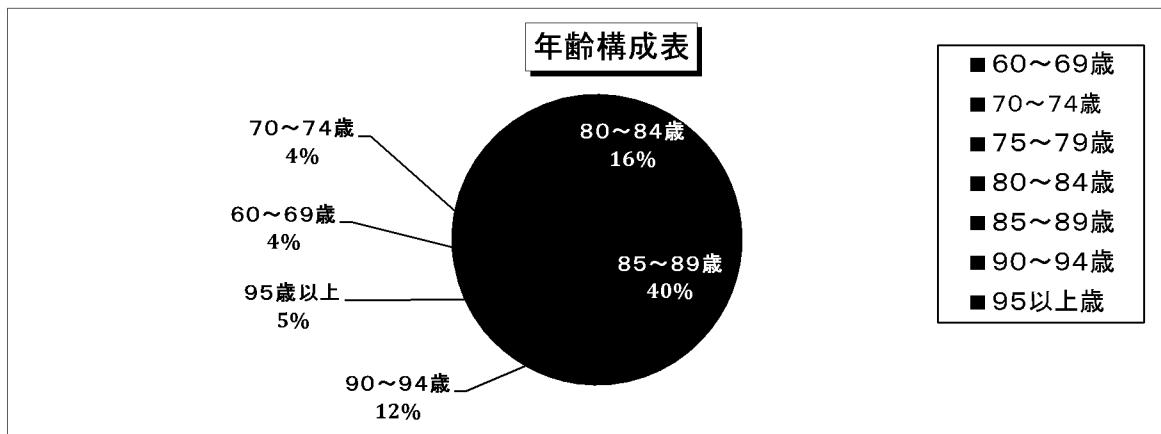
2. 月別利用者状況

月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	停止者	
4月	21	6	9	0	0	
5月	21	6	11	1	0	
6月	21	7	11	1	0	
7月	23	7	14	1	2	
8月	22	4	13	0	0	
9月	23	5	14	0	0	
10月	24	7	16	2	1	
11月	23	7	14	1	0	
12月	23	8	13	0	0	
1月	22	7	13	4	2	
2月	20	4	13	1	0	
3月	23	8	13	1	0	
平均	22.2	6.3	12.8	1.0	0.4	



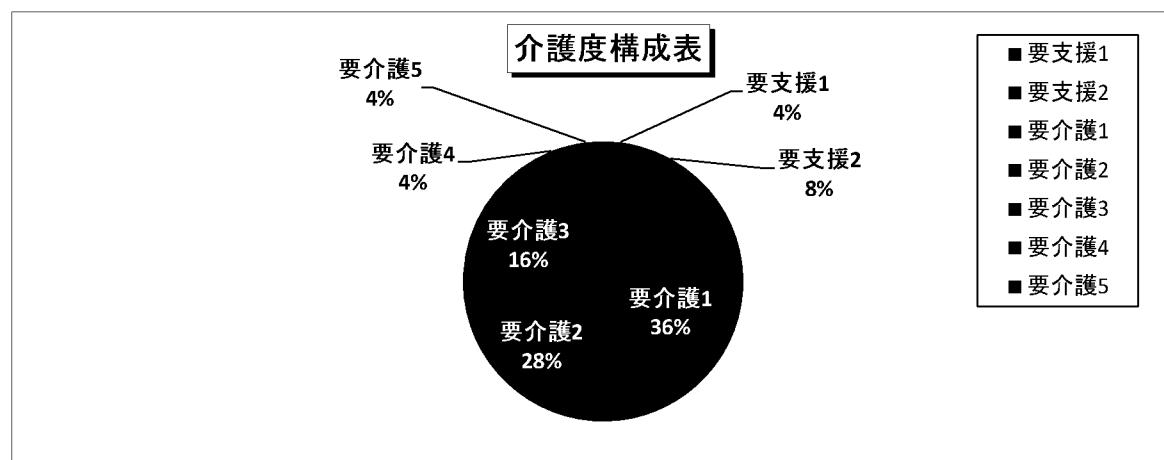
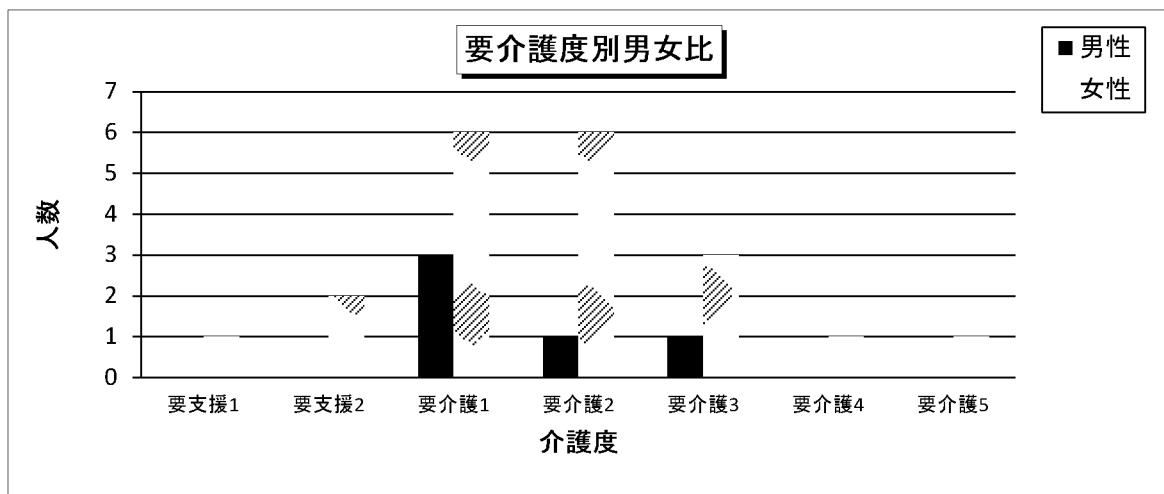
3. 年齢

年齢	男性	女性	合計
60～69歳	0	1	1
70～74歳	1	0	1
75～79歳	0	4	4
80～84歳	2	2	4
85～89歳	2	8	10
90～94歳	0	3	3
95以上歳	0	2	2
合計	5	20	25
平均年齢	82.8	84	83.8
最高年齢	89	96	96
最低年齢	72	65	65



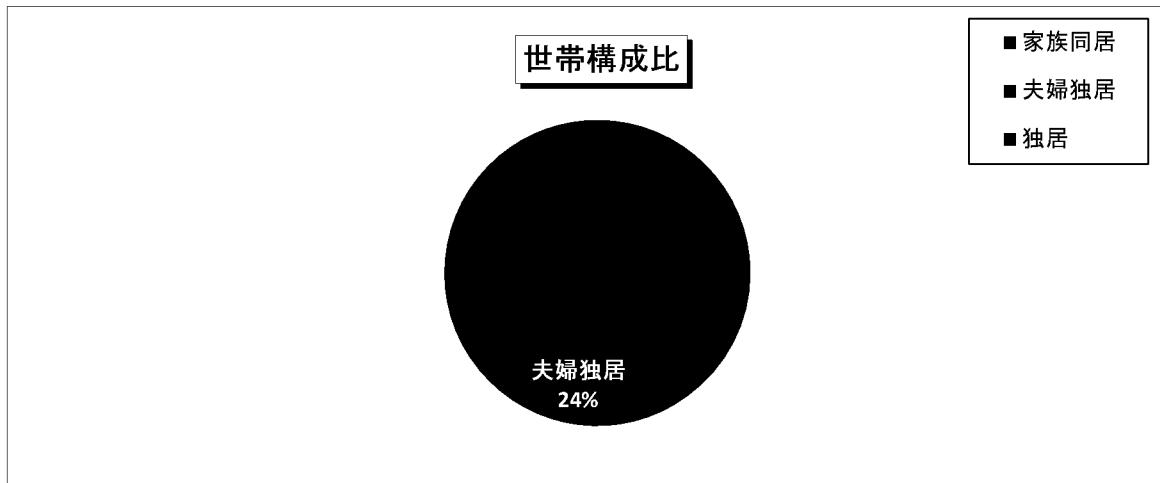
4. 要介護度別

介護度	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	1	1	4%
要支援2	0	2	2	8%
要介護1	3	6	9	36%
要介護2	1	6	7	28%
要介護3	1	3	4	16%
要介護4	0	1	1	4%
要介護5	0	1	1	4%
合計	5	20	25	100%



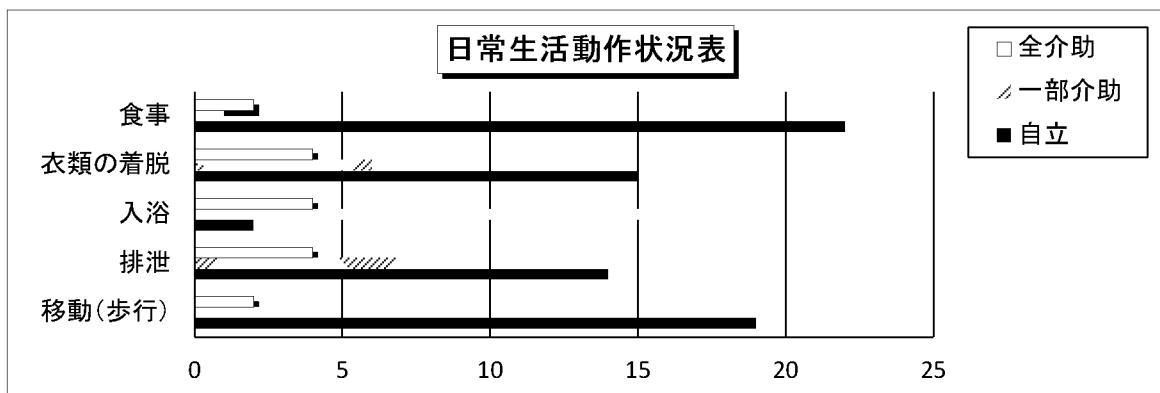
5. 世帯構成

家族同居	夫婦独居	独居	合計
10	6	9	25



6. ADL(日常生活動作)状況

分類	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	19	4	2	25
排泄	14	7	4	25
入浴	2	19	4	25
衣類の着脱	15	6	4	25
食事	22	1	2	25



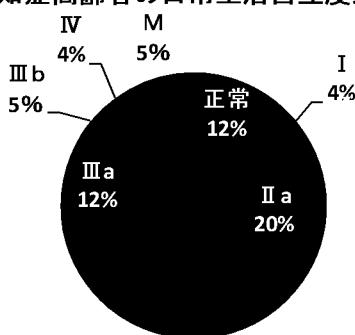
7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

認知度	人数
正常	3
I	1
II	0
II a	5
II b	9
III	0
III a	3
III b	1
IV	1
M	2
合計	25

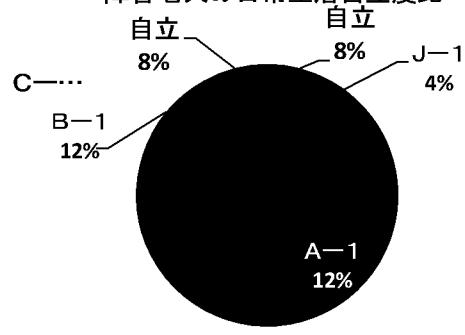
8. 障害老人の日常生活自立度状況

自立度	人数
自立	2
J-1	1
J-2	5
A-1	3
A-2	9
B-1	3
B-2	2
C-1	0
C-2	0
合計	25

認知症高齢者の日常生活自立度比



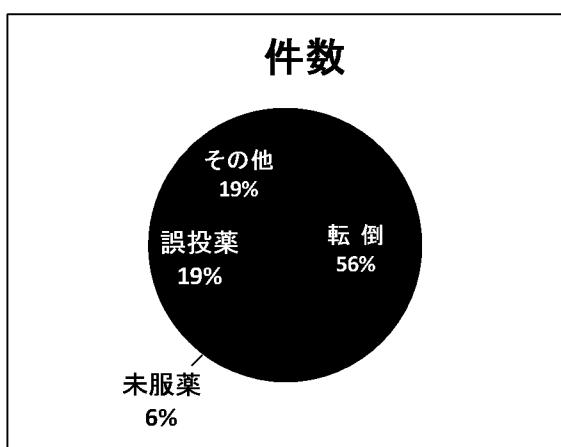
障害老人の日常生活自立度比



9. 事故状況

内容	件数
転倒	9
転落	0
切り傷	0
表皮剥離	0
未服薬	1
誤飲	0
投薬忘れ	0
誤投薬	3
打撲	0
外出	0
その他	3
合計	16

件数



令和3年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム嚮陽なごみの家

達S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

1	(1)	安全で快適に基づくサービスの提供	アセスメントシートの整理と定期的なデータ更新	主任 リーダー	計画 実施	データ更新 実施	C	新規 データ更新	C	新規一部の利用者様の更新のみ実施に至るため。
			タブルチェックシートを定期的に用意して使用する	主任 リーダー	計画 実施	タブルチェックシートを定期的に用意して使用する	B	タブルチェックシートにおいて随時ケータイ等による問題を把握する	B	タブルチェックシートにおいて随時ケータイ等による問題を把握する
2	(1)	安全で美味しいある食事の提供	安全で予防的ケアに努め事故の再発を防ぐ	主任 リーダー	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	C	ケア困難ケースにおいて随時ケータイ等による問題を把握する	B	会議にて、都度困難事例のカンファレンスを行い、状況把握のため、担当者にて報告している。
			身体拘束及び體待防止の取り組みを継続して行う(年2回研修実施)	主任 リーダー	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	C	事故件数前年度比-2件(R2年度1件2件→R3年度10件)	C	事故件数前年度比-2件(R2年度1件2件→R3年度10件)
3	(1)	食中毒・感染症の予防	個別に合わせた適切な食事形態を提供する	高齢者士官 栄養士	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	C	事件記録件数前年度比-0件	C	事件記録件数前年度比-0件
			利用者の嗜好を読み入れた季節感のある食事、行食事の計画し実施する	高齢者士官 栄養士	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	B	事件記録件数前年度比-0件	B	事件記録件数前年度比-0件
4	(1)	食中毒・感染症の予防	感染症対策委員会と連携しながら、コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ、食中毒の感染予防に努める(毎回感染症0件)	主任 看護師 リーダー	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	D	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。	A	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。
			非常災害における劇痛と感染症対策の一の事態に備える。	主任 看護師 リーダー	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	C	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。	B	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。
5	(1)	疾病的管理と医療的ケアの充実	在宅生活を継続できるよう、ケアマネジメントの強化、介護支援サービスの提供で在宅での介護力を見極め必要な支援・援助を行ふ。	主任 看護師 主任 看護師 主任	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	C	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。	B	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。
			総合記録シートあつたかす健康ノートとの連携を図る。	主任 看護師 主任	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	B	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。	B	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。
6	(2)	基礎介護力の向上	注入金体で臓器別基盤介護研修を実施しより実践的な知識、技術を身につける。	主任 リーダー	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	B	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。	B	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。
			学習療法をより多くの方に参加していただきたいために、定期的に利用者ご家族へPPTを作成し、定期的に実習診断を行い、評価を行ふ。定期的に実習診断を行い、評価を行ふ。	主任 担当	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	B	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。	B	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。
7	(2)	環境を改善し過ごしやすい生活環境を作る	施設内の作業室や植物を育てる	小林 田中	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	B	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。	C	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。
			施設内の作業室や植物を育てる	小林 田中	計画 実施	毎日の事例分析で事故の原因を分析	B	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。	C	年回研修を実施し、食事に關して摂取量がべき、食事量が安定する。

8 (3)	働きやすい職場づくり	不安を取り除き、上司・部下が心を通り合わせるために、定期に職員面談を実施するリフレッシュ体制の実施と有給休暇計画的削減(退職者を減らし、安心した運営に取り組む)を目標とする	課長 主任 リーダー	計画 実施	面談実施 実施	面談実施 実施	B	面談実施 実施	面談実施 実施	面談実施 実施	B	面談実施 実施
9 (3)	チームワークの向上	目標を経緯し、具体的な目標を意識して思いを一つにする。職員が楽しみ・やかがいを見つけて出し、達成感を感じられる一年間チームでの目標を決めて取り組む(サービス向上委員会等での発表)	主任 リーダー	計画 実施	毎日2回朝で目標共有する 目標決定 満足	毎日2回朝で目標共有する 目標決定 満足	B	毎日2回朝で目標共有する 目標決定 満足	B	毎日2回朝で目標共有する 目標決定 満足	B	毎日2回朝で目標共有する 目標決定 満足
10 (5)	業務の効率化	従来のマニュアルの見直しと整理。 訪問サービス・受否承認・生活支援・家庭支援専門 ケアアシスタントの導入	課長 主任 リーダー	計画 実施	業務整理 見直し 改善 未実施	業務整理 見直し 改善 未実施	B	業務整理 見直し 改善 未実施	B	業務整理 見直し 改善 未実施	C	業務整理 見直し 改善 未実施
11 (7)	適正利益の確保	目標介護保険事業収入67,100,987円 タブルチックの徹底と総合記録シートを活用し予防的なケアに努め、長期入院、施設に入居を減らす 光熱費に於してのコスト意識を高め、新規に努め、(前年度より)-3% 新たな計算の取得とLIFEとの情報連携の推進	主任 リーダー	計画 実施	医療機関者登録者数の維持(R2年6名→R3年7名) 新規登録者数の維持(登録目標人数23名)	A	医療機関者登録者数の維持(登録目標人数23名)	医療機関者登録者数の維持(登録目標人数23名) 新規登録者数の維持(登録目標人数25名)	A	医療機関者登録者数の維持(登録目標人数23名) 新規登録者数の維持(登録目標人数25名)	1名	医療機関者登録者数の維持(登録目標人数23名) 新規登録者数の維持(登録目標人数25名)

令和3年度 地域密着型特別養護老人ホーム ぬくもりの家えん 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

令和3年度は引き続き新型コロナウィルス感染症予防を徹底しながらの業務推進となつた。前年度よりの感染予防対策を継続するとともに、ワクチン接種を全入居者、職員が3回実施し、入居者・職員ともにひとりの感染者も出すことなく経過している。朝市の中止、長期間にわたる面会制限の実施やボランティア活動の自粛も続いたが、友の会のみなさんの尽力により11月より短期間ではあったがコーヒー茶ろんを再開できた。

ケアについては病気の悪化を防ぐ予防的なケアを実践するために、ダブルチェックの徹底と毎月のリーダー会議の中でケアカンファレンスを行っていたが、1年で5名の入院があった。また、年間入院日数が113日間となり、昨年度の28日間と比較すると大幅に増え、目標の50日以内は達成することができなかつた。要因としては、病気の予測や迅速な対応の不足が考えられる。食事ケアではターミナル期の方への適切な食事形態や提示方法の見直しについて毎日の食事摂取状況の観察を行い、必要に応じて栄養士、看護師、ケアスタッフと情報を共有し提案、そして実践に繋げることでご本人の苦痛を緩和し、最後まで口から食事をしていただき、少しでも食べたい意欲に添えるよう支援を行うことができた。また、LIFEの運用を通して定期的に入居者の状況を評価することができた。

行事については、屋内で楽しめる行事としてリンゴ湯やぬくもりの家えんで初となる新任職員によるそば打ちを実施することができた。外出ができない状況のなか、生のそば打ちを目の前で楽しむことができ、ご入居者の笑顔が多くみられたことで職員のやりがいにも繋がつた。

安心していきいきと働ける職場づくりとしては、リフレッシュ休暇7日間を対象職員全員が取得。3連休については計画通りシフトに組み入れていたが、急なシフト変更により全員取得とはならなかつた。また、新任職員3名をチーム全体でサポート。特に外国人職員においては、言葉や生活習慣の違いなどにより、業務の流れを理解することに困難な場面もあつたが、本人の努力や介護の仕事に対しての積極性が周りの職員への理解と協力へ繋がつていつた。

ICT化による業務の効率化の取り組みは、介護記録の電子化にむけた環境整備が整い、介護職全員が実際に使用できるよう研修に参加した。職員の中には電子化に不安の声もあつたが、使用方法のマニュアルを作成し本格運用にむけ準備した。

最後に適正収益の確保では、特養事業の目標98%（目標介護保険収入102,314,000円）に対し、実績は稼働率97.7%（105,552,932円）であった。目標の稼働には達しなかつたが、平均要介護度の重度化（前年4.1→R3年度4.2）により減収とはならなかつた。光熱水費については使用量は減少しているが、燃料費の高騰により大幅な支出増となつた。1人あたりのオムツ関連費用も前年より10%増となつた。

2. 展望（次年度に向けて）

令和4年度は「多職種共同でケアを提供し、健康で豊かな暮らしをつくる」「感染症や災害対策などの予防・防災意識を高める」「自主性・主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」「チームワークの向上とICTの活用を通じて職場環境の改善を図る」「適正利益の確保」の5つを重点目標としていく。

ケアについては基本のダブルチェックを継続し、緊急性の高いケースは、1週間以内に多職種が集まり、カンファレンスを実施していく。

豊かな暮らしをつくる取り組みは、委員会を再編し、職員ひとりひとりが主体的に潤いのある環境づくりやアクティビティの充実を図るよう努める。

働きやすい職場環境づくりでは、リフレッシュ休暇を8日間とし、さらに3連休が取得できる体制をつくる。また、ICTの活用として介護記録の電子化の本格運用により業務の効率化を図る。

最後に、適正収益の確保では特養事業の目標稼働率は98%以上（目標介護保険収入104,152,000円）を達成する。また、使用物品のコスト意識を持ち日用品などの節約に努める。特にオムツに関しては使用のルール徹底を図り、前年比使用量-3%を目指す。

以上を次年度に向けた展望とする。

3. 運営状況・統計資料

（1）業績報告

①ベッド稼働率

ベッド稼働率		
98.0%	97.7%	99.7%

②延べ入居者数（単位：人）

延べ入居者数		
7,154	7,134	99.7%

③事業収入(単位：千円)

事業収入		
102,314	105,553	103.2%

(2) ボランティアの受け入れ

①ボランティア受け入れ実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	
延人数	14	7	6	9	4	3	11	13	7	3	0	0	

②ボランティア協力団体一覧

団体名	活動・協力内容
ぬくもり友の会	・シーツ交換 ・除雪
絵画サークル虹の会	・絵画展示

(3) 外出・外泊・面会状況

年月	面会延べ人数(名)	外出回数 (回)	外泊回数 (回)
令和3年4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0
10月	19	0	1
11月	30	0	0
12月	66	0	0
令和4年1月	54	0	0
2月	0	0	0
3月	12	0	0
合計	181	0	1

※窓越し面会は数に含まず

(4) 行事

日 時	行 事 名	場 所
令和3年5月1日	えん開設記念日	そら・はなりビング
令和3年6月4日	花壇整備	えん庭
令和3年7月15・16日	えん祭り	てくてく
令和3年8月6日	夕涼み会	駐車場
令和3年8月10日	味覚祭	えん庭
令和3年9月20日	敬老祝い	そら・はなりビング
令和3年10月25～27日	りんご湯	浴室
令和3年11月24～26日	ゆず湯	浴室
令和3年12月16日	忘年会	そら・はなりビング
令和3年12月24日	クリスマス会	そら・はなりビング
令和4年2月3日	豆まき	はなりビング
令和4年3月3日	ひな祭り	はなりビング

(5) リーダー会議（計11回）

月 日	議題内容	参加人数
令和3年4月28日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項（オペレーション評価）・スタッフマネジメント、施設用より	10名
令和3年5月26日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項（オペレーションについて、特養の浴室清掃について）・スタッフマネジメント	10名
令和3年6月23日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項（環境チェックについて）・スタッフマネジメント	10名

令和3年7月22日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(オペレーション更新)・スタッフマネジメント	10名
令和3年8月25日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(簡易キッド取り扱いに関わる研修、、日中のテナ導入について)・スタッフマネジメント	10名
令和3年9月22日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(オペレーションの更新)・スタッフマネジメント	10名
令和3年10月28日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(清掃について)・スタッフマネジメント(異動について)	10名
令和3年11月24日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(加湿器の使用開始について、特養の清掃方法について)・スタッフマネジメント	10名
令和3年12月22日	・主任1名不在につき、会議未実施	0名
令和4年1月27日	・令和3年度事業計画策定会議	8名
令和4年2月22日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(Hugの活用について、引き継ぎ方法について)・スタッフマネジメント	10名
令和4年3月23日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(介護度変更について、Hugについて)・スタッフマネジメント	10名

(6) 特養会議(計12回)

月 日	議題内容	参加人数
令和3年4月5日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開について・その他(モニタリングについて、家族の電話について、小規模夜勤時間の変更について)	11名

令和3年5月10日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(オペレーションについて、転倒事故について、衣替えについて、各委員会と年間行事担当の入れ替えについて、6月シフトについて、入居者担当変更について、発注担当・利用担当変更について)	13名
令和3年6月7日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（行方不明時の対応マニュアルについて、パット在庫について、担当入居者の窓ふきについて）	10名
令和3年7月5日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（ゴミ箱のゴミについて、オペレーションについて、冷蔵庫整理について、コロナ対策について）	11名
令和2年8月2日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（オペレーションについて、入居者検診について）	11名
令和3年9月6日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（オペレーションについて、入居者担当変更について、抗体検査の方法について、扇風機について、下駄箱の清掃について、リビングの床拭きについて、オムツ代について、ZOOMの使用方法について）	11名
令和3年10月4日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（オペレーションについて、入居者変更について、衣替えについて、収納方法について）	11名
令和3年11月1日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（オペレーションについて、担当入居者の写真撮影について）	7名
令和3年12月6日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（オペレーションについて、リビングの時計について、清掃方法について）	8名

令和4年1月7日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（オペレーションについて、入居者トロミ量について、加湿器清掃について）	11名
令和4年2月7日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他（モニタリングの方法について）	10名
令和4年3月7日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他（オペレーションについて、SH人事について）	9名

(7) 給食会議（計11回）

月 日	議 題 内 容	参 加 人 数
令和3年4月15日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（小規模おやつ中止の日程について、生ゴミバケツについて、スタッフへのお願い事、GW期間のトワニ発送日の変更について、5月の勤務について）	8名
令和3年5月20日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（小規模おやつ中止の日程について、来月のシフトについて）	7名
令和3年6月17日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（食中毒研修、7月の勤務について、スタッフ休暇延長について、スタッフへのお願い事）	7名
令和3年7月15日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（8月の勤務について、職員雇用について）	7名
令和3年8月19日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（実習生の食事について、人事関係について）	8名
令和3年9月17日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（小規模の追加食数の流れについて）	8名

	て)	
令和3年10月21日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（感染予防研修、生ゴミバケツの処理方法について）	8名
令和3年11月18日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（おやつの使用方法について）	9名
令和3年12月16日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（人事について）	9名
令和4年1月20日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他（寸胴鍋について）	9名
令和4年2月18日	コロナウイルスの影響により未実施	0名
令和4年3月18日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他	8名

(8) 入院状況

病院名	診療科目	症状・病名	入院日	退院日	日数
大西病院	ICU	外傷性硬膜下血腫・胆管癌	7月15日		44
医療センター	消化器内科	下血大腸憩室・内痔核	7月28日	8月4日	6
医療センター	神経内科	誤嚥性肺炎	8月16日		39
医療センター	神経内科	精査・リハビリ	3月22日	(4月14日)	9
森山病院	外科	鼠径ヘルニア手術	3月22日	3月31日	8

(9) 通院状況

病院名	診療科目	計（人）	病院名	診療科目	計（人）
浅井医院	内科	8	永山腎泌尿器科 CL	泌尿器科	4
旭川赤十字病院	外科	1	なかの呼吸器内科 CL	呼吸器内科	6
	脳神経外科	1	たかはし整形外科 CL	整形外科	3

市立病院	皮膚科	12	森山メモリアル病院	リハビリ 科	11
	血液内科	1		整形外科	2
医療センター	神経内科	19	片山整形 CL	整形外科	5
	循環器内 科	1	いまだ耳鼻科	耳鼻科	1
医大病院	皮膚科	9	もとまち皮膚科 CL	皮膚科	11
厚生病院	救急外来	1	圭泉会病院	精神科	1
森山病院	外科	8	旭川脳神経外科病院	脳神経外 科	1
	脳神経外 科	11	林歯科医院	歯科	9
	整形外科	1	相木整形外科医院	整形外科	1
	内科	7	たかはし整形外科 CL	整形外科	1

令和 3 年度 地域密着型特別養護老人ホーム
ぬくもりの家えん
現況報告書

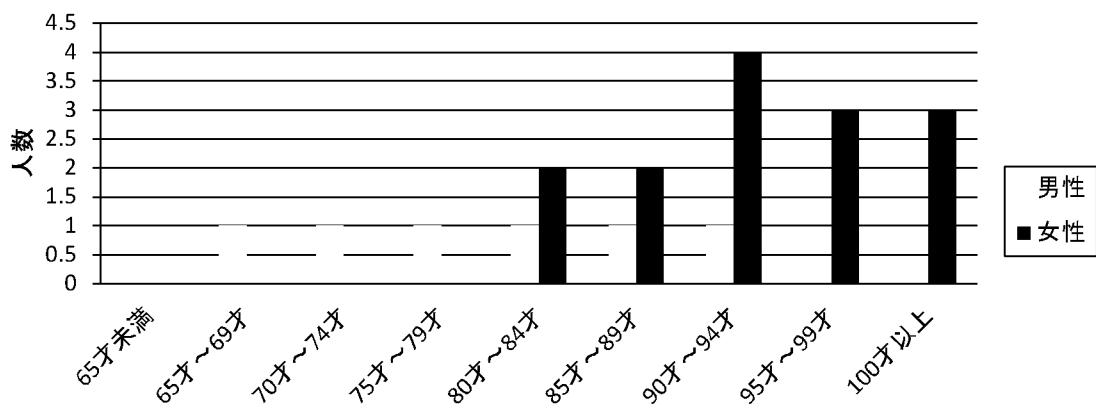
(自：令和 3 年 4 月 1 日 ~ 至：令和 4 年 3 月 31 日)

1.入居者年齢構成(令和4年3月31日現在)

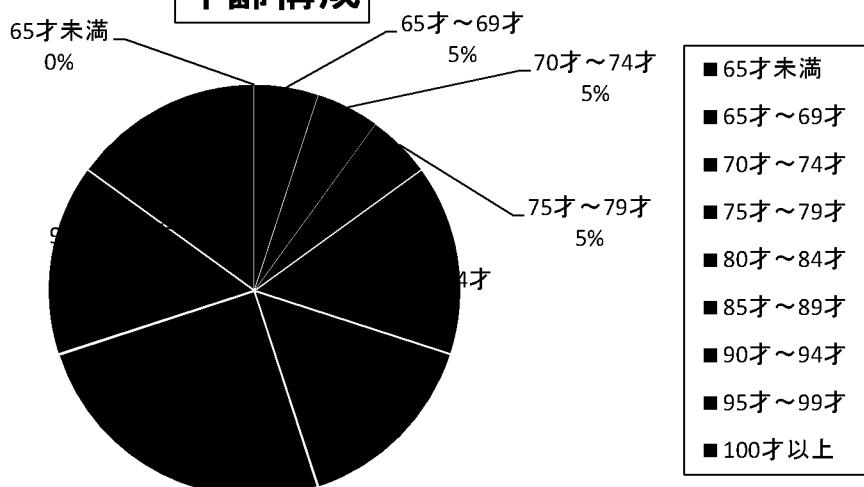
	在籍者			
	男性	女性	計	
65才未満	0	0	0	
65才～69才	1	0	1	
70才～74才	1	0	1	
75才～79才	1	0	1	
80才～84才	1	2	3	
85才～89才	1	2	3	
90才～94才	1	4	5	
95才～99才	0	3	3	
100才以上	0	3	3	
計	6	14	20	

【最高年齢】
男性 94歳
女性 104歳
【最低年齢】
男性 78歳
女性 85歳
【平均年齢】
男性 80.0歳
女性 92.6歳
全体 88.9歳

年齢構成(男女比)

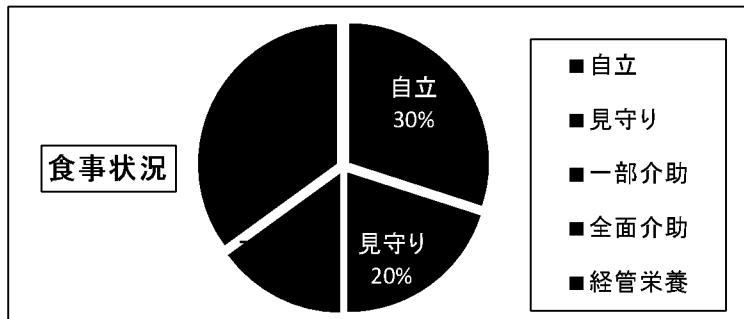


年齢構成



2.食事状況(令和4年3月31日現在)

	自立	見守り	一部介助	全面介助	経管栄養	合計
男性	3	1	1	1	0	6
女性	3	3	2	6	0	14
合計	6	4	3	7	0	20



3.移動状況(令和4年3月31日現在)

	歩行		杖 自立	歩行器など		車いす使用		合計
	自立	要介助		自立	自立	要介助	自立	
男性	1	0	0	1	0	1	3	6
女性	2	0	1	0	0	2	9	14
合計	3	0	1	1	0	3	12	20

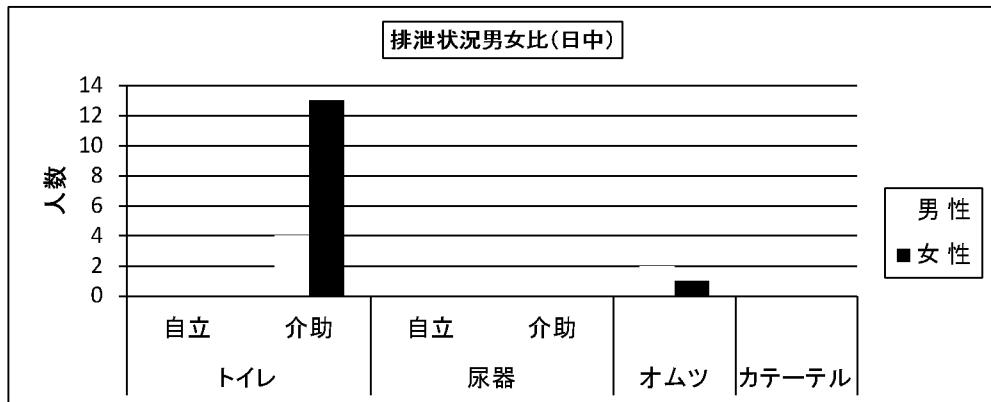
4.入浴状況(令和4年3月31日現在)

	一般浴		車いす浴	合計
	自立	介助		
男性	0	4	2	6
女性	0	6	8	14
合計	0	10	10	20

5.排泄状況(令和4年3月31日現在)

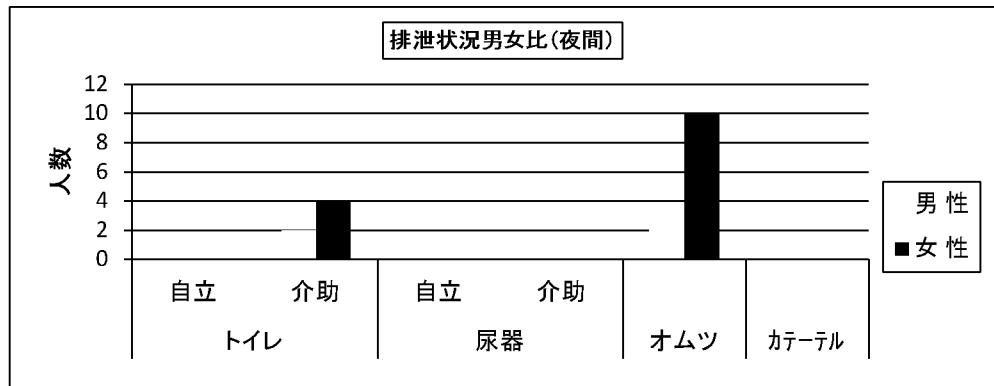
日中

	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	0	4	0	0	2	0	6
女性	0	13	0	0	1	0	14
計	0	17	0	0	3	0	20



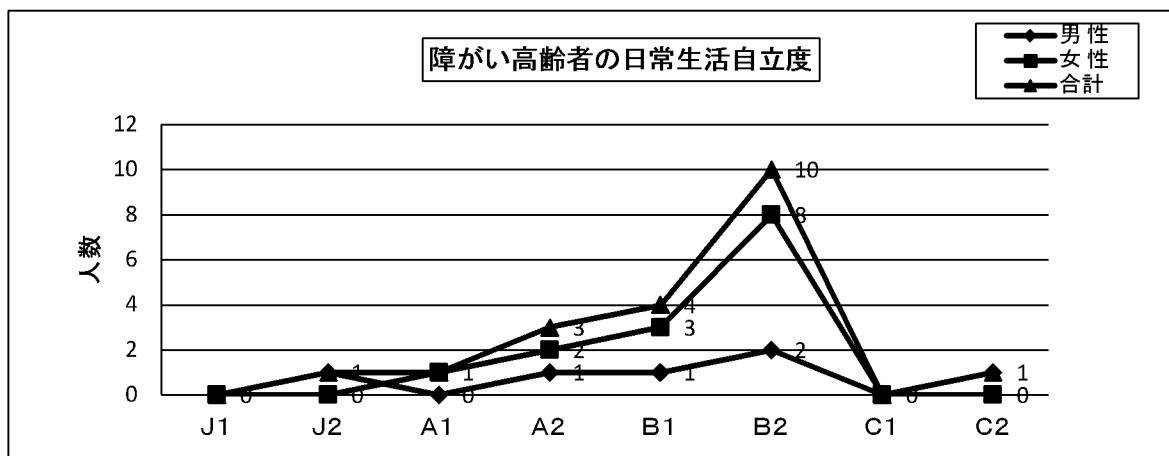
夜間

	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	0	2	1	0	3	0	6
女性	0	4	0	0	10	0	14
計	0	6	1	0	13	0	20



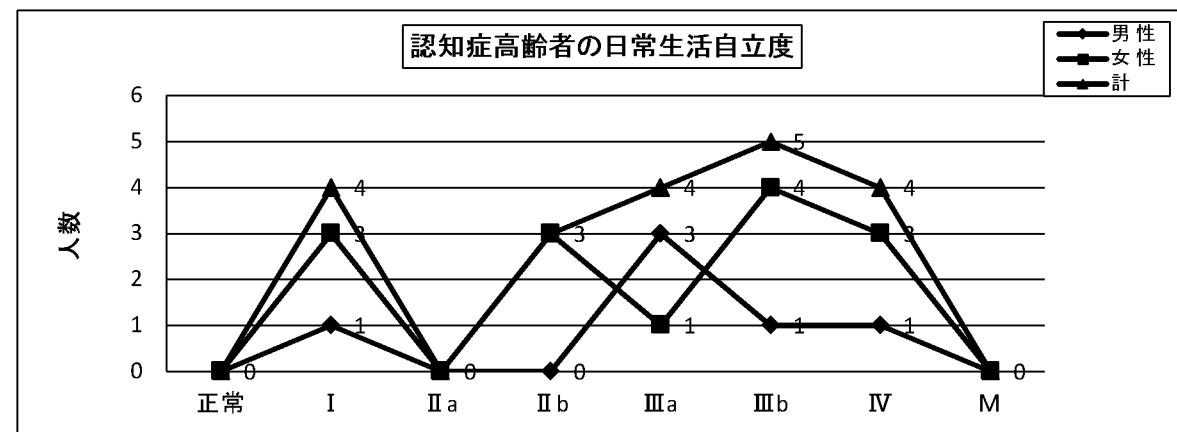
6.身体状況(障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定)

	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	計
男性	0	1	0	1	1	2	0	1	6
女性	0	0	1	2	3	8	0	0	14
合計	0	1	1	3	4	10	0	1	20



7.認知症状況(認知症高齢者の日常生活自立度判定)

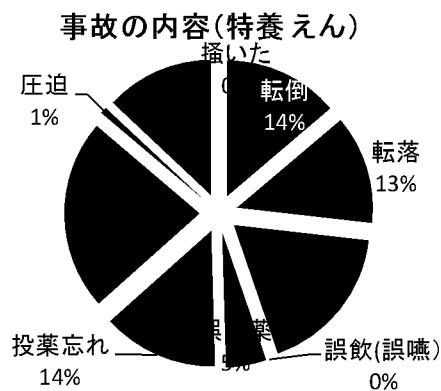
	正常	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	計
男性	0	1	0	0	3	1	1	0	6
女性	0	3	0	3	1	4	3	0	14
合計	0	4	0	3	4	5	4	0	20



8.事故の状況

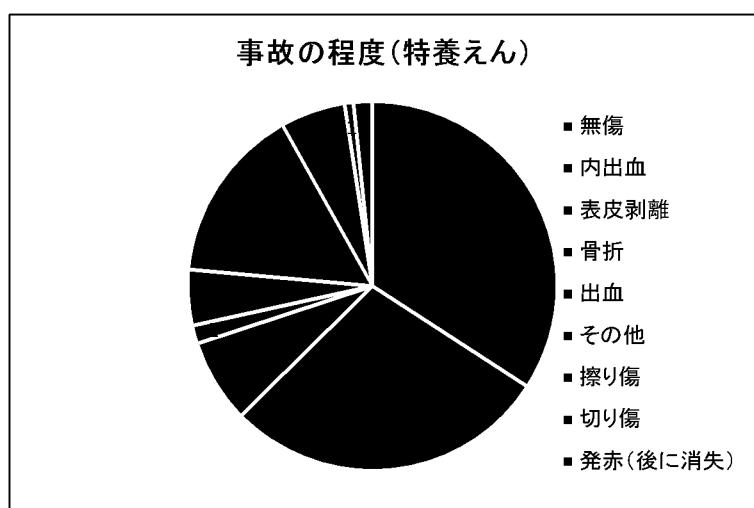
(1) 内容

内 容	件数
転倒	17
転落	16
ぶつけた	22
誤飲(誤嚥)	0
誤投薬	6
投薬忘れ	17
異食	0
その他	28
圧迫	1
搔いた	0
不明	16
	123



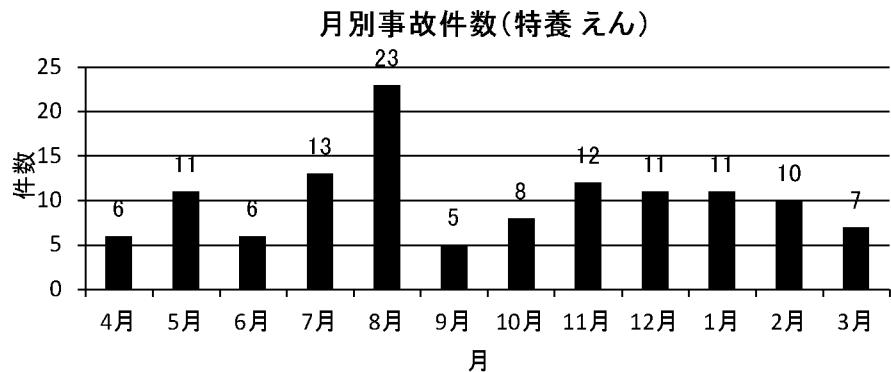
(2) 程度

内 容	件数
無傷	42
内出血	35
表皮剥離	9
骨折	2
出血	6
その他	19
擦り傷	7
切り傷	1
発赤(後に消失)	2
	123



(3) 月別発生件数

発生月	件数
4月	6
5月	11
6月	6
7月	13
8月	23
9月	5
10月	8
11月	12
12月	11
1月	11
2月	10
3月	7
	123



9. 入院状況

	病院名	診療科目	症状・病名	入院日	退院日	日数
1	大西HP	ICU	外傷性硬膜下血腫・胆管癌・	7月15日		45
2	医療センター	消化器内科	下血大腸憩室・内痔核	7月28日	8月4日	8
3	医療センター	神経内科	誤嚥性肺炎	8月16日		40
4	医療センター	神経内科	精査・RH	3月22日	4月14日	10
5	森山病院	外科	鼠径ヘルニアOpe	3月22日	3月31日	10
14						
15						
						113

10. 通院状況

病院名	診療科目	計(人)	病院名	診療科目	計(人)
浅井医院	内科	8	永山腎泌尿器科CL	泌尿器科	4
旭川赤十字病院	外科	1	なかの呼吸器内科CL	呼吸器内科	6
	脳神経外科	1	たかはし整形外科CL	整形外科	3
市立病院	皮膚科	12	森山メモリアル病院	リハビリ科	11
	血液内科	1		整形外科	2
医療センター	神経内科	19	片山整形CL	整形外科	5
	循環器内科	1	いまだ耳鼻科	耳鼻科	1
医大病院	皮膚科	9	もとまち皮膚科CL	皮膚科	11
厚生病院	救急外来	1	圭泉会病院	精神科	1
森山病院	外科	8	旭川脳神経外科病院	脳神経外科	1
	脳神経外科	11	林歯科医院	歯科	9
	整形外科	1	相木整形外科医院	整形外科	1
	内科	7	たかはし整形外科CL	整形外科	1

部門・事業所名	担当者名	担当者特別引導者名	会員が成るチーム名	A:幹事会以上の結果	B:幹事会以下の結果	C:アクションした結果	D:まったくアクションなし	※ゴールは定量化し、証がみえる実現とする。
1	課長 主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
2	課長 主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
3	主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
4	主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
5	主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
6	主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
7	?	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
8	主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
9	主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
10	主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
11	主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
12	課長 主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員
13	主任 委員会 会員	ケチアツカルト シフレ底	食事検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員	定期検査会 会員

令和3年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 地域密着特別養護老人ホーム ぬくもりの家 えん

令和3年度 小規模多機能ホームぬくもりの家えん事業報告

1. 総括

今年度は①コロナ禍の中、感染対策を継続し、小規模多機能サービスの内容を充実させ、目標利用者を確保する②健康管理を徹底し、地域・自宅で生活し続けられるケアの提供③適正利益の確保の3つを重点目標として取り組んだ。

①では、基本的な手洗い・うがい・消毒の対応を徹底し、日々の体調観察を継続することで集団感染ゼロを達成できた。ただ、同居家族の陽性発覚に至る経緯の中で、確認の初動が遅れるといった危うい場面があり、利用者本人・家族・スタッフ間で感染症予防に対する危機感の共有ができていなかった反省点が挙げられる。サービス提供側と利用者側双方が共通の意識を持って取り組む必要性を感じた。長引くコロナ禍の影響で、外出や食事を楽しむような行事を中止せざるを得ない状況が続いた。制限のある中でも楽しんでもらえるようなレクリエーションを考案し取り組むことで、更なる充実を図っていきたい。ボランティアや喫茶の再開も、期間限定ではあるが行うことができた。

②について、介護過程の展開に取り組む予定だったが、着手できなかった。介護過程の取り組みは、専門職としての思考過程を整理し、チームで共有することでご利用者のQOLを向上させ、職員のスキルアップにもつながるものである。次年度は確実に実施する。

事故予防は、リスクマネジメント委員会を中心に「昨年度より事故件数20%減少」と「薬に関する事故を50%減少」を目標に取り組んだ。リスクマネジメント委員会による事故の検証により、事故件数では30件が25件と17%の減少となったが目標には及ばなかった。薬の事故に関しては、11件が10件とほぼ横ばい状態の結果であった。薬の事故については、都度手順の周知を行っていたが徹底しきれていない現状が浮き彫りとなり、事故のあった時にだけ周知するのではなく、定期的な振り返り・確認することで件数の減少につなげていく。

③適正利益確保については、目標平均登録者数を23.5名としたが、法人内で行っている地域包括ケアマネジメント会議等、ケアマネジャーとの情報共有・連携を密にすることで、平均登録者数24.8名を達成した。介護保険事業収入は64,946,046円（前年比+110.2%）と、昨年度を大幅に上回る収益を確保することができた。スタッフ全員がチーム一丸となってより良いケアの提供に取り組んだことが、今回の大幅な収入増につながった。また、中山間地域等における小規模事業所加算の算定や、区分変更による介護度の見直しも增收要因のひとつと考える。

新規利用者は6名で、全て法人居宅からの紹介による移行だった。停止者5名のうち4名は併設の地域密着型特養、1名は法人内の特養へ入居し、住み慣れた鷹栖町を離れることなく生活の場を自宅から施設へと移すことができた。今後も地域への周知活動を精力的に取り組み、居宅・医療機関等と連携を図りながら、新規利用者及び待機登録者の確保に努める。

その他働きやすい職場づくりの取り組みでは、リフレッシュ休暇（7連休）と有給取得を計画・実施することができた。年度途中で正職員が1名退職となり、欠員状態の中で事業所の垣根を超えた協力体制により、ケアの質を下げることなく日々の業務に取り組むことができた。互いに支え合い・助け合いながら働くことで、事業所としてより強固なチームワークを築くことができた。

2. 次年度に向けて

令和4年度も引き続き新型コロナウィルス等の感染症予防に取り組み、集団感染ゼロを目指す。利用者本人だけではなく、同居家族に対しても送迎時の体調確認を徹底し、感染予防に対する意識の共有を図る。また、コロナ禍であっても地域密着型の利点を活かした「地域とのつながりを感じられる生活」を支援できる事業所づくりに取り組む。

ICTを活用した職場環境改善を図り、隨時オペレーションの見直しを行うことで、楽しくやりがいを持って働くことのできる職場づくりを目指す。

適正利益確保のため、引き続き平均登録者数23.5名を目標に掲げる。待機登録者を増やし、スムーズな受け入れを行うことで安定した運営につなげる。地域ケア会議等で法人居宅や包括支援センターとの情報共有を密にし、小規模多機能サービスを必要としている方を見落とすことなく、迅速かつ適切な対応が取れるよう努める。

3. 運営状況・統計資料

＜事業活動の統計・データ＞

（1）小規模多機能ホーム会議開催状況

月 日	議 題 内 容	出席者
4月 7日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・オペレーションの検討・マナーモラル	9名
5月 12日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・家族への手紙開始について・家族からの要望	8名
6月 9日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・行事計画・委員会について・COPDについて	9名
7月 7日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・避難訓練について・家族からの要望	10名
8月 4日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・熱中症について・学生実習について	9名
9月 1日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・利用者の内服薬について	9名
10月 6日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・雨天時の運転について	9名

11月3日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・ほのぼの導入について・感染症予防について	9名
12月8日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・パソコンのフォルダ整理について	8名
1月12日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療関係・加湿管理について・内服薬について	9名
2月2日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・医療関係・事故の検討・訪問時の感染予防について	6名
3月3日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・医療関係・公用車の取り扱いについて	7名

(2) 小規模多機能ホーム行事活動報告

日 時	行 事 名	場 所
5/1	開設記念日	てくてく
5/5～5/7	花見	パレットヒルズ
6/4	花壇整備	
7/15・16	えんまつり	てくてく
8/10	味覚祭	てくてく
9/24・29	新春ゲーム大会	てくてく
10/25～27	りんご湯	小規模
12/20～22	ゆず湯	小規模
12/23	クリスマス会	てくてく
12/28	年忘れゲーム大会	てくてく
1/6～7	初詣	鷹栖神社
2/2・3	豆まき	てくてく
3/2・3	ひな祭り	小規模リビング

令和3年度 小規模多機能ホーム

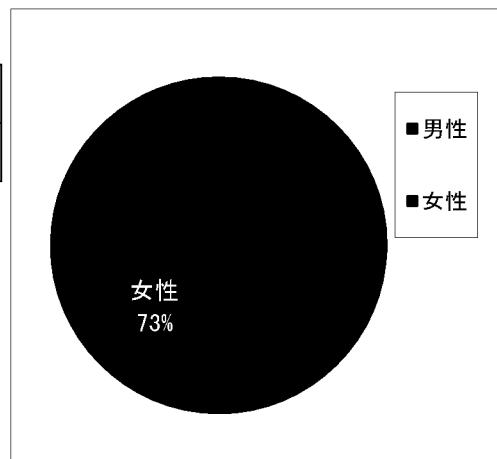
ぬくもりの家えん

現況報告書

(自：令和3年4月1日～至：令和4年3月31日)

1. 利用登録者（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

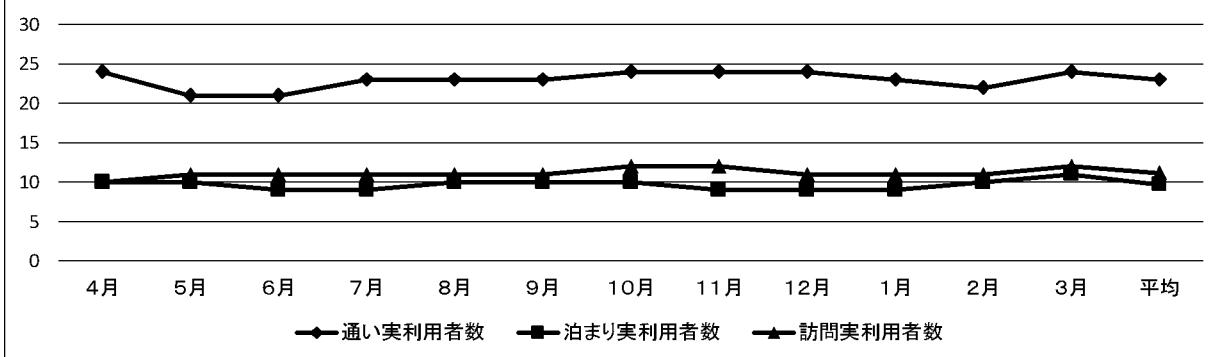
男性	女性	合計
8	22	30



2. 月別利用者状況

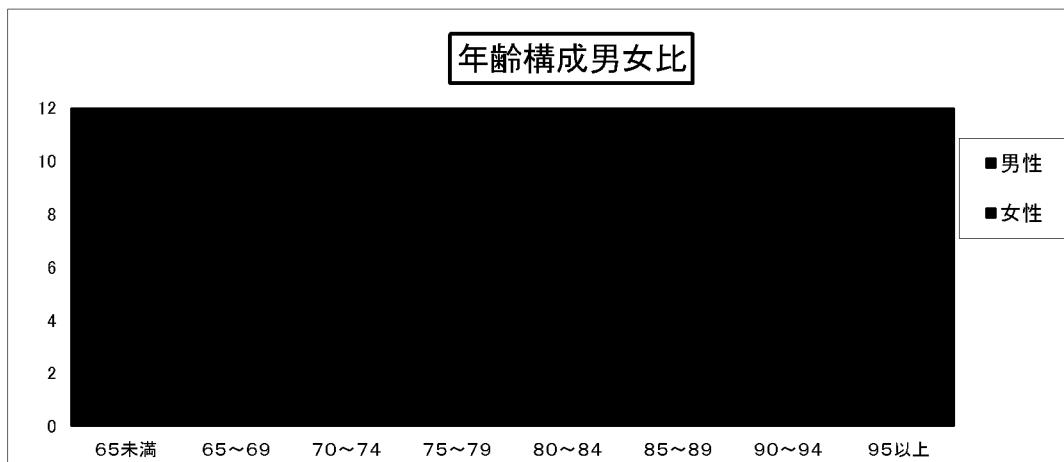
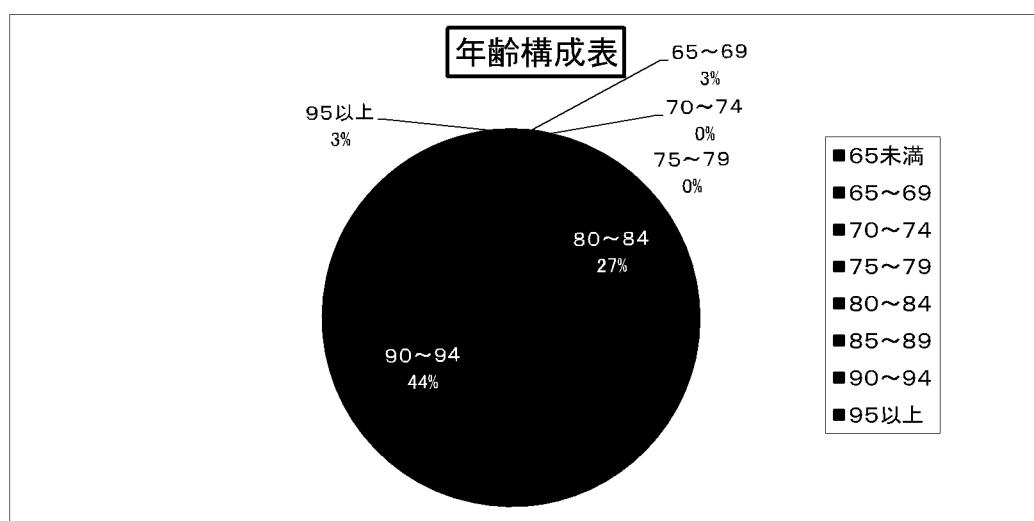
月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	休止者	停止者
4月	24	10	10	1	0	1
5月	21	10	11	2	0	1
6月	21	9	11	1	0	0
7月	23	9	11	1	0	0
8月	23	10	11	1	0	1
9月	23	10	11	0	0	1
10月	24	10	12	0	0	0
11月	24	9	12	0	0	0
12月	24	9	11	2	0	0
1月	23	9	11	0	0	0
2月	22	10	11	1	0	1
3月	24	11	12	1	0	0
平均	23	10	11	1	0	0

月別利用者状況表



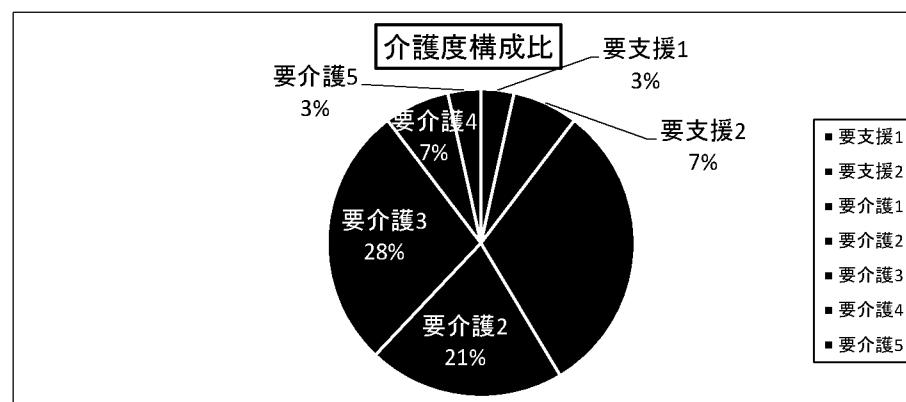
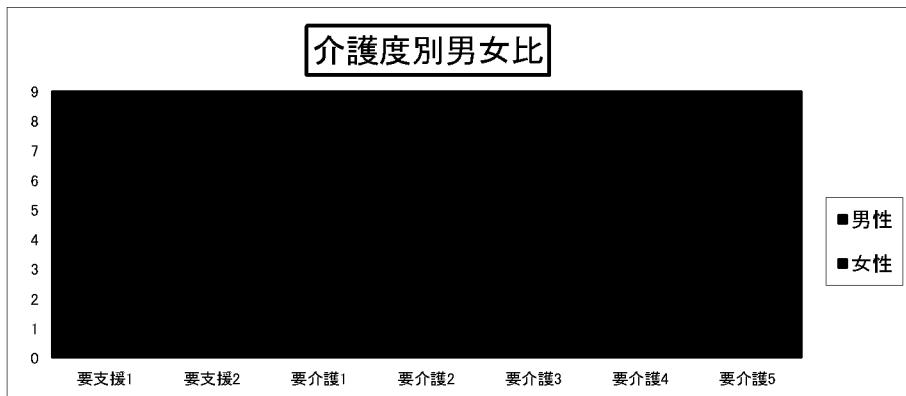
3. 年齢

	男性	女性	合計
65未満	0	0	0
65~69	1	0	1
70~74	0	0	0
75~79	0	0	0
80~84	3	5	8
85~89	1	6	7
90~94	3	10	13
95以上	0	1	1
合計	8	22	30
平均年齢	85.3	87.5	86.4
最高年齢	91	98	
最低年齢	66	79	



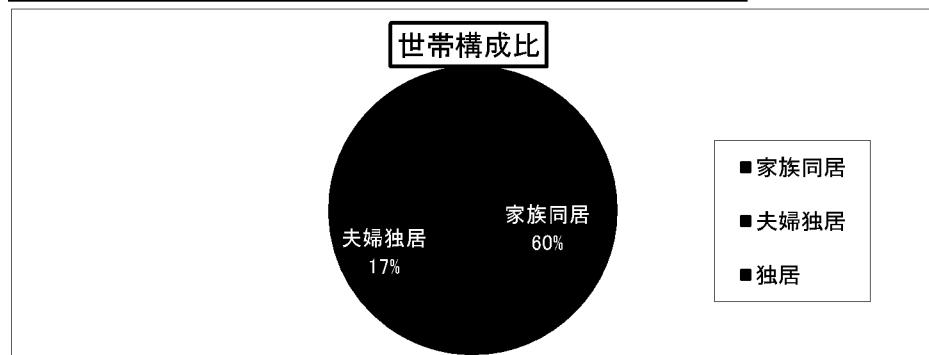
4. 要介護度別

	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	1	1	3%
要支援2	0	2	2	7%
要介護1	1	8	9	31%
要介護2	2	4	6	21%
要介護3	4	4	8	28%
要介護4	1	1	2	7%
要介護5	0	1	1	3%
合計	8	21	29	100%



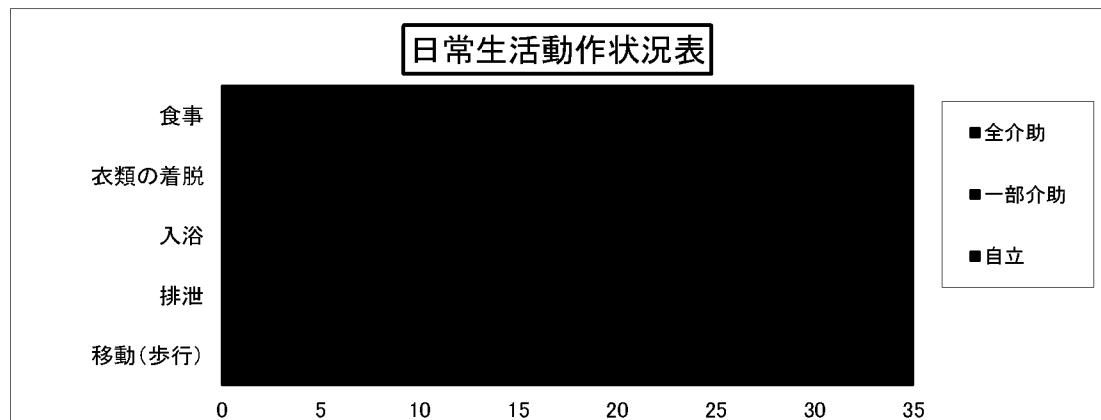
5. 世帯構成

家族同居	夫婦独居	独居	合計
18	5	7	30



6. ADL(日常生活動作)状況

	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	17	11	2	30
排泄	12	16	2	30
入浴	10	20	0	30
衣類の着脱	12	18	0	30
食事	29	1	0	30

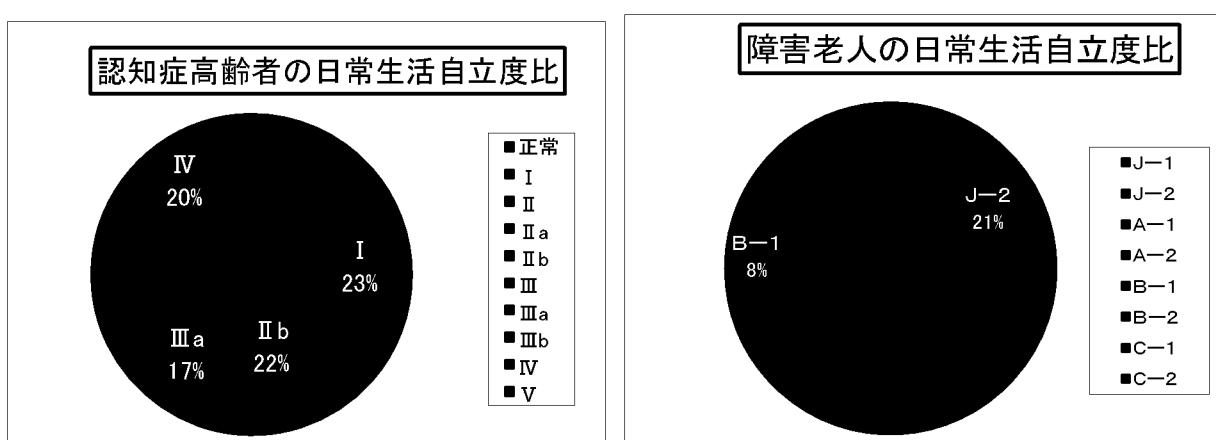


7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

認知度	人数
正常	4
I	7
II	0
II a	5
II b	0
III	0
III a	5
III b	3
IV	6
V	0
合計	30

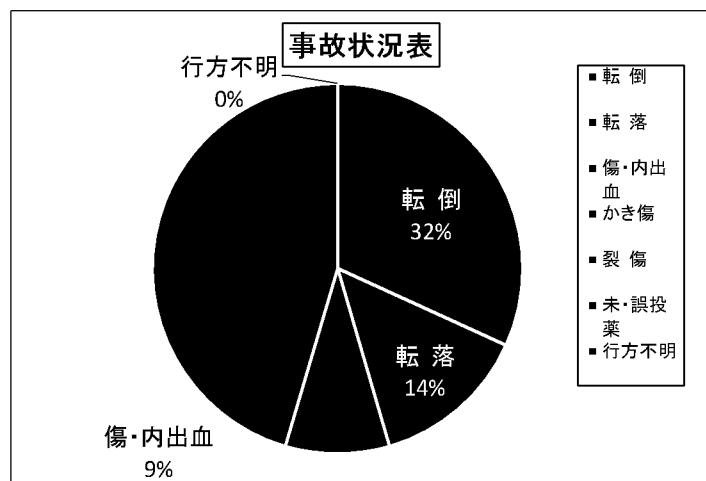
8. 障害老人の日常生活自立度

自立度	人数
J-1	3
J-2	4
A-1	4
A-2	11
B-1	2
B-2	6
C-1	0
C-2	0
合計	30



8. 事故状況

内容	件数
転 倒	7
転 落	3
傷・内出血	2
かき傷	0
裂 傷	0
未・誤投薬	10
行方不明	0
その他の	3
合 計	25



令和3年度 部門別活動計画

		[評価基準]S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 C:期待どおりの結果 D:期待以下の結果
部門/事業所名	小規模多機能ホーム 滝川の家 えん	
1	(1) 健康管理会議による定期検査と運動指導による体力・運動能力向上の実現。 (2) 健康管理会議による定期検査と運動指導による体力・運動能力向上の実現。 (3) 健康管理会議による定期検査と運動指導による体力・運動能力向上の実現。 (4) 健康管理会議による定期検査と運動指導による体力・運動能力向上の実現。	S S S S
2	(1) 健康管理会議による定期検査と運動指導による体力・運動能力向上の実現。 (2) 健康管理会議による定期検査と運動指導による体力・運動能力向上の実現。	S S
3	(1) 健康管理会議による定期検査と運動指導による体力・運動能力向上の実現。 (2) 健康管理会議による定期検査と運動指導による体力・運動能力向上の実現。	S S
4	(1) 安全で美味しい食事の提供。 (2) 安全で美味しい食事の提供。	S S
5	(1) 所有者の意向を踏まえた定期的・継続的な巡回視察による施設の運営監視。 (2) 所有者の意向を踏まえた定期的・継続的な巡回視察による施設の運営監視。	S S
6	(1) 平均年齢が高いため、日々の生活の中でも、お出でいただく際の移動や外出行動の際に、車椅子等の歩行補助具の活用による安全の確保。 (2) 平均年齢が高いため、日々の生活の中でも、お出でいただく際の移動や外出行動の際に、車椅子等の歩行補助具の活用による安全の確保。	S S
7	(1) 会員登録料金の支払い手数料の削減。 (2) 会員登録料金の支払い手数料の削減。	S S
8	(1) 会員登録料金の支払い手数料の削減。 (2) 会員登録料金の支払い手数料の削減。	S S
9	(1) 平均年齢が高いため、日々の生活の中でも、お出でいただく際の移動や外出行動の際に、車椅子等の歩行補助具の活用による安全の確保。	S
10	(1) 会員登録料金の支払い手数料の削減。 (2) 会員登録料金の支払い手数料の削減。	S S
11	(1) 会員登録料金の支払い手数料の削減。 (2) 会員登録料金の支払い手数料の削減。	S S
12	(1) 現在は職員の育成不足による、未だ十分な人材育成ができない。 (2) 現在は職員の育成不足による、未だ十分な人材育成ができない。	S S
13	(1) 月に1回の定期巡回会議開催による、相合ひや事業所運営会議を行なう。 (2) 月に1回の定期巡回会議開催による、相合ひや事業所運営会議を行なう。	S S
14	(1) 現在は職員の育成不足による、未だ十分な人材育成ができない。 (2) 現在は職員の育成不足による、未だ十分な人材育成ができない。	S S
15	(1) 介護保険制度の運営改悪による、運営改悪見直し等の対応。 (2) 介護保険制度の運営改悪による、運営改悪見直し等の対応。	S S

令和3年度 サービス付き高齢者向け住宅ぬくもりの家たかほ 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」を基本方針に、取り組んだ。

入居者の ADL・QOL の向上については、平均要介護度でみると昨年度の 1.13 に対し、今年度は 1.22 と若干上昇した。ADL・認知症状の状態に合わせて適宜区分変更を行ったことが要因のひとつと考えられる。新型コロナウィルス感染症の流行に伴い、あつたかす体操やふまねっと教室の休止が続き、入居者の筋力低下が心配された。しかし、その間、たかほ職員によるボランティアでの体操教室を 7 月から、昼食前の嚥下体操と短時間の体操も支援員が実施し ADL 維持に努めた。併設のフィットネス俱楽部の活用を新規入居者も含め 10 名と昨年より 6 名増加した。

事故については、昨年度 28 件で今年度は 17 件と 39% 減少した。全て、単独事故で、目の行き届かない場所（自室内）での発生が 82% を占めている。昨年度に引き続き、転倒が事故の 88% を占め、骨折に至る事故が 3 件にのぼった。うち 2 件が長期入院となり退居となる結果だった。

新型コロナウィルス感染症の流行が継続しており、全入居者の検温、館内消毒及び、出入りする業者を含めた来訪者と全スタッフへの手洗い・うがいの励行、手指消毒、体調管理およびマスク着用の周知・徹底に努めしたことにより、入居者のインフルエンザ及び新型コロナウィルスの罹患はなかった。

入院については年間の延べ入院者数は 7 名以内、年間入院延べ日数を 100 日以内とする目標に取り組んだ。既往歴・現病歴から必要者には、血中酸素飽和度測定や体重測定を行い心不全の兆候に注意し、体調不良による受診や入院はなかった。延べ入院者数は年間で 4 名だったが、年間入院延べ日数は 172 日と目標は達成できなかった。入院者 4 名の内、3 名は長期入院だった。内訳として 2 名は転倒し骨折、1 名は病状の悪化だった。そのため、体調管理と ADL 維持・環境整備の迅速な対応ができるよう、各サービスとかかりつけ医との情報共有・連携を強化する必要があった。

退居者は 7 名。内訳としては、有料老人ホームへの転居、特別養護老人ホームぬくもりの家えん入居、小規模多機能から特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑のロングショートステイ利用、グループホーム入居、長期入院 3 名となっている。ADL 低下・認知症進行によりサービス付き高齢者向け住宅での生活が難しい状況から退去となっており、機能維持への関わりの必要性を感じた。

入居者の楽しみづくりとして、季節の創作物、あつたかす体操指導士の協力を得て実施した「たかほリンピック（ゲーム）」や、花火の会、北野サロンでの創作物の展示などを行い、その様子をブログアップした。面会制限中の時期や遠方のご家族からは、近況を知ることができ良かったと感想を頂いた。また、今年度より認知症総合支援事業として「認知症カフェ（デコぽん茶屋）」「ちょっと大丈夫かな食堂」の委託を受けた。「認知症カフェ」

については、緊急事態宣言等により全11回のうち5回の開催となったが、新規参加者増のためフィットネス利用者へチラシ配布をするなど周知を行った。「ちょっと大丈夫かな食堂」については、新型コロナ感染症の流行から未実施となった。

適正利益の確保については、平均稼働率は97.7%と目標の97%を達成した。待機登録者は最大で7名いたが、保留の返答者も多かった。待機者確保のため、旭川市の地域包括支援センターと上川管内の地域包括支援センターへパンフレット送付のPR活動を行った。しかし、直接の申し込みには繋がらなかつた、今後も継続したPR活動を行っていく必要性を感じた。また、入居申込者への定期的な状況確認と意向確認を行っていくこととする。

2. 展望（次年度に向けて）

次年度に向けては、自立した生活が継続出来るよう、今年度同様ADL・IADL・QOLの維持向上に努める。入居者が安心して長く暮らせる住宅としての機能を維持できるよう、必要なサービスを細かく見極め、迅速な対応を心がける。

楽しみ・役割のある暮らしについても、引き続き地域住民やサロンと連携しながら、個々の能力や興味のある事柄を見定めて活躍の場を提供する。町内会との行事の計画、サロンへの作品展示を行っていく。

健康管理においては、継続した体調管理と変化に気づける視点を持ち、他事業所との連携を密にしながら入居者個々の健康面のサポート強化に努める。

事故に関しては骨折に至る事故ゼロを目指し、身体機能維持に向けた運動機会の確保とフィットネスクラブの新規登録者数の増加と継続を目指す。また、訪問リハビリや、福祉用具専門相談員、法人PTの協力を得ながら個々の生活環境の見直しを適宜行う。

家族との交流機会が新型コロナ感染症の流行から中止している状況が続いているため、懇談会を再開し、職員とご家族との意見交換やたかほの運営への協同を実施していく。

地域貢献を目的に、地域住民を対象に弁当作りを検討し外出機会・他者との交流機会のきっかけづくりを実行していきたい。認知症予防としては、たかほ入居者と地域住民対象に学習療法の開始と、町から委託を受けている認知症総合支援事業の「ちょっと大丈夫かな食堂」の再開に向けて、関係機関と連携し調整していく。

適正利益の確保については、安定した待機登録者の確保と、次期入居者への打診を迅速に行うことにより空室期間の短縮を目指す。入居者確保のため、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所への営業活動を計画的に実施し、18名の入居を必達・維持することを目標とする（目標稼働率97%、17.5戸）。

3. 運営状況・統計資料

(1) 業績報告

①入居率

17.5名	17.6%	100.7%

②事業収入

23,976,000円	24,823,090円	847,090円

(2) 行事

日 時	行 事 名	場 所
令和3年6月6日	町内会花植え	町内会花壇
令和3年6月9日	花壇整備	たかほ花壇
令和3年7月22日	花火の会	たかほ駐車場
令和3年8月3・11日	たかほリンピック	食堂
令和3年9月8日	お月見壁飾り	食堂
令和3年9月17日	ぶどうのチャームづくり	食堂
令和3年10月10日	フォトフレームづくり	食堂
令和3年11月28日	スタッフボードづくり	食堂
令和3年12月24日	クリスマスケーキの会	食堂
令和4年1月18～31日	ストリングアートづくり	食堂
令和4年2月3日	豆まき	各居室・館内

(3) たかほ会議（計12回）

月 日	議題内容	参加人数
令和3年4月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況（今年度の活動計画書配布） ・設備管理（自動ドア・エレベーター保安点検） ・今月、来月の予定（デコぽん茶屋開催について） 	5名
令和3年5月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況（新規入居者等） ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（電気保安点検） ・今月、来月の予定（入居者コロナワクチン接種・人事異動） 	5名
令和3年6月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（修繕） ・今月、来月の予定 	4名
令和3年7月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定（花火の会について） 	5名
令和3年8月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（水漏れ） ・今月、来月の予定（新規入居者、救命救急研修等） 	5名
令和3年9月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（2Fトイレリモコン、冬期間の暖房） ・今月、来月の予定 	4名
令和3年10月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（102号室扉、事務所扉、冬期間の暖房等） ・今月、来月の予定 	4名
令和3年11月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（厨房混合栓） ・今月、来月の予定 	3名
令和3年12月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 	3名

	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（漏電） ・今月、来月の予定 	
令和4年1月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（漏電、コレカラエアコン） ・今月、来月の予定 	5名
令和4年2月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（厨房漏電の対応について） ・今月、来月の予定 	5名
令和4年3月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（スチコン専用ブレーカー設置後の不具合について） ・今月、来月の予定 	5名

令和 3 年度 サービス付き高齢者向け住宅
ぬくもりの家たかほ
現況報告書

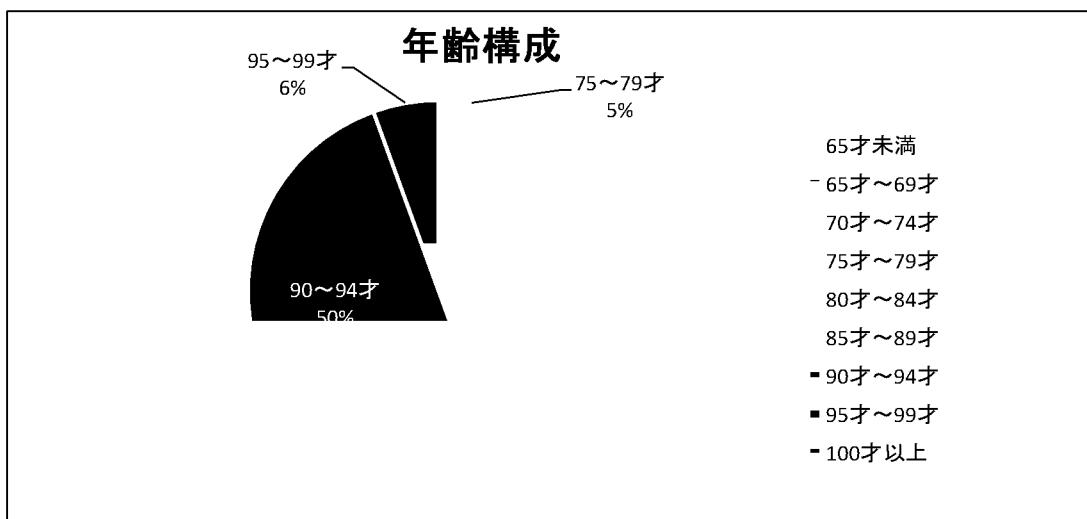
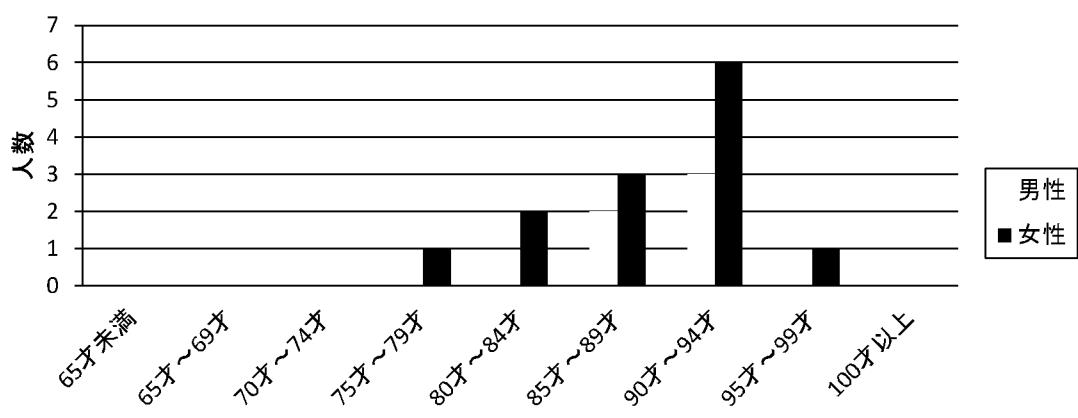
(自 : 令和 3 年 4 月 1 日 ~ 至 : 令和 4 年 3 月 31 日)

1.入居者年齢構成(令和4年3月31日現在)

	在籍者			
	男性	女性	計	
65才未満	0	0	0	
65才～69才	0	0	0	
70才～74才	0	0	0	
75才～79才	0	1	1	
80才～84才	0	2	2	
85才～89才	2	3	5	
90才～94才	3	6	9	
95才～99才	0	1	1	
100才以上	0	0	0	
計	5	13	18	

【最高年齢】
男性 93 歳
女性 98 歳
【最低年齢】
男性 87 歳
女性 75 歳
【平均年齢】
男性 90.2 歳
女性 88.5 歳
全体 89.4 歳

年齢構成(男女比)



2.食事状況(令和4年3月31日現在)

		自立	見守り	合計
男性		5	0	5
女性		13	0	13
合計		18	0	18

3.移動状況(令和4年3月31日現在)

	歩行		杖	歩行器など		車いす使用		合計
	自立	要介助		自立	要介助	自立	要介助	
男性	2	0	1	1	0	1	0	5
女性	5	0	2	6	0	0	0	13
合計	7	0	3	7	0	1	0	18

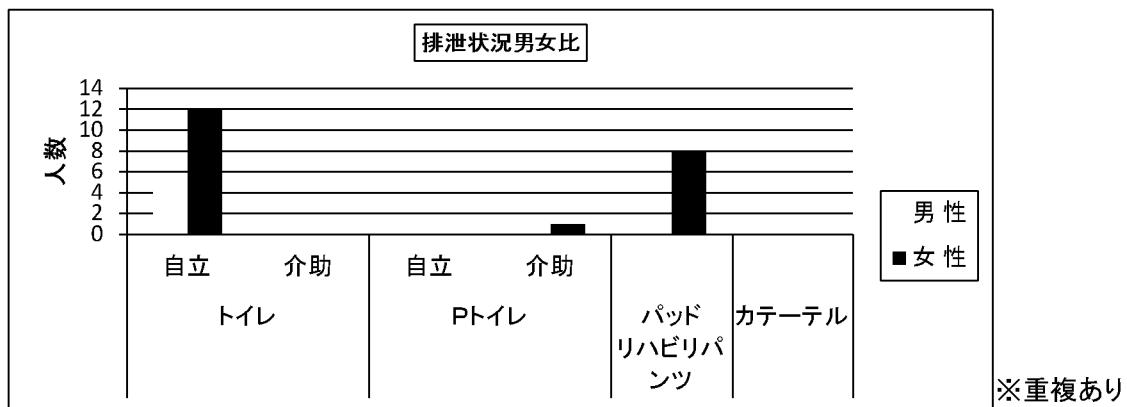
4.入浴状況(令和4年3月31日現在)

	一般浴		車いす浴	合計
	自立	介助		
男性	2	3	0	5
女性	4	9	0	13
合計	6	12	0	18

5.排泄状況(令和4年3月31日現在)

	トイレ		Pトイレ		パッド リハビリパン ツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	5	0	0	0	0	0	5
女性	12	0	0	1	8	0	21
計	17	0	0	1	8	0	26

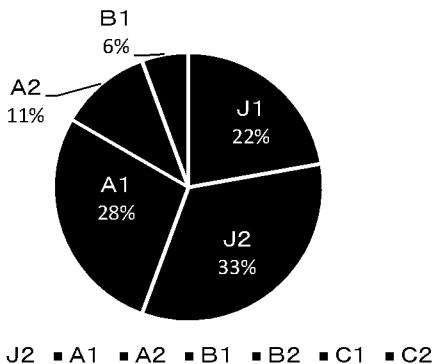
※重複あり



6.身体状況(障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定)

	不明	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	計
男性	0	2	1	0	1	1	0	0	0	5
女性	0	2	5	5	1	0	0	0	0	13
合計	0	4	6	5	2	1	0	0	0	18

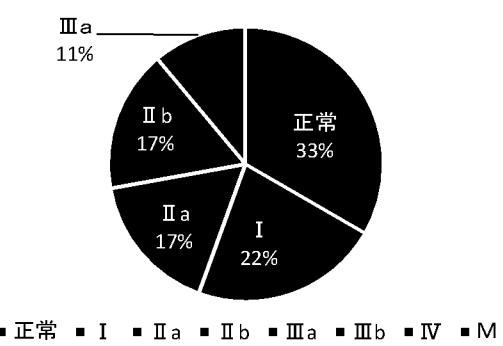
障がい高齢者の日常生活自立度



7.認知症(精神)状況(認知症高齢者の日常生活自立度判定)

	不明	正常	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	計
男性	0	3	0	1	0	1	0	0	0	5
女性	0	3	4	2	3	1	0	0	0	13
計	0	6	4	3	3	2	0	0	0	18

認知症高齢者の日常生活自立度



令和3年度 部門(事業所)別活動計画

部長(事業所)名 サービス付き高齢者向け住宅 ぬくもりの家たかひま

[評価基準]S:チャレンジが企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待通りの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴーリーは定量化し、証がみえる表現とする。

1 (1)	生活支援などに伴うサービス提供	音楽会 モニタリング	B	モニタリング	必要時、サービス導入は出でている。
		実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	必要時、サービス導入は出でている。
2 (1)	入居者の健診管理	音楽会 健康講座	A	定期的実施	定期的実施
		実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	定期的実施
3 (1)	安全・食事の提供	音楽会 健康講座	B	定期的実施	定期的実施
		実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	定期的実施
4 (1)	心身機能の維持向上	音楽会 日々の間	B	定期的実施	定期的実施
		実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	定期的実施
5 (1)	安全管理	音楽会 日々の間	B	定期的実施	定期的実施
		実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	定期的実施
6 (2)	介護	音楽会 訪問電話	A	定期的実施	定期的実施
		実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	定期的実施
7 (3)	新規・既存入居者の獲得・維持強化	音楽会 訪問電話	B	定期的実施	定期的実施
		実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	定期的実施
8 (3)	適正利益の確保	音楽会 生活支援会議	B	定期的実施	定期的実施
		実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	実施 実施 実施 実施 実施 実施	定期的実施

令和3年度鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑事業報告

1. 総括(今年度の取り組の成果)

令和3年度も前年度に引き続き「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」の基本方針に重点をおき取り組んだ。

「良いケア」では計画書に基づき、サービスの提供方法の標準化・統一を図りながら、利用者へ自立支援のサービス提供をヘルパー各自が意識し行えた。そして何より、ケアの提案、実践をしっかりと行うことができた。

「良い職場」では、職員が少しでも働きやすくなるよう、それぞれの思いを聞き確認した。その中でも、移動時間を設けることで安全に訪問ができるよう業務改善の継続を図った。また、個別の生活に合わせた出勤時間や、勤務時間を調整することで、安心して働く職場を目指した。

「よい経営をみんなの力で創る」では、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化の継続。新規利用者獲得と、現利用者・家族との信頼関係の構築に努め、安心・満足感を持って頂けたことが経営基盤の安定に繋がっている。コロナ感染予防のため、昨年同様に食事会の開催を断念し、茶話会でも飲食を行わない対応を継続した。また、訪問時の感染予防対策も行き利用者が安心してサービス提供が受けられるよう努めた。

業績については、年間訪問件数が令和2年度は10,913件、令和3年度は10,599件と前年度より314件少なかった。月間の目標件数は900件であったが、満たない月も7ヶ月と多くあつた。新規利用者は（令和3年度新規利用者数　旭川市38名、鷹栖町19名　計57名）と増加しているが、休止者・停止者も多く件数の伸びには結びつかなかった。次年度も茶話会での地域住民や春光台地区への周知活動および、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化により努める。

2. 展望（次年度に向けて）

令和4年度も、「良いケア、良い職場、よい経営をみんなの力で創る」ことを目標に掲げ、

「良いケア」では利用者のケア向上のため個々のニーズに合わせた支援の中、共に行う支援内容を考えケアの見直しを提案・実践していくことで利用者が安心して暮らせるよう努める。

「良い職場」では今年度からICTを取り入れ業務の効率化を図り誰もが働きやすい職場環境を目指す。

「よい経営をみんなの力で創る」ため、ICTを活用しながら、ケア・サービスの向上を図り「よい経営」を継続し安定した利用者の確保と、適正収益が得られるように更に努めていく。

3. 運営状況・統計資料

(1) 業績

(単位 千円)

目標収益 (A)	実際収益 (B)	達成率 (B)/(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B/(C)×100
38,711	39,822	102%	39,708	100%

(2) 茶話会開催状況

日程・地区	鷹栖地区	鷹栖地区	北斗・北成	北野地区
	7月11日	7月11日	11月4日	未実施
参加人数	16名	15名	12名	未実施

(3) 個別交流会開催状況

日程	参加人数
随時	コロナ感染予防対策のため当初予定19名希望に対し 14名

(4) ヘルパー研修開催状況

開催日	テーマ	講師	参加人数
4月26日	調理実習	上野	3人
5月27日	苦情対応研修	米澤	11人
6月24日	食中毒の予防研修	己上	11人
9月22日	生活援助研修(裁縫)	高橋	11人
10月7日	食事ケア研修・中級	能登	9人
10月7日	食事ケア研修・初級	林崎・森	1人
10月17日	在宅課勉強会(オンライン)	泉田	1人
10月21日	感染症対策研修	藤川	12人
11月11日	排泄ケア研修・中級	松原	11人
11月11日	排泄ケア研修・初級	室橋	1人
12月9日	上級カンファレンス研修①	尾上	1人
1月20.27日	医療研修	谷水	12人
2月17日	認知症研修I・中級	谷	10人
2月17日	認知症研修I・初級	佐々木	1人
3月17日	上級カンファレンス研修②	尾上	1人

(5) 外部研修参加状況

開催日	内容	参加者
10月21日	介護支援専門員更新研修（オンライン）	米澤
11月2日	介護支援専門員更新研修（オンライン）	米澤

(6) ヘルパー会議開催状況

開催日	内容	参加者
令和3年 4月22日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（令和2年度活動計画評価、事業報告について）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご家族からの要望・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
5月27日	① 業績報告・活動報告進捗状況（予定行事について）業務改善（環境整備、手指消毒について）②ケースカンファレンス③事故報告（1）④ご本人からの要望（2件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
6月24日	① 業績報告・活動報告進捗状況（第1回・2回茶話会について）業務改善（身だしなみについて、ネームの位置について、自立支援について）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご本人からの要望（2件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
7月21日	① 業績報告・活動報告進捗状況（第1回・2回茶話会の報告について、令和3年度事業計画について）業務改善（訪問前後の確認について、ICT化について）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご本人からの要望・苦情（1件）⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
8月26日	① 業績報告・活動報告進捗状況（お見舞いカードについて）業務改善（ヘルパー車の清掃について）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（2件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
9月22日	① 業績報告・活動報告進捗状況（ヘルパーのPR活動、茶話会について）業務改善（ヘルパー車の清掃期日について）②ケースカンファレンス③事故報告（2件）④ご本人からの要望（1件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
10月21日	① 業績報告・活動報告進捗状況（中間評価について）業務改善（タイヤ交換の確認）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（1件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	12名

11月 25日	① 業績報告・活動報告進捗状況（次年度の交流会について、ICT化の導入・業務の効率化と変更について、おむつ交換の基本と手順について）業務改善（提供時間について、提出物の期限について） ②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（1件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	12名
12月 23日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（感染対策の徹底と対応に関して）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（1件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	12名
1月 21日	① 業績報告・活動報告進捗状況（茶話会について）業務改善（車両の取り扱いについて）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	12名
2月 24日	① 業績報告・活動報告進捗状況（茶話会の日にち変更について）業務改善（公用車の洗車について）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	12名
3月 26日	① 業績報告・活動報告進捗状況（茶話会の延期について）業務改善（体調不良時の申し出について、自宅待機時の報告手順について）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご本人からの要望1件・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	11名

(7) 事故発生状況

	令和元年度	令和2年	令和3年度
私物破損	1件	4件	3件
訪問忘れ	2件	1件	0件
苦情	1件	2件	2件
救急搬送	0件	0件	0件
車両関係	2件	4件	3件
転倒など	2件	2件	1件
誤投棄	0件	0件	0件
死亡発見	0件	1件	0件
合計	7件	14件	9件

(8) 令和3年度私物破損・事故内容

発生日	内容	原因	対策
5月 21日	プラスチック製ハサミの	使用前の確認不足	使用前に不具合がないか

	使用時劣化しており破損		確認する。
8月28日	掃除機のホース接続部が外れていた	ホースの捻じれによる接着点の剥離	使用時にホースの捻じれがないかを確認する。
9月4日	掃除機のヘッド裏のゴムの部分が避けていた。	摩擦と劣化により、亀裂が入った。	使用前後に不具合がないかを確認する。
10月3日	車両の方向転換時に縁石にバンパーを擦った。	不注意、確認不足	周りを確認しながら運転する
12月25日	移動中に他の車両と接触事故を起こす。	不注意、確認不足	車通りの多い車道へ合流する際は、信号がある道路を選ぶ。
3月10日	車両バンパーに亀裂が入っていた。	縁石等の段差での衝撃から破損した。	乗車前後の確認と、段差での衝撃を避ける。
3月31日	居室トイレ入口で転倒されているのを発見。	めまいによる転倒。	ポータブルトイレの設置。

(9) 令和3年度苦情内容

発生日	内容	原因	改善状況
4月27日	フィットネス休業の知らせを電話連絡してほしかった。	ご主人がフィットネス利用しており、休業だと知らなかつた。	担当者から必要に応じ連絡を入れる。
10月02日	訪問中の掃除の仕方、言葉、引き継ぎの仕方に不満がある	コミュニケーション不足と、掃除の仕方にについて細かな確認が不足していた	細かな確認と引き継ぎ、利用者への声掛けの仕方や言葉遣いに気を付ける。

(10) 訪問内容別活動時間

(単位　件数)

訪問内容	令和2年度月平均時間	令和3年度平均時間
身体介護	369.3	328.1
生活援助	68.6	52.9
複合介護	184.6	204.8
介護予防訪問介護（独自Ⅰ）	115.8	117.9
介護予防訪問介護（独自Ⅱ）	112.6	134.5
介護予防訪問介護（独自Ⅲ）	53.8	45
私的契約	11.4	241

令和3年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 墓西町ヘルパーステーションさつき苑

〔評価基準 S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし※ゴールは定量化し、計がみえる表現とする。〕

1	(1)	根拠に基づくサービス提供	計画 ← 居宅支援計画更新後週間にかけアプロンを更新する →	～居宅支援計画更新後週間にかけアプロンを更新する～	従来のプランを用意し、利用者の自立支援を具体的に盛り込んだプランを運営することでできよ。	S
			実施 B B B B A A A A A A A A A A A A	～ 報告、連絡、相談を迅速に行 →	～ 報告、連絡、相談を迅速に行 →	改善が必要と判断されたサービス改善を図る場合や行なった改善が実現できた場合は、そのままで支障を抱えさせず支援を行なう。
2	(1)	サービス提供後の効果を把握するため、モニタリングの報告を受け、次回訪問時の留意点を把握する。	計画 ← モニタリングを重ねやすく実施する →	～ モニタリングを重ねやすく実施する～	毎月二回からシグマ制度ケアマネジャーへの報告を行なっており、モニタリングの内容を業務報告書、評議会で実施する。	B
			実施 A A A A A A A A A A A A A A A A	～ 手書き見聞録 →	～ モニタリングを重ねやすく実施する～	全利用者のモニタリングは行なってないが、必要時ケアマネジャーへの報告は行なったが、必要時ケアマネジャーへの報告は行なったが、必要時ケアマネジャーへの報告は行なった。
3	(2)	サービスの内容及び提供方法の標準化	計画 ← 手書き見聞録 →	～ 手書き見聞録 →	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。	A
			実施 B B B B B B B B B B B B B B B B	～ 同様問題 ←	～ 同様問題 ←	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。
4	(2)	地域・家族との関係強化の取り組み	計画 ← カンファレンスの開催 →	～ カンファレンスの開催 →	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。(年齢20才以上)	B
			実施 B B B B B B B B B B B B B B B B	～ ヘルパー研修研修 →	～ ヘルパー研修研修 →	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。
5	(2)	利用者・家族・職員とのサービス評価と自己研鑽の取り組み	計画 ← ヘルパー会議で情報交換 →	～ ヘルパー会議で情報交換 →	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。	C
			実施 C C C C C C C C C C C C C C C C	～ ヘルパー研修研修 →	～ ヘルパー研修研修 →	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。
6	(3)	組織的・総合的な安全管理	計画 ← ヘルパー会議で情報交換 →	～ ヘルパー会議で情報交換 →	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。	D
			実施 C C C C C C C C C C C C C C C C	～ ヘルパー研修研修 →	～ ヘルパー研修研修 →	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。
7	(4)	専門性と介護技術の向上	計画 ← 「業務日誌」の活用 →	～ 「業務日誌」の活用 →	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。	A
			実施 B B B B B B B B B B B B B B B B	～ 内部研修参加 →	～ 内部研修参加 →	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。
8	(5)	利用者の安全確保	計画 ← ヘルパー会議開催 →	～ ヘルパー会議開催 →	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。	S
			実施 A A A A A A A A A A A A A A A A	～ 半導/実施準備実施 →	～ 半導/実施準備実施 →	手書き見聞録へ即ち込み、利用者の行動を改め、改善策を実現できる。

令和3年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 墓西町ヘルニアステーションさつき苑

(評価基準 S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし 目標がみえる表現とする。)

令和3年度 部門(事業所) 名	実施年月	評価基準									
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
8 (4) 職場環境の改善	①面談や訪問回数を増加し、業務や人間関係等を地ある問題を気付く、感情や、感性の配慮、精神衛生、チーム力の向上を図る。 ②書類・事務用具の整理整頓を行い、業務効率をアップさせる。	計画 実施	訪問記録の活用 C 面談 A	訪問記録の活用 B	面談 C	面談 B	面談 A	面談 B	面談 B	面談 B	面談 B
9 (5) 社内業務の標準化・標準化・効率化	①事業管理の着手・手順を明確にし、月末業務の効率を上げ、請求スネークを確実にする。 ②ホールバー車の登録・運用のマニュアル化をする。 ③会議は原則的に、効率的・統一した業務が行えるようにする。	計画 実施	書類整理 C システム構築作成 D	書類整理 C システム構築作成 C							
9 (5) 社内業務の標準化・標準化・効率化	④会議は原則的に、効率的・統一した業務が行えるようにする。	計画 実施	会議の開催 C システム構築作成 D								
9 (5) 社内業務の標準化・標準化・効率化	⑤会議は原則的に、効率的・統一した業務が行えるようにする。	計画 実施	会議の開催 C システム構築作成 D								
10 (5) 利用者対応活動強化による効率化	⑥会議は原則的に、効率的・統一した業務が行えるようにする。	計画 実施	会議の開催 C システム構築作成 D								
11 (5) 適正収益の確保	⑦会議は原則的に、効率的・統一した業務が行えるようにする。	計画 実施	会議の開催 C システム構築作成 D								

令和3年度 総合事業（一般介護予防事業）事業報告

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和3年度は「地域介護予防活動支援事業」、「地域リハビリテーション活動支援事業」、「介護予防普及啓発支援事業」、「法人自主事業」に取り組んだ。フィットネス倶楽部コレカラ（以下、コレカラ）の実利用者数は151名、延べ利用者数は4,680名であった。

1) 新型コロナウイルス感染症感染対策

4月25日にコレカラ職員が新型コロナウイルス感染症陽性判定を受け、担当していたレッドコード教室の最前列に座っていた3名が濃厚接触者と判定された。これに伴い、4月26日から5月9日を臨時休館とした。また再開にあたり、レッドコード教室において参加者と理学療法士の間にパーテーションを設置した。教室人数も1クラス8名で行っていたものを、1クラス登録者は8名のまま、毎回1名が休み、1回のクラス参加者を7名に減らして運営した。

その他の感染対策として、手洗い・うがい・マスク着用の徹底、体温測定や体調の聞き取り、サーチットマシン間にアクリルパーテーションを設置、利用者によるマシン消毒、1時間ごとの換気・消毒、待機場所の設置を実施した。

なお、緊急事態宣言や感染拡大にて5月16日から6月20日、8月27日から10月1日、1月31日から2月2日を臨時休館とした。

2) 地域介護予防活動支援事業

コレカラにおいて介護予防を図ることを目的に、フィットネス機器によるサーチットトレーニングを実施した。令和4年3月末の登録者数は414名（男性118名、女性296名）であり、昨年度より12名増加し、目標登録者数である400名に達した。月間実利用人数は平均59.8名（前年比116%）であり、微増であった。この要因として、①コロナ禍において徐々に運動習慣が戻ってきたこと、②感染対策を徹底することで利用者が安心して利用できていること、③感染状況をみながら、無料体験会等のイベントを開催することができたことがあげられる。特に③では、8月に「男の運動教室」、1月に「無料体験会」、3月に「JA北野女性部体験会」を開催したこと、新規利用や利用再開につながった。

地域における住民主体の介護予防活動の推進を目的に、鷹栖町オリジナルの介護予防体操「あつたかすりハビリ体操」の普及・啓発およびあつたかすりハビリ体操指導士（以下、体操指導士）の養成・活動支援を実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、「あつたかすりハビリ体操指導士養成講座」を中止、緊急事態宣言により5月中旬から6月中旬、9月は体操指導士の活動を自粛した。その他の期間は、例年通りコレカラ、サービス付き高齢者向け住宅たかほ、体操サークルで活動した。また、一部老人会で体操教室を再開することができた。活動実績として、地域での体操教室を158回（前年比125%）開催し、延べ1301名（前年比121%）の町民へ体操指導を実施した。教室開催数、参加者数ともに大幅に増加した要因として、①緊急事態宣言中以外は体操教室を運営できしたこと、②コレカラで開催していた体操教室を北野サロンへ会場を変更し、体操指導士の主体的な教室に移行することができたことがあげられる。また、体操指導士の連携強化や活動への意欲の向上を目的として、「第1回道内体操指導士オンライン交流会（以下、道内交流会）」と「第2回全国体操指導士オンラインフェスティバル（以下、全国フェスティバル）」に参加した。これはコロナ禍において体操指導士の活動が制限されている中で、少しでも体操指導士の活動を促進するために各地で活動する体操指導士とオンラインを通じて交流するイベントである。「道内交流会」では道内5市町村、

86名が参加、鷹栖町からは13名の体操指導士が参加した。「全国フェスティバル」では全国26市町村、約1,500名が参加、感染拡大中により鷹栖町からは体操指導士は参加せず、鷹栖町健康福祉課（以下、行政）職員、社会福祉協議会（以下、社協）職員、理学療法士が参加した。イベント終了後は、体操指導士の活動回数の増加や、体操指導士活動に関して行政や社協と情報共有できるなど良い方向に進んでいる。

3) 地域リハビリテーション活動支援事業

新規利用者9名、レッドコード利用者70名に対して、体力評価を実施した。測定項目にはフレイル判定が含まれており、フレイル、もしくはフレイル予備軍の利用者を早期から把握することができた。地域ケア会議への参加や地域包括支援センターからの評価依頼は1件であったが、地域包括支援センターや社協、居宅介護支援事業所からの紹介でフィットネス利用へと繋がった新規利用者もあり、今後も連携を継続していきたい。

コレカラを利用していない高齢者への介護予防の一環で、毎月社協の贈り物事業の中に運動プログラムを封入し、一人暮らし高齢者もしくは高齢夫婦を対象に配布した。老人会での体力測定会や健康講話、町主催の体操教室の見学は中止となった。

4) 介護予防普及啓発支援事業

コレカラでのレッドコード教室は、8月まで上半期クラス、9月より下半期クラスを開催する予定であったが、緊急事態宣言の影響で9月は休止とし、10月より下半期クラスを開始した。1回平均利用者数は平均6.0名（前年比90%）と昨年度より微減となった。これは、感染対策として1回のクラス参加者を7名として運営したことが影響していた。また、初心者向けのレッドコード教室を10月から12月、1月から3月の2期に分けて開催し、9名の新規参加者が参加した。

コレカラサポーター（以下、サポーター）養成講座は中止、活動は一部再開した。

5) 法人自主事業

コレカラの公式ラインを立ち上げ、健康情報や臨時休館情報を周知するために活用した。また、緊急事態宣言でコレカラが休館中も利用者が運動を継続できる環境づくりとして、公式ラインを用いた「毎日運動プロジェクト」を実施した。これは、公式ラインにて運動プログラムを毎日配信し、参加者はその日送られてきたプログラムを実施し、終了したらラインにてメッセージ返信するという、双向コミュニケーション形式の取り組みである。参加者21名のうち18名が達成し、高い満足度を得ることができた。

あったかす健康手帳は7名の方が継続利用し、血圧や体温、体重などの日々の健康面の変化を自分自身で把握することで、健康管理に役立てることができた。コレカラ大掃除は2年ぶりに開催し、17名の利用者が参加した。ヘルスリテラシー（健康に関する情報入手・理解・活用能力）を向上させる講座は中止とした。

6) その他

第72回北海道理学療法士学術大会にて「新型コロナウイルス感染症による社会活動制限が地域在住高齢者の身体機能・フレイルに及ぼす影響」と題し、コロナ感染拡大前後で身体機能やフレイル有症率がどのように変化したかについて発表した。本演題は優秀演題賞を受賞した。

また、令和3年度全国老人福祉施設研究会議にて「鷹栖フレイルゼロプロジェクト～コロナ禍での新

たな取り組み～」と題し、公式ラインを活用した「毎日運動プロジェクト」について発表した。本演題は奨励賞を受賞した。

2. 展望（次年度に向けて）

令和4年度も「地域介護予防支援事業」、「地域リハビリテーション活動支援事業」、「介護予防普及啓発支援事業」、「法人自主事業」に対する取り組みを継続する。

1) 地域介護予防活動支援事業

コレカラでのサーキットトレーニングの運動指導を継続し、登録者、実利用者数の増加を図るために啓発活動や環境整備を進める。特に利用停止した方に対して、利用再開につながるよう、連絡やイベントの開催、広報活動をしていく。あつたかすりハビリ体操では養成講座を開講し、新しい体操指導士養成を継続するとともに、既存の指導士のフォローアップとして定期的なミーティング、他地域との交流を実施する。また、コレカラを利用できない住民の介護予防の推進や住民主体の通いの場立ち上げのために、行政、社協と協力のもと、サークルや老人会での体操教室の開催を促進し、体操指導士によるあつたかすりハビリ体操を通じた介護予防活動を推進していく。

2) 地域リハビリテーション活動支援事業

コレカラ利用者への身体機能評価を継続して行い、評価結果をもとに、その方の持つ病気やケガ、身体機能に合わせた運動内容の指導を行う。体力評価にてハイリスクと判定された方の情報をフレイル会議にて地域包括支援センターと共有し、適切なサービスを提供できる体制を構築する。老人会に理学療法士が出向き、体力測定やフレイル調査結果の説明や健康講話、健康相談を実施し、幅広い高齢者に対する介護予防を推進する。また、高齢者の保健事業と介護予防の 一体的な実施に向けて、町の特定健診において身体機能評価やフレイルチェックを実施し、ハイリスク者に対して介護予防事業への参加を促す。

3) 介護予防普及啓発支援事業

レッドコード教室での運動指導を継続する。サポートーの活動を再開できるよう取り組んでいく。また、コロナ禍においてフレイル高齢者は増加しているため、引き続きフレイル予防啓発のため、講習会を開催する。新たに、フィットネスにて口腔トレーニングができる「くちトレ」ブースを開設し、口腔機能低下に対しても介入していく。公式ラインを活用して、「毎日運動プロジェクト」を定期的に実施し、利用者の運動習慣化を図る。

4) 法人自主事業

ヘルスリテラシーの向上により、自身の健康について主体的に考え、自己管理できる住民が増えるように、ヘルスリテラシー講座と健康手帳の配布を継続する。また、ボランティア交流会やボランティアによる大掃除も感染状況をみながら実施していく。コレカラ開設5周年を迎えるにあたり、利用者への感謝の気持ちを伝えるため、記念品を作成し贈呈する。

5) その他

各事業の効果検証作業として、学術大会での演題発表を継続するとともに、鷹栖町での取り組みを

発信するために、シンポジウムにシンポジストとして参加する。また、行政や社協と協力し、住民ボランティア同士が交流できる場を設け、「自助・互助・共助・公助」の循環が円滑に行えるよう全事業を推進する。

最後に、新型コロナウイルス感染防止のため、高齢者の外出や運動の機会が減少しており、生活不活発病やフレイルの発症リスク、要介護度の重度化がさらに進行することが考えられる。少しづつ利用者は戻りつつあるが、改めて介護予防の重要性を住民に周知し、多くの住民が安全に安心して運動できるよう策を講じていきたい。

3. 業績報告

1) 地域介護予防活動支援事業

(1) サーキットトレーニング

① 登録者数

(単位：名)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
男性	113	113	113	112	112	112	113	116	116	118	118	118
女性	289	289	289	290	290	290	290	292	292	295	295	296
計	402	402	402	402	402	402	403	408	408	413	413	414

② 実利用者数

(単位：名)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
男性	14	8	7	10	16	0	15	20	18	16	14	14
女性	57	23	28	41	33	0	48	53	54	62	46	61
計	71	31	35	51	49	0	63	73	72	78	60	75

(2) あつたかすりハビリ体操指導士

① 指導士活動実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
登録者 (名)	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
実人数 (名)	17	7	6	7	11	3	17	9	18	10	4	10
延べ 活動時間 (時間)	74	9	11	41	43	3	60	40	57	36	10	34

② 地域での体操教室実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
教室数 (回)	21	5	6	16	16	1	19	19	19	14	4	18
参加者数 (名)	176	29	54	122	110	9	163	159	197	117	19	146

2) 地域リハビリテーション活動支援事業

(1) 体力評価

(単位：名)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
男性	4	0	0	0	0	0	1	4	2	1	0	0
女性	59	0	0	1	0	0	0	59	8	1	0	2
計	63	0	0	1	8	0	1	63	10	2	0	2

(2) 地域包括支援センターから理学療法士への相談対応

(単位：件)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
件数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0

3) 介護予防普及啓発支援事業

(1) レッドコード教室

(単位：名)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
登録者数	64	64	64	64	64	64	71	71	71	71	71	71
実人数	64	45	43	60	58	0	70	71	71	70	59	68
1回平均利用者数	7.6	5.6	4.9	5.4	5.4	0.0	6.5	6.1	6.1	6.0	5.5	6.4

※ 上半期：8クラス、下半期：9クラス

※ 5月以降、1クラス7名で運営

(2) コレカラサポーター

① サポーター活動実績

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
登録者 (名)	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
実人数 (名)	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	3	4.5
延べ 活動時間 (時間)	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	3	7.5

4) 自主事業

(1) 公式LINE登録者

(単位：名)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
登録者数	16	34	9	1	2	5	6	9	0	3	85	

4 イベント・視察等

実施日	イベント名	概要
4月20日	第60回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・事業説明 ・実績報告 ・今後の運営方針（体操指導士、サポート一大掃除等）
4月21日	体操指導士ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士13名参加 ・活動状況の共有 ・今年度の活動について
4月26日～5月9日	コレカラ臨時休館	<ul style="list-style-type: none"> ・コレカラ職員の新型コロナウイルス感染症陽性により、左記期間コレカラを臨時休館
5月10日	コレカラ再開	<ul style="list-style-type: none"> ・レッドコード1クラス7名、パーテーション設置、20分ごとの換気 ・レッドコード中はサーキット使用不可
5月12日	介護に関する入門的研修講師	<ul style="list-style-type: none"> ・ななかまど大学22名参加 ・フレイル、起居動作の介助方法について
5月16日～6月20日	コレカラ臨時休館	北海道に緊急事態宣言が適用されたため、左記期間コレカラを臨時休館
5月22日～23日	第72回北海道理学療法士学術大会	<ul style="list-style-type: none"> ・web学会 ・「新型コロナウイルス感染症による社会活動制限が地域在住高齢者の身体機能・フレイルに及ぼす影響」について口述発表 ・優秀演題賞受賞
5月26日	第61回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・学会での発表報告 ・緊急事態宣言解除後の運営について
6月21日	コレカラ再開	<ul style="list-style-type: none"> ・レッドコード1クラス7名、パーテーション設置、20分ごとの換気 ・レッドコード中はサーキット使用不可
6月29日	第62回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・体操指導士養成講習会について ・コレカラLINE公式アカウントの運用開始 ・男の運動教室について
7月1日	コレカラLINE公式アカウント運用開始	・臨時休館や健康に関する情報などを発信
7月9日	ぬくもりの家えん運営会議での健康講話	<ul style="list-style-type: none"> ・16名参加 ・「老いの取扱説明書」について講演
7月14日	15町内会体操教室活動支援	・体操指導士1名、教室参加者7名

実施日	イベント名	概要
7月30日	第63回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・コロナ禍での利用促進について ・レッドコード申込みについて ・体操指導士養成講座中止について
7月30日	なごみの家運営会議での健康講話	<ul style="list-style-type: none"> ・15名参加 ・「老いの取扱説明書」について講演
8月	男の運動教室（毎週水曜日）	<ul style="list-style-type: none"> ・7名参加 ・レッドコード、サーキット
8月4日	コレカラ視察	<ul style="list-style-type: none"> ・東川町保健福祉課関係者7名参加
8月20日	第64回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・コレカラ休館要件の確認 ・道内体操指導士オンライン交流会 ・レッドコード教室申込みについて
8月27日～10月1日	コレカラ臨時休館	北海道に緊急事態宣言が適用されたため、左記期間コレカラを臨時休館
9月1日～30日	毎日運動プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言中、LINE公式アカウントから運動プログラムを配信 ・参加者21名、達成者18名
9月13日	令和3年度下半期レッドコード教室抽選会	<ul style="list-style-type: none"> ・8クラス67名申込み
9月22日	第65回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・コレカラ休館要件の確認 ・道内体操指導士オンライン交流会 ・レッドコード教室申込みについて
10月2日	コレカラ再開	<ul style="list-style-type: none"> ・レッドコード1クラス7名 ・パーテーション設置、20分ごとの換気 ・レッドコード中はサーキット使用不可
10月4日、11日	月曜体操教室活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・10月より会場を北野サロンに変更 ・住民主体の運営に移行
10月13日	15町内会体操教室活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士1名、教室参加者6名
10月18日	第1期はじめてのレッドコード教室開始	<ul style="list-style-type: none"> ・10～12月開催 ・参加者6名（定員7名）
10月19日	第66回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・毎日運動プロジェクト報告 ・道内体操指導士オンライン交流会 ・感染対策物品の購入について ・無料体験会について

実施日	イベント名	概要
10月29日	道内体操指導士オンライン交流会	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士86名参加（鷹栖町13名） ・体操リレー、健康講話、活動報告、クイズ大会 ・コーヒー提供
11月5日	令和4年総合事業策定会議	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者：谷課長、大矢、大河原 ・今年度の振り返りと次年度の事業案
11月13日	第8回日本予防理学療法学会学術大会	<ul style="list-style-type: none"> ・web学会
11月21日	北海道リハビリテーション専門職協会研修会での講師	<ul style="list-style-type: none"> ・web研修会 ・「コロナ禍での鷹栖町の介護予防事業」について報告 ・グループワークのコーディネーター
11月24日	中央地区住民センターでの健康講話	<ul style="list-style-type: none"> ・25名参加 ・「老いの取扱説明書」について講演
11月26日	第67回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・無料体験会開催について ・来年度の事業計画について ・特定健診でのフレイルチェックについて
12月1日	体操指導士復習会	<ul style="list-style-type: none"> ・体操指導士7名参加 ・体操復習 ・シミュレーション実習
12月8日	コレカラ大掃除	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者17名参加
12月9日	コレカラ視察	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道経済産業局職員3名
12月15日	北野サロンでの健康講話	<ul style="list-style-type: none"> ・31名参加 ・「老いの取扱説明書」について講演
12月24日	第68回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・無料体験会について ・体操指導士全国オンラインフェスについて ・体操指導士の町外転出について
12月28日～1月3日	年末年始休館	
1月13日	全国老人福祉施設研究会議	<ul style="list-style-type: none"> ・web学会 ・「鷹栖フレイルゼロプロジェクト」について口述発表
1月14日～15日	体操指導士講師養成研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・対面での研修会 ・養成講習会の進め方について
1月19日	無料体験会	<ul style="list-style-type: none"> ・延べ37名参加 ・サーキット、レッドコード、オレンジテスト ・フレイル講演（講師：大河原） ・お口ケア講演（講師：谷崎歯科衛生士）

実施日	イベント名	概要
1月28日	第69回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・コレカラ休館要件の確認 ・体操指導士全国オンラインフェスについて
1月31日～2月2日	コレカラ臨時休館	コレカラ職員の同居家族で濃厚接触者がいたため左記期間コレカラを臨時休館
2月2日	体操指導士全国オンラインフェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> ・全国26市町村の体操指導士・行政関係者・理学療法士が参加（鷹栖町は行政職員、大河原が参加） ・1,500名以上の方がオンライン上で参加 ・講演、エール交換、体操指導
2月3日	コレカラ再開	<ul style="list-style-type: none"> ・レッドコード1クラス7名、パーテーション設置、20分ごとの換気 ・レッドコード中はサーキット使用不可
2月22日	第70回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・コレカラ休館要件の確認 ・レッドコード申込みについて
2月22日	さつき会令和4年度事業計画ヒアリング（総合事業）	・事業計画、予算案
3月2日	ぬくもりの家たかほでの健康講話	<ul style="list-style-type: none"> ・15名参加 ・「老いの取扱説明書」について講演
3月15日	令和4年度上半期レッドコード教室抽選会	・9クラス76名申込み
3月22日	第71回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・レッドコード抽選方法について ・来年度の事業計画 ・通いの場に関する研修会動画視聴
3月23日	JJA北野女性部コレカラ体験会	<ul style="list-style-type: none"> ・14名参加 ・レッドコード、サーキット体験 ・健康講話

令和3年度 部門(事業所)名 地域介護予防活動支援事業

部門(事業所)名 地域介護予防活動支援事業・地域リハビリテーション活動支援事業・注へ自主事業

〔評価基準〕S：チャレンジした企画が成功 A：期待以上の結果 C：取り組んだ D：全くアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

			①体育館運動士による住民主体のあしたかサロンビリ体操教室を毎月10回開催する	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	COVID-19の影響でCSが中旬～6月にかけて休止。再開後徐々に指導面接が回復傾向。	A
1	(1)		②佐渡市市民たちの定期的なワークショップや学習会(年1回)の開催、住民主体の運営の場の開催	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	回帰傾向 1回開催後 徒歩会議は1回開催。運営・企画・交渉会に参加。	B
1	(1)		③あつひーすゞリバ体操の普及、実現	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	木曜会議実施 1回/3ヶ月 ミーティング 2回/年	D
1	(1)		④月平均利用者10名を目標に、新規指導員導入を行	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	新規参加人数 10名/月	C
1	(1)		⑤レクカブ利用促進のためインベントを年1回開催し、それぞれ3名の新規利用登録についてのチャレンジマー、無料体操会、イベント(年1回)	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	実利用人数 100名/月	D
1	(1)		⑥運動指導として介護連携会計交付金を用いた地域活動を月1回実施する	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	新規登録者 3名/イベントトータル	A
1	(1)		⑦地域理学療法学会での成果発表	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	文書配布 1回/月	A
1	(1)		⑧①はいすくら筋膜利用者に身体制能評価実施し、適切な運動内容への指導相談を行う	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	評議会人数 3名/月	B
1	(1)		②③地域包括支援センターからの相談に応じる	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	下半期は新規登録者あり。目標達成10名もあつた。	C
1	(1)		④町主催の体操教室の見学、参加者の紹介肥満を年3回実施する(理学療法士、保健師他)	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 �游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	相談件数 1件/月	C
1	(1)		⑤フレイル会議セミナー、保護施設巡回(地城リハビリーション活動支援事業)	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	見学3回/年	C
1	(1)		⑥年15回体を目標に、老人会に出向き、体力測定会や健康講話の実施	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	会議 1回/3ヶ月	D
1	(1)		⑦日本弓道理学療法学会での成果発表	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	成績発表	S
2	(2)		①身体機能評価評価の実施	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	新規登録者1名 新規登録者2名	C
2	(2)		②町主催の体操教室の活動報告	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 清泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	相談件数 1件/月	C
2	(2)		③個人暮らし高齢者へ運動プログラムの提供を月1回実施する	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	見学3回/年	C
2	(2)		④フレイル会議セミナー、保護施設巡回(地城リハビリーション活動支援事業)	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	会議 1回/月	A
2	(2)		⑤年15回体を目標に、老人会に出向き、体力測定会や健康講話の実施	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	配布 1回/月	D
2	(2)		⑥各課題に沿った運動指導会を開催する	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	実施回数 15回/年	D
2	(2)		⑦日本弓道理学療法学会での成果発表	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	成績発表	S
2	(2)		①②③レクカブ2名を目標に、レントコード教室での運動指導をする	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	会議実施 参加人数 62名/月	A
2	(2)		④月光へ数2名を目標に、コルカラサボーダーの活動時間、復習会	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	回帰傾向 1回開催後 参加人数 63名	D
2	(2)		⑤フィール高齢者への介護予防活動	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	参加人数 10名/懇親会	S
2	(2)		⑥学会発表	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	成績発表	S
3	(3)		①レントコード教室の運営	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	会議実施 参加人数 70名	A
3	(3)		②コルカラサボーダーの介護予防活動	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	回帰傾向 参加人数 70名	D
3	(3)		③フィール高齢者への介護予防活動	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	参加人数 10名/懇親会	S
3	(3)		④月光利用者20名を目標に、くちトナースセミナー	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	参加人数 20名/月	D
3	(3)		⑤運営する	大河原 大矢 計画 対面会 健康診査 有酸素運動 游泳 有酸素運動 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 指導面接 →	未実施	D

令和3年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 地域介護予防活動支援事業・地域リハビリテーション活動支援事業
介護予防普及及啓発支援事業、法人自主事業

[評価基準] S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待以上の結果 C:取り組んだ D:全くアクションなし ※ゴールは定量化し、誰がみえる表現とする。

部門(事業所)	計画期間	実施場所	実施日程	担当者	主な目的	主な内容	実施状況	評価	次回実施予定		
									計画期間	実施場所	
4 (4)	① 介護予防に関する基本的な知識の普及と啓発 ② 互助活動の推進 ③ オンラインを活用した介護予防の推進 (法人自主事業)	大河原 大矢	計画 実施	中止 中止	月次月次定期実施	①月次人数50名を目標に、レントコート教室にてヘルスティック講座の実施 ②月次、数10名の送迎利用を目標に、健康手帳の配布および利用促進する	実施未実施	D	月上旬 毎月定期実施	参加人数 60名/月	D 未実施
	② 2ヶ月に1回、フレイルに関する情報の掲示 ③ ランチア交流会(目標20名)やボランティアによる大掃除(目標15名)等の実績	大河原 大矢	計画 実施	揭示	実施	③2ヶ月に1回、フレイルに関する情報の掲示 ④ランチア交流会(目標20名)やボランティアによる大掃除(目標15名)等の実績	掲示	A	掲示	1回/2ヶ月	A 実施
	⑤ 月10名の利用登録を目標に、ニカラガラの公式LINEアカウントを運用する	大河原 大矢	計画 実施	中止	定期実施	⑤月10名の利用登録を目標に、ニカラガラの公式LINEアカウントを運用する	実施未実施	D	定期実施	定期実施 15名	B 未実施
								S	定期実施 定期実施 15名	定期実施 定期実施 15名	
									定期実施 定期実施 15名	定期実施 定期実施 15名	

令和3年度 法人本部（給食部門）事業報告

1. 総括

令和3年度は（1）身体の状態に合わせた栄養のある食事の提供（2）衛生管理の徹底と災害対策（3）個々に配慮した美味しい食事の提供（4）多職種との連携機能の強化（5）予算に合わせた食事の提供の5つを重点目標とし取り組んだ。

（1）身体の状態に合わせた栄養のある食事の提供としては、ぬくもり家えんにて、低栄養状態のリスクが高い入所者に対し「ミールラウンド」を実施し栄養状態や嗜好を踏まえた食事の調整をおこない、低栄養者の体調の改善ができるように取り組んだ。また、なごみの家では口腔・栄養スクリーニングを6ヶ月に1回実施し、「体重の減少」や「食事量の低下」の変化の情報を共有し改善へ向けて取り組んだ。さらに、嗜好調査や日々の利用者とのコミュニケーションを図り、より利用者の嗜好に沿った食事の提供ができた。

介護予防の取り組みでは、コロナ感染拡大防止の観点から「健康料理教室」「地域食堂」とともに開催ができなかった。

（2）衛生管理の徹底では厨房内の点検、食中毒予防研修の実施、調理員との定期的な情報交換の実施により、安全で安心な食事提供を心がけ食中毒を起こすことなく提供することができた。また入居系事業所対象に非常災害時の食材備蓄の準備と管理を実施できた。今後は現場で災害時の対応方法について伝達し災害時にスムーズに対応できるように努めていく。

（3）個々に配慮した美味しい食事の提供では、旬の食材を取り入れることで季節を感じていただき、満足感とQOLの向上に繋がるよう取り組んだ。また、調理員の協力を得ながら献立のレシピ集を作成し、初めて担当する献立でも混乱せずに調理することができた。他にも、食べにくい食材は酵素を使用し、やわらかく食べやすい工夫をするなど摂食状況に合わせた食事の提供や病態に合わせた脂質を抑えた食事など、個々に合わせた食事の提供をすることができた。

（4）多職種との連携機能の強化では、各事業所の会議への参加や、各担当者との打ち合わせによって情報を共有することができ、食事量の低下が見られる方へ迅速に対応することができた。

また、自然排便と免疫力向上の取り組みとして、1日置きに朝食にヨーグルト、夕食に玄米ご飯の提供を継続し、食物繊維の摂取量の増加による自然排便への改善及び免疫力の向上が図られ、感染症を予防することができた。

（5）予算に合わせた食事の提供では、「食材予算」「おやつ予算」「嗜好飲料予算」と区分が明確になったことで管理がしやすく、予算に余裕のあるときには高価な食材やおやつ等も提供するなど、楽しんでもらえるような食事の提供ができた。

2. 展望（次年度に向けて）

次年度は、次の3点を重点として事業に取り組む。

まず1つめは、昨年取り組めなかった、小規模ぬくもりの家えんでの口腔・栄養スクリーニングを実施し、半年毎に利用者の栄養状態の把握に取り組んでいく。

2つめに、在宅高齢者の低栄養の予防・改善へのサポートとして「ぬくもりの家たかほ厨房」にて1日5食限定で弁当の提供の実施に取り組んでいく。

3つめに、災害が発生したときに混乱なく食事の提供ができるように現場用のマニュアル作成に取り組んでいく。

3. 運営状況・統計資料

（1）令和3年度 手作りおやつ・手作り昼食 実施状況

コロナの感染リスクを考慮し利用者とのレクレーションは実施なし。

4. 祝祭日の祝膳 年間実施回数

特養えん 行事食	小規模えん 行事食	なごみG H 行事食	なごみS H 行事食	たかほ 行事食
36回	36回	35回	35回	34回

5. 健康料理教室（地域における公益的な活動）

コロナの感染リスクを考慮し令和3年度の健康料理教室は中止とした。

6. 地域食堂（地域における公益的な活動）

コロナの感染リスクを考慮し令和3年度の地域食堂は中止とした。

		「評価基準」S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待通りの結果 C:アクションなし D:まったくアクションなし										
部門（事業所）	名・法人本部・給食部門	実施状況										備考
		計画	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	
1	(1) (4)	①低栄養状態のリスクが高い入所者に対する、栄養管理、運動療養を維持できる事、多職種連携による改善を実施する。 ②栄養ケアマネジメントを行って、年齢、性別、身体機能等で個人により異なる事、多職種連携による改善を実施する。 ③入所者が学習ケアアシスタントのサポートによる改善を実施する。(特に、ごみの家の家)	計画 ミールチャートの実施 準備 実施 実施	→ → → →	→ → → →	C	ミールチャート選択回数の実施 → → →	→ → →	→ → →	→ → →	→ → →	・多職種連携、情報開示を実施 し、入所者と家族が理解できるよう、従業員の家庭へでの口頭説明 のミールチャートの実施が、目標の達成につながったため 評価Cとする。
2	(1)(4)	①既往歴者、ターミナル期の方への適切な食事形態に沿った食事の提供、実施 ②新入院スタッフ(患者)への、基本のソフト食の提供 ③見たる目、味覚によるソフト食の提供。 ④創立の日(2月14日)ニユアフル・レシピ発表、統一感のある評価Bとなる。	計画 各利用者 の印象 の収集 の量の算出 実施 実施	→ → → →	→ → → →	B	栄養状態 の評価 実施 実施	→ → →	→ → →	→ → →	→ → →	・多くの家庭えんでの栄養ケアマネジメントの実施 ・多くの家庭えんでの栄養ケアマネジメントの実施 ができる。 ・多くの家庭えんでの栄養ケアマネジメントの実施 ができる。 ・多くの家庭えんでの栄養ケアマネジメントの実施
3	(1)	①地域住民との関わりから腰痛予防の取り組み ②地元住民に対する促進策を実施するため、月に回診人による巡回を実施する。 ③地元住民に対する巡回を実施するため、月に巡回室は以下の科別教室を開催する。 ④地元住民に対する巡回を実施するため、月に巡回室は以下の科別教室を開催する。	計画 計画 計画 計画	→ → → →	→ → → →	D	ソフト食の提供 お手洗い提供 実施 未実施	→ → → →	→ → → →	→ → → →	→ → → →	・多職種連携で個人に合わせた食事の提供ができる。 ・ソフト食の強調が未実施で評価Bとする。 ・見だすも美味しいソフト食が提示でき きている。 ・パン表示を活用して、感心ある食事提供ができる。
4	(2)	①衛生管理における衛生設備を定期的にチェックし、異常箇所入戻りや設備の見直しや機器等の中止回数を減らす。 ②各規格で安全な食事を供給できる、年1回食事検査の実施と衛生設備の点検と徹底的検査を実施する。 ③非常災害時の食料備蓄の管理と、災害時の食事提供の対応方法の伝達の実施。	計画 給食設備 計画 給食設備 計画 計画	→ → → →	→ → → →	B	給食設備 給食設備 給食設備 給食設備 の見直し の見直し の見直し の見直し	→ → → →	→ → → →	→ → → →	→ → → →	・給食設備の定期的チェックと厨房器具の見直しは、実施している。 ・多くの家庭、ぬいぐるみの食ふん、たかはし、リーナーを対象とした集中中毒干防研究会が実施されている。 ・災害備蓄(サバハトルーム)の購入と点検実施であります。 ・災害中の食料備蓄の確認と云々が行われています。
5	(3)	①衛生管理における衛生設備を定期的にチェックし、異常箇所入戻りや設備の見直しや機器等の中止回数を減らす。 ②各規格で安全な食事を供給できる、年1回食事検査の実施と衛生設備の点検と徹底的検査を実施する。 ③増好を入れ入れ、楽しみのある食事の提供	計画 計画 計画 計画 計画	→ → → → →	→ → → → →	B	祝日祝いの実施 祝日祝いの実施 祝日祝いの実施 祝日祝いの実施 祝日祝いの実施	→ → → → →	→ → → → →	→ → → → →	→ → → → →	・不足している食器がないか確認され、物置不足以ある食器の購入であります。 ・新規食器の購入であります。しかし反映し季節感を生じさせた。
6	(4)	①関係施設との連携機能の強化 ②各部門の人員配置の実施 ③年次会議の実施	計画 各会議 の参加 の問題点 の改善 実施 実施	→ → →	→ → →	B	各会議 の問題点 の改善 実施 実施	→ → →	→ → →	→ → →	→ → →	・定期的に情報の共有が されており、各会議への参加による問題点を改善できる。 ・定期的に情報の共有が されており、各会議への参加による問題点を改善できる。
7	(5)	①ご利用者に対する安全安心・満足して届ける食事提供のため、季節感のない食事への交換、交換券への販売。 ②各部門の会議にて問題点の発見、改善に努める。 ③食事の提供	計画 計画 計画	→ → →	→ → →	B	食材取扱 作成の実施 原価の実施 作成	→ → →	→ → →	→ → →	→ → →	・独立厨房が予算内であったか ・金利支拂額が年間で予算内であつたか ・金利支拂額が支拂った。